

# 第31回日本緩和医療学会学術大会

## 目次

大会長講演 (PL) .....	S1
基調講演 (KL) .....	S1
特別講演 (SL) .....	S1
Meet the Expert (ME) .....	S1
大会長企画シンポジウム (PSY) .....	S2
教育講演 (EL) .....	S3
合同シンポジウム (JSY) .....	S4
シンポジウム (SY) .....	S9
パネルディスカッション (PD) .....	S14
ワークショップ (WS) .....	S18
委員会企画 (CM) .....	S19
APHN/JSPM Joint Session .....	S22
TIPS (TIPS) .....	S23
ランチョンセミナー (LS) .....	S24
スポンサードセミナー (SS) .....	S27
共催シンポジウム (SSY) .....	S27
PAL ランチョンセミナー (PAL) .....	S28
PAL 企画 (PAL) .....	S28
交流集会 (EM) .....	S28
市民公開講座 .....	S32
最優秀演題 .....	S32
優秀演題 .....	S32
一般演題ポスター .....	S37

## 大会長講演

PL  
こえをきき、ともにつくる

6月19日(金) 8:30～9:00  
第1会場

座長：木澤義之（筑波大学 医学医療系）

演者：こえをきき、ともにつくる  
余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

## 基調講演

KL  
身寄りのない人の医療の現状と意思決定

6月19日(金) 9:05～10:05  
第1会場

座長：余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

演者：身寄りのない人の医療の現状と意思決定  
山縣 然太郎（国立成育医療研究センター成育こどもシンクタンク／山梨大学大学院附属出生コホート研究センター）

## 特別講演

SL1  
「こえ」をかたちづくるもの、「聴くこと」がもたらしうるもの

6月20日(土) 14:30～15:30  
第1会場

座長：余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

演者：「こえ」をかたちづくるもの、「聴くこと」がもたらしうるもの  
山口 有紗（国立成育医療研究センター、子どもの虐待防止センター）

SL2  
信頼はどこから生まれるか—好奇心・互恵性・透明性がつくるコミュニティ・レジリエンスの基盤  
Building Trust from the Ground Up: Curiosity, Reciprocity, and Transparency as Foundations for Community Resilience

6月20日(土) 15:35～16:35

第1会場

※こちらのプログラムは、日本語でのセッションとなります。

座長：余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

演者：信頼はどこから生まれるか—好奇心・互恵性・透明性がつくるコミュニティ・レジリエンスの基盤  
Building Trust from the Ground Up: Curiosity, Reciprocity, and Transparency as Foundations for Community Resilience  
Elizabeth Miller（国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター）

## Meet the Expert

ME1  
Supportive care of children and young people dying from cancer and non-cancer conditions

6月19日(金) 12:30～13:20  
第5会場

座長：余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

演者：Supportive care of children and young people dying from cancer and non-cancer conditions  
Poh Heng Chong (HCA Hospice, Singapore)

AI 通訳

\* 発言言語：英語

ME2

6月20日(土) 12:15～13:05

UK Pediatric Hospice Care: Clinical Initiatives at Helen House

～ A Continuum of Care: From Perinatal Support to Respite and End-of-Life Care ～ 第5会場

座長：余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）  
上田 一仁（名古屋大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター 新生児部門）

AI 通訳

\* 発表言語：英語

演者：Emily Harrop（Helen & Douglas House and Oxford University Hospitals）  
Michaela Griffiths（Helen & Douglas House and Oxford University Hospitals）

## 大会長企画シンポジウム

PSY1

6月19日(金) 10:40～12:10

腎不全の緩和ケア

第1会場

座長：大武 陽一（たけお内科クリニック からだと心の診療所）  
山本 亮（佐久総合病院 佐久医療センター）

演者：腎不全患者の症状緩和のためのケアに関する取組について  
藤村 実穂（厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課）

高齢腎不全患者に対する保存的腎臓療法（CKM）  
柏原 直樹（川崎医科大学高齢者医療センター）

日本透析医学会「末期腎不全患者の緩和ケアに関する提言」作成過程  
酒井 謙（東邦大学医学部腎臓学講座）

腎不全患者のための緩和ケアガイドンスについて  
大武 陽一（たけお内科クリニック からだと心の診療所）

PSY2

6月19日(金) 13:35～15:05

がん医療に携わる少数派だけど、大切な職種の未来を考える

第9会場

座長：白石 恵子（国立病院機構九州がんセンター）  
櫻井 卓郎（国立がん研究センター中央病院 リハビリテーション室）

演者：がん医療に携わる「管理栄養士」の未来を考える  
須永 将広（国立がん研究センター東病院 栄養管理室）

少数派としての医療ソーシャルワーカーの実践～「生活」から医療を捉え、患者の「意思実現」を支える多職種連携の未来を展望する～  
北嶋 晴彦（地方独立行政法人 大牟田市立病院）

総合病院における公認心理師へのニーズと多職種協働の工夫  
岩田 道子（JA 岐阜厚生連 岐阜・西濃医療センター 西濃厚生病院）

パネリスト：堀口 葉子（国立がん研究センター中央病院（緩和医療科））

PSY3

6月20日(土) 8:45～10:15

臓器移植×緩和ケア

第6会場

座長：木澤 義之（筑波大学 医学医療系）  
加藤 茜（山梨県立大学）

演者：我が国における脳死下臓器移植の実際と今後の方向性  
塚原 紘平（岡山大学病院高度救命救急センター）

脳死下臓器移植における現場での葛藤  
五十嵐 佑子（大阪府済生会千里病院）

小児脳死下臓器提供の課題と緩和ケアとの協働の実際  
松本 正太郎（国立成育医療研究センター集中治療科）

**PSY4**  
**最善の利益について考える**

6月20日(土) 10:30～11:30  
第1会場

座長：神谷 浩平（一般社団法人 MY wells 地域ケア工房）

演者：最善の利益について考える ― 共に歩む中で考える最善の利益 ―  
桑田 美代子（医療法人社団慶成会青梅慶友病院）

「最善の利益」をめぐる個別性と普遍性  
笹月 桃子（早稲田大学 人間科学学術院）

**教育講演**

**EL1**  
**こどものこえを聴く際に大切にしたいこと**

6月19日(金) 9:05～10:05  
第4会場

座長：松岡 真里（三重大学大学院医学系研究科看護学専攻）

演者：こどもの“心”の声を聴くこと ～ Celebrate Life ～  
佐々木 美和（名古屋大学医学部附属病院小児がん治療センター／認定 NPO 法人愛知こどもホスピスプロジェクト）

**EL2**  
**緩和ケアのチーム運営入門：迷いの多い現場を前に進める「対話」と「役割」のつくり方**

6月19日(金) 10:50～11:50  
第10会場

座長：三好 祐輔（神戸市立医療センター中央市民病院 緩和ケア内科）

演者：緩和ケアのチーム運営入門：迷いの多い現場を前に進める「対話」と「役割」のつくり方  
江草 典政（島根大学医学部附属病院リハビリテーション部）

**EL3**  
**新しい概念：ポジティブヘルスとは何か？  
～患者主導のがん診療への新しい道しるべ～医療だけで人を幸せにしようとしな**

6月19日(金) 10:50～11:50  
第13会場

座長：青山 真帆（山形県立保健医療大学大学院保健医療研究科）

演者：新しい概念：ポジティブヘルスとは何か？～患者主導のがん診療への新しい道しるべ～医療だけで人を幸せにしようとしな  
紅谷 浩之（医療法人社団オレンジ）

**EL4**  
**知的障害がある方の意思決定支援**

6月19日(金) 13:35～14:35  
第2会場

座長：松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科）

演者：知的障害を有する方の現状を知り、その延長にある意思決定を支援する  
佐々木 史（市立函館病院精神神経科）

**EL5**  
**Unavoidable pressure injury：UPI とは何か？**

6月19日(金) 15:20～16:20  
第2会場

座長：大江 秀一（大阪国際がんセンター腫瘍皮膚科）

演者：がんの緩和医療における UPI 対応の核心  
青木 和恵（静岡県立静岡がんセンター）

**EL6**  
**末期肝疾患における緩和ケア**

6月19日(金) 15:20～16:20  
第7会場

座長：村瀬 樹太郎（東京慈恵会医科大学西部医療センター）

演者：末期肝疾患における緩和ケア  
結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科 / 消化器内科 / 横浜市立大学医学部大学院 肝胆膵消化器病学教室）

演者：肝不全の在宅医療  
磯崎 哲男（小磯診療所）

**EL7**  
**悪心・嘔吐の緩和ケア Update**

6月20日(土) 10:30～11:30  
第3会場

座長：横道 直佑（聖隷三方原病院 緩和支援診療科）

演者：オピオイド治療における悪心・嘔吐症  
濱野 淳（筑波大学 医学医療系）

「難治性悪心」にどう立ち向かうか？

見見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科／順天堂大学大学院医学系研究科緩和医療学）

**EL8**  
**疼痛緩和と腫瘍神経科学：神経ネットワークから捉えるがん関連疼痛とがん治療**

6月20日(土) 10:30～11:30  
第5会場

座長：石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）

演者：疼痛緩和と腫瘍神経科学：神経ネットワークから捉えるがん関連疼痛とがん治療  
成田 年（星薬科大学 薬理学研究室／国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究ユニット）

**EL9**  
**深刻さの中のユーモア——“死”と“笑い”が同居するとき**

6月20日(土) 10:30～11:30  
第13会場

座長：大谷 弘行（聖マリア病院 緩和ケア内科）

演者：進行・終末期にもかかわらずユーモアは必要なのか否か  
上村 恵一（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 精神科）

## 合同シンポジウム

**JSY1**  
**がんによる症状緩和のための放射線治療ガイドライン 2026 ～もう迷わない緩和照射の適応判断と実践** 第9会場  
【公益社団法人日本放射線腫瘍学会】

6月19日(金) 9:05～10:35

座長：松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）  
塩山 善之（九州国際重粒子線がん治療センター）

演者：がんによる症状の緩和のための放射線治療ガイドラインの概要と策定プロセス  
高橋 健夫（埼玉医科大学総合医療センター放射線腫瘍科）

推奨の要点：臨床判断を支える10のCQ  
齋藤 哲雄（済生会熊本病院総合腫瘍科）

緩和的放射線治療ガイドラインが緩和ケア医に求めること  
平塚 裕介（竹田総合病院緩和医療科／東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）

緩和的放射線治療の支持療法  
石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）

**JSY2**  
**心不全患者の「こころ」と「からだ」に寄り添うケア  
—サイコカーディオロジーの視点から考える循環器緩和ケア—** 第13会場  
【日本サイコカーディオロジー学会】

6月19日(金) 9:05～10:35

座長：大石 醒悟（医療法人社団 まほし会 真星病院）  
中島 菜穂子（久留米大学病院 看護部）

演者：概論：心と心臓をつなぐ - サイコカーディオロジーとは  
大石 醒悟（医療法人社団 まほし会 真星病院）

急性期循環器治療における患者の精神的苦痛と医療者のかかわり  
柴田 龍宏（久留米大学 心臓・血管内科）

心不全患者への意思決定支援と精神的ケア  
河野 由枝（国立循環器病研究センター 看護部）

心不全患者への心理的・社会的支援

庵地 雄太（国立循環器病研究センター 心不全・移植部門）

JSY3

6月19日(金) 10:40～12:10

今、知っておきたい非がん性呼吸器疾患に対する緩和ケア

第2会場

【一般社団法人日本呼吸器学会／一般社団法人日本呼吸ケア・リハビリテーション学会】

座長：富井 啓介（神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科）  
山口 崇（甲南医療センター 緩和ケア内科）

演者：緩和医療に携わる医療者に知っておいてほしい呼吸器診療のキ・ホ・ン  
立川 良（神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科）

呼吸器内科専門医・患者・遺族の緩和ケアに対するホ・ン・ネ  
藤澤 朋幸（浜松医科大学 内科学第二講座）

非がん性呼吸器疾患の緩和ケアに対するホ・ケ・ン  
津田 徹（霧ヶ丘つだ病院）

非がん性呼吸器疾患に対する緩和ケア、緩和ケアに携わる医療者はどうする？  
松田 能宣（国立病院機構近畿中央呼吸器センター心療内科）

JSY4

6月19日(金) 10:50～11:50

症例を通して心身医学的診かたを学ぼうよ：

ドクター Otani と 4 人の論客—緩和医療と心身医学が交わる場所に見えるもの—こころとからだを診る、そのあいを診る 第8会場

【一般社団法人日本心身医学会】

座長：大谷 弘行（聖マリア病院 緩和ケア内科）

演者：診るのは症状か、物語か—見立てが崩れる瞬間から始める（症例提示）  
黒田 綾（神戸赤十字病院心療内科）

診断名の外側へ—「まだ言葉になっていない苦痛」を追う  
森崎 悠紀子（九州大学病院 がんセンター 緩和ケアチーム）

傷つきの構造を読む—こころの地図を描き直す  
加藤 文恵（関西医科大学心療内科学講座 松原徳洲会病院緩和ケアチーム）

小さな違和感が、見立てを救う—ベッドサイドは真理の最前線  
市原 香織（淀川キリスト教病院）

JSY5

6月19日(金) 13:35～15:05

「救急・集中治療における生命維持治療終了 / 差し控えに関する 4 学会のガイドライン」における

「緩和ケア別編」ハイライト 第1会場

【一般社団法人日本集中治療医学会】

座長：木澤 義之（筑波大学 医学医療系）  
石上 雄一郎（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

演者：「緩和ケア別編」ハイライト①：基本的緩和ケアと包括的緩和ケア  
五十嵐 佑子（大阪府済生会千里病院 緩和支援治療科）

「緩和ケア別編」ハイライト②：症状緩和  
石上 雄一郎（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

「緩和ケア別編」ハイライト③家族と医療者へのケア  
宇都宮 明美（関西医科大学看護学部・看護学研究科治療看護分野クリティカルケア看護学領域）

「緩和ケア別編」ハイライト④：倫理的側面について  
会田 薫子（東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣講座）

「緩和ケア別編」ハイライト⑤：法的側面について  
佐伯 仁志（中央大学法務研究科）

JSY6

緩和ケア医も知っておくべき がん治療に伴う副作用・関連症状マネジメント  
【公益社団法人日本臨床腫瘍学会】

6月19日(金) 13:35～15:05  
第3会場

座長：井上 彰（東北大学大学院医学系研究科 緩和医療学分野）  
藤阪 保仁（大阪医科薬科大学医学部 内科学講座腫瘍内科学）

演者：CAR-T/二重特異性抗体治療に伴う急性期免疫関連合併症の理解と実践的対応  
多田 雄真（大阪国際がんセンター 血液内科）

精神症状緩和の際の病態評価を再考する～治療関連有害事象を中心に～  
中川 夏樹（国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科）

「免疫バランス」から考えるがん治療の有害事象マネジメント  
西森 久和（広島市立広島市民病院 血液内科）

ICIによる免疫関連有害事象が示す緩和ケアへの新たな臨床的視点  
吉田 達哉（国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科／先端医療科）

JSY7

がんサバイバーの慢性疼痛治療のセミナー ～事例検討を中心に～  
【一般社団法人日本ペインクリニック学会】

6月19日(金) 15:20～16:50  
第8会場

座長：山口 重樹（獨協医科大学）  
間宮 敬子（信州大学医学部附属病院）

演者：がんサバイバーの痛みとは  
山本 兼二（独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター 緩和ケア内科）

がんサバイバーにおける痛みの評価  
杉山 陽子（中部国際医療センター 麻酔・疼痛・侵襲制御センター）

オピオイド鎮痛薬の適正使用  
上野 博司（パナソニック健康保険組合 松下記念病院 緩和ケア内科）

オピオイド鎮痛薬以外のアプローチ  
小杉 寿文（佐賀県医療センター好生館緩和ケア科）

JSY8

がんサポーターケアの最前線  
【一般社団法人 日本がんサポーターケア学会】

6月19日(金) 15:20～16:50  
第14会場

座長：今井 芳枝（徳島大学大学院医歯薬学研究所）  
岡本 禎晃（敦賀市立看護大学）

演者：免疫関連有害事象（irAE）のケアの最前線  
内藤 陽一（国立がん研究センター東病院 総合内科）

化学療法誘発性末梢神経障害のマネジメント  
華井 明子（千葉大学 情報・データサイエンス学部）

統合医療の最前線  
石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）

がんサポーターケアにおける身体活動・運動療法の最前線  
井上 順一郎（神戸大学医学部附属病院リハビリテーション部）

がんサポーターケアの実装を支える相談支援の最前線  
坂本 はと恵（国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 サポーターケアセンター）

JSY9

併存症をもつがん患者に対するエンドオブライフ期の緩和ケアの課題と展望  
【一般社団法人日本がん看護学会】

6月20日(土) 8:45～10:15  
第7会場

座長：藤田 佐和（高知県立大学）  
矢ヶ崎 香（慶應義塾大学看護医療学部）

演者：がんと心不全を併存する患者のエンドオブライフケアにおける課題と実践  
久理田 和代（兵庫県立はりま姫路総合医療センター）

末期心不全患者に対するのエンドオブライフ期の緩和ケアの課題と実践（在宅看護の立場から）  
平山 司樹（医療法人葛西医院 訪問看護ステーションかっさい）

がんと腎不全を併存する患者に対するエンドオブライフ期の緩和ケアの課題と実践  
卯野木 理紗子（横浜市立市民病院 看護部 外来）

“自分で決める人生”を支えるために—慢性腎臓病保存期から始める緩和ケアとチーム医療—  
植木 博子（公立福生病院腎臓病総合医療センター／公立福生病院看護部）

**JSY10**  
**集中治療×心不全の緩和ケアをそれぞれの立場から考える**  
**【一般社団法人日本心不全学会】**

6月20日(土) 8:45～10:15  
第14会場

座長：坂下 明大（兵庫県立はりま姫路総合医療センター）  
井谷 嘉男（宇治徳洲会病院 緩和ケア内科）

演者：集中治療を要する重症心不全患者への緩和ケアチームの関わり（心臓移植/DT 実施施設の循環器内科医の立場から）  
坂本 陽子（大阪大学大学院医学系研究科循環器内科）

重症心不全を含む集中治療領域における緩和ケアの実践と課題  
三好 祐輔（神戸市立医療センター中央市民病院 緩和ケア内科）

急性期医療における心不全緩和ケアの実際と葛藤 — 看護師の視点から —  
中島 菜穂子（久留米大学病院 看護部）

**JSY11**  
**転移性骨・軟部腫瘍による難治性疼痛に挑む～専門家の知恵と将来展望～**  
**【一般社団法人日本インターベンショナルラジオロジー学会】**

6月20日(土) 13:20～14:50  
第2会場

座長：曾根 美雪（国立がん研究センター中央病院 放射線診断科・IVR センター）  
森 雅紀（聖隷三方原病院 緩和支持治療科）

演者：転移性骨・軟部腫瘍による痛みに対する治療戦略  
松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）

IVR 医の立場；緩和ケア医や放射線治療医との連携  
西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR 学講座、緩和ケアセンター）

難治性がん疼痛に対する放射線治療の役割  
東家 亮（長崎大学 放射線診断治療学分野）

転移性骨軟部腫瘍の症状緩和にIVRで出来ること  
荒井 保典（国立がん研究センター 東病院 放射線診断科）

**JSY12**  
**医学部卒前教育における緩和ケア教育 一次のモデル・コア・カリキュラムに向けて—**  
**【一般社団法人日本医学教育学会】**

6月20日(土) 15:05～16:35  
第11会場

座長：橋口 さおり（聖マリアンナ医科大学緩和医療学講座）  
中村 陽一（東邦大学医学部 臨床腫瘍学講座 緩和医療学分野）

演者：アウトカム基盤型教育における卒前緩和ケア教育 何を、どのように教育すべきか—  
岡崎 史子（新潟大学医学部医学教育学分野）

医学教育的視点からみた系統的卒前緩和ケア教育導入への提言  
駒澤 伸泰（香川大学医学部地域医療共育推進オフィス・医学教育学）

本院と分院で連携して行う緩和ケアの卒前教育  
森山 久美（川崎市立多摩病院 緩和ケア内科／聖マリアンナ医科大学 緩和医療学講座）

緩和ケア病棟を併設した大学病院での緩和ケア卒前教育  
木村 祐輔（岩手医科大学緩和医療学科）

緩和ケアチーム主体で担う緩和ケア卒前教育  
徳原 真（東海大学医学部緩和医療学）

座長：桑田 美代子（医療法人社団慶成会 青梅慶友病院）

演者：超高齢者を対象にした緩和ケアの考え方

坂井 さゆり（新潟大学大学院保健学研究科）

超高齢者の症状マネジメントにおいて重要な視点

西山 みどり（有馬温泉病院）

日々のケアがACP

吉岡 佐知子（松江市立病院）

## 合同シンポジウム（オンデマンド配信）

### JSY14

がんと糖尿病～ターミナルケアとしての血糖マネジメント～

【一般社団法人日本糖尿病医療学会】

オンデマンド配信

座長：石井 均（市立奈良病院 教育研修センター／糖尿病・内分泌内科）

森 雅紀（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）

演者：がん終末期の糖尿病マネジメント

大橋 健（国立がん研究センター中央病院 糖尿病腫瘍科）

症例から考えるターミナル期における血糖測定とインスリン注射の意味

山崎 真裕（京都第二赤十字病院 代謝・内分泌内科）

がんの医療学からみた糖尿病

東 光久（大阪南医療センター総合診療科）

緩和ケアにおけるターミナル期の血糖マネジメント ～疾患、物語、関係性、倫理が会うとき～

神谷 浩平（一般社団法人 MY wells 地域ケア工房）

がんと糖尿病の医療学の統合

石井 均（市立奈良病院 教育研修センター 兼 糖尿病・内分泌内科）

### JSY15

麻酔科医が伝えたいこと ～知っておいてほしい周術期のオピオイド管理と神経ブロック～

【公益社団法人日本麻酔科学会】

オンデマンド配信

座長：橋口 さおり（聖マリアンナ医科大学緩和医療学講座）

佐藤 哲観（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

演者：文献から紐解く周術期のオピオイド管理

伊原 奈帆（慶應義塾大学医学部麻酔学教室／慶應義塾大学病院緩和ケアセンター）

実臨床での周術期のオピオイド管理

田中 成明（信州大学医学部附属病院 信州がんセンター 緩和ケアセンター／信州大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科）

神経ブロック総論、トリガーポイント注射、筋膜リリース注射

谷口 彩乃（京都府立医科大学 麻酔科学教室）

神経破壊薬を使用した神経ブロック

柳泉 亮太（横浜市立大学附属病院緩和医療科）

知っておいてほしい神経ブロック — がん疼痛に対する脊髄鎮痛法の適応と実践

前 知子（中部徳洲会病院 疼痛治療科）

## JSY16

### 緩和医療に携わる人にもっと知ってほしい骨転移へのアプローチ 【特定非営利活動法人日本骨転移研究会】

オンデマンド配信

座長：松本 禎久（がん研究会 有明病院 緩和治療科）  
余宮 きのみ（広島市立広島市民病院 緩和ケア科）

演者：骨転移診療において緩和医療従事者ができること ～骨転移チーム医療における緩和医療従事者の役割～  
佐藤 信吾（東京科学大学病院 がん先端治療部・緩和ケア科／東京科学大学病院 緩和ケアセンター／東京科学大学病院 整形外科）

もっと知ってほしい骨転移の看護  
山本 桂子（大阪医科薬科大学大学院看護学研究科）

もっと知ってほしい骨転移のリハビリテーション  
祝 広香（慶應義塾大学病院 リハビリテーション科）

もっと知ってほしい骨転移の薬物療法  
佐藤 淳也（湘南医療大学 薬学部薬物治療学研究室）

緩和医療に携わる人にもっと知ってほしい骨転移へのアプローチ—放射線治療医の立場から—  
永倉 久泰（KKR 札幌医療センター 放射線科）

もっと知ってほしい骨転移の緩和的外科治療  
大島 和也（大阪警察病院 脊椎・脊髄センター）

## JSY17

### 小児在宅医療を担う人材を育てるには～2 学会合同シンポジウム～ 【一般財団法人日本小児在宅医学会】

オンデマンド配信

座長：富田 直（東京都立小児総合医療センター 在宅診療科）  
宮田 章子（さいわいこどもクリニック）

演者：小児在宅医療の特徴と人材育成  
宮本 二郎（Kukuru きっずクリニック）

東京における小児在宅医療の実践 子ども在宅クリニックの立場から  
石渡 久子（医療法人財団はるたか会 あおぞら診療所せたがや）

内科医と小児科医がいる在宅クリニックの立場から  
藤沼 澄江（赤羽在宅クリニック・大宮在宅クリニック）

北海道における小児緩和医療と小児在宅医療の現状  
長 祐子（北海道大学病院）

地域に根差した小児緩和ケアを担う多様な人材を育む  
多田羅 竜平（大阪市立総合医療センター緩和ケア内科・緩和ケアセンター）

## シンポジウム

### SY1

#### 苦痛の源を探る — 明日から役立つ！心とからだを読み解く心身医学的チームアプローチ

6月19日(金) 9:05～10:35

第3会場

座長：蓮尾 英明（関西医科大学心療内科学講座）

演者：緩和ケアにおける心身医学的チームアプローチの入口 ①良好な治療関係の構築  
白井 由紀（関西医科大学 看護学部・看護学研究科）

緩和ケアにおける病態仮説の構築：②病態の心身両面からの評価  
松田 能宣（国立病院機構近畿中央呼吸器センター心療内科）

Difficult Patients への心身医学的アプローチ：心身相関への洞察と臨床 TIPS  
松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院 支持・緩和医療開発部門／精神腫瘍科）

心身医学的理解を踏まえたがん患者との関わりにおける工夫 ④心身相関の治療への応用  
塚野 佳世子（横浜労災病院心療内科）

**SY2****がん疼痛ガイドライン改訂の解説**6月19日(金) 9:05～10:35  
第6会場

座長：馬渡 弘典（横浜南共済病院 緩和支援療法科）  
余宮 きのみ（広島市立広島市民病院 緩和ケア科）

演者：がん疼痛ガイドライン改訂における薬物療法のエビデンス再評価：非オピオイド、オピオイドおよび副作用対策  
結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科 / 消化器内科 / 横浜市立大学医学部大学院 肝胆膵消化器病学教室）

がん疼痛ガイドライン改訂：鎮痛補助薬におけるエビデンスの偏在と臨床的解釈の課題  
武井 大輔（埼玉県立がんセンター薬剤部）

エビデンスに基づいたがん疼痛に対するオピオイド使用の個別化  
中川 夏樹（国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科）

**SY3****死を前にしても、人は歩き 食べ 出かけたがたい ～生きる営みを守り抜いた医療者たちの挑戦物語～**6月19日(金) 9:05～10:35  
第10会場

座長：白石 恵子（国立病院機構九州がんセンター）  
中村 俊彦（公立学校共済組合 九州中央病院）

演者：終末期における「食べること」の意味と支援 — 患者・家族・医療者の視点からの検討  
佐々木 まなみ（東北大学病院緩和医療科）

『終末期リハビリテーション—最期までその人らしくあるための実践—』  
天野 毅（医療法人社団 永生会 みなみ野病院 医療技術部 リハビリテーション科）

あきらめていた「行きたい」を叶える外出・旅行支援 —終末期における実践と可能性—  
坂野 恵里（株式会社 ReTabby）

建築計画の観点から終末期療養を考える ～「生活」「医療・ケア」「死との向き合い」の3つの視点～  
小田 浩之（東京都立大学大学院都市環境科学研究科 / 北見赤十字病院緩和ケア内科）

**SY4****私たちが取り組める遺族支援**6月19日(金) 10:40～12:10  
第3会場

座長：宮島 加耶（聖マリアンナ医科大学緩和医療学講座）  
栗原 幸江（上智大学グリーフケア研究所 / 認定 NPO 法人マギーズ東京 / 駒込病院緩和ケア科）

演者：遺族ケアガイドラインの開発・改訂と今後の課題  
松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院 支持・緩和医療開発部門 / 精神腫瘍科）

病院での遺族支援—遺族外来の取り組み—  
大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科）

地域で行っている遺族ケアの実際と遺族が求めるケアで私達ができることは？  
濱本 千春（YMCA 訪問看護ステーション・ピース）

地域コミュニティでの遺族支援  
坂口 幸弘（関西学院大学人間福祉学部人間科学科）

**SY5****非がん疾患の小児緩和ケア**6月19日(金) 10:40～12:10  
第4会場

座長：上田 一仁（名古屋大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター 新生児部門）  
横須賀 とも子（神奈川県立こども医療センター 緩和ケア普及室 血液・腫瘍科）

演者：＜今＞を支える周産期緩和ケア  
勝又 薫（神奈川県立こども医療センター新生児科）

ICUにおける小児緩和ケアの課題  
制野 勇介（国立循環器病研究センター 集中治療科）

長期的視点から考える先天性心疾患の緩和ケア  
秋山 直美（筑波大学 医学医療系 看護・健康科学域）

在宅・地域における非がん疾患の小児緩和ケア  
土島 智幸（医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ）

**SY6****小児緩和ケアのこれからを考える**

6月19日(金) 13:35～15:05

第4会場

座長：余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）  
濱野 淳（筑波大学 医学医療系）

演者：これからの小児医療における緩和ケアの役割  
余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

小児医療における緩和ケアのこれから—子どもと家族に寄り添う包括的支援を考える—  
滝田 順子（京都大学大学院医学研究科 発達小児科）

緩和ケアが必要な子どもを支える「子どもホスピス」の地域展開に関する国のこれまで取組と今後の展開  
安里 賀奈子（子ども家庭庁成育局成育環境課）

Child Death Review (CDR) のモデル事業の取り組み紹介と内因死に関する実態検討  
竹原 健二（国立成育医療研究センター研究所政策科学研究部）

**SY7****患者の苦悩、精神・心理症状のカルテ記載どうする？**

6月19日(金) 13:35～14:35

第13会場

座長：松田 能宣（国立病院機構近畿中央呼吸器センター）

演者：精神的ケアにおけるカルテ記載は関係スタッフへのメッセージです！  
清水 研（がん研有明病院腫瘍精神科）

心理士のカルテ記載は何を伝えるのか—患者の語りと共有のあいだで—  
榎場 美穂（静岡県立静岡がんセンター緩和医療科）

「ケアを生起する」記録とは  
佐久間 博子（関西医科大学附属病院 緩和ケアセンター）

**SY8****小児がん患者の意思決定支援**

6月19日(金) 15:20～16:50

第4会場

座長：小澤 美和（聖路加国際病院 小児科）  
榎場 美穂（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

演者：小児緩和ケアの意思決定における行動経済学とナッジの活用  
多田 羅 竜平（大阪市立総合医療センター緩和ケア内科・緩和ケアセンター）

子どもと家族の意思決定を支援する—看護の役割—  
松岡 真里（三重大学大学院医学系研究科看護学専攻）

その子らしい在り方を大切に意思決定支援について考える  
村瀬 有紀子（東京科学大学病院小児科）

在宅医療における意思決定支援  
大隅 朋生（医療法人財団はるたか会 あおぞら診療所 / 国立成育医療研究センター 小児がんセンター）

**SY9****災害時の緩和ケア(地域で行うBCP)**

6月19日(金) 15:20～16:50

第13会場

座長：大武 陽一（たけお内科クリニック からだと心の診療所）  
名古屋 祐子（宮城大学看護学群）

演者：災害時におけるがん患者の医療・ケア支援の課題と示唆—東日本大震災の経験から—  
菅野 喜久子（株式会社アンビス 医心館仙台八乙女 地域連携部）

地域BCPのススメ  
山岸 暁美（コミュニティヘルス研究機構 / 慶應義塾大学医学部公衆衛生学教室）

医療的ケア児と家族のいのちと暮らしを守る小さな一歩～地域のつながりと避難練習の取り組み～  
高橋 昭彦（ひばりクリニック / 特定非営利活動法人うりずん / 栃木県医療的ケア児等支援センターくるん）

**SY10**  
**中枢神経症状への多職種アプローチ～最後まで尊厳と QOL を維持するために**

6月20日(土) 8:45～10:15  
第1会場

座長：高野 利実（がん研有明病院 乳腺内科）

演者：中枢神経症状の理解とアプローチ—医学的視点から  
羽多野 裕（厚生会吉田病院内科・地域緩和ケアサポートきずな）

原発性悪性脳腫瘍患者の尊厳を支える意思決定支援の現状と課題  
近田 藍（京都府立医科大学医学部看護学科 大学院保健看護学研究科 基礎看護学）

中枢神経症状を有する脳腫瘍患者への生活支援：リハビリテーション医療の視点から  
阿瀬 寛幸（順天堂東京江東高齢者医療センター リハビリテーション科／順天堂大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学講座）

自宅療養を継続するための中枢神経症状緩和～患者・ご家族の希望を尊重して～  
佐久間 詠理（医療法人社団淳友会 わたクリニック）

**SY11**  
**AYA 世代、特に 10 代 20 代の患者とのかかわりについて考える**

6月20日(土) 8:45～10:15  
第4会場

座長：佐藤 篤（宮城県立こども病院 血液腫瘍科）  
酒見 惇子（神戸大学医学部附属病院）

演者：3人の10代がん患者への支援から在宅緩和ケアの役割を考える  
出水 明（医療法人出水クリニック）

10代20代にあるAYA世代患者との対話～彼らの揺らぎを尊重し希望を支えるということ～  
竹之内 直子（京都府立医科大学附属病院 看護部）

制度のはざまにあるAYA世代の生活を支援する—MSWの立場から—  
坂本 はと恵（国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 サポートケアセンター）

**SY12**  
**補完代替療法のアップデート**

6月20日(土) 8:45～9:45  
第9会場

座長：大野 智（島根大学医学部附属病院 臨床研究センター／緩和ケアセンター）

演者：患者はなぜ補完代替療法を用いるのか—希望を保つ行動としての理解とコミュニケーション—  
鈴木 梢（がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケア科）

緩和医療における補完代替療法の可能性—レイキ・アロマ・音楽療法・対話を通じて—  
大西 佳子（京都市立病院 緩和ケア科）

QOLの維持向上を目指す包括的アプローチとしての補完代替療法  
宇野 さつき（ファミリー・ホスピス株式会社 品質管理部）

**SY13**  
**変わらなければ未来はない—緩和ケア病棟の存在意義を問う**

6月20日(土) 10:30～12:00  
第8会場

座長：変わらなければ未来はない～この攻めたタイトルに寄せて～  
長岡 広香（がん・感染症センター 都立駒込病院）  
野口 久美子（独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター）

演者：変わりゆく社会における緩和ケア病棟の課題と存在意義  
安保 博文（六甲病院緩和ケア内科）

患者は、家族は、何に期待して緩和ケアを選ぶのか—がん相談支援から見えたもの—  
品田 雄市（東京医科大学八王子医療センター）

地域医療の中で緩和ケア病棟はどう在るべきか  
八戸 すず（みなみ野病院 緩和ケア科／順天堂大学医学部緩和医療学研究室）

SY14

疼痛と医療経済：社会に与えるインパクト

6月20日(土) 10:30～11:30

第14会場

座長：本多 和典（愛知県立がんセンター 薬物療法部）

演者：慢性疼痛が日常生活や就労に及ぼす影響について

田邊 豊（順天堂大学医学部附属練馬病院 がん治療センター／麻酔科・ペインクリニック）

がん患者における経済毒性とQOLの関連

本多 和典（愛知県がんセンター薬物療法部）

がん患者における経済毒性の実態と相談体制に関する検討：がん患者1,117名のアンケート調査結果より

古賀 真美（NPO 法人がんネットジャパン）

SY15

グリーフケアについて考える

6月20日(土) 13:20～14:50

第4会場

座長：名古屋 祐子（宮城大学看護学群）

尾形 明子（広島大学大学院人間社会科学研究所）

演者：小児がんを取り巻くグリーフの捉え方と支援の在り方

白石 恵子（独立行政法人国立病院機構九州がんセンターサイコオンコロジー科）

がんで親を亡くす子ども～診断の日から始まる日常の喪失と支援～

赤川 祐子（秋田大学大学院医学系研究科）

こどもを亡くす親へのグリーフケアと地域支援者のケア～当センターの活動を通して～

井倉 千佳（三重大学医学部附属病院小児・AYAがんトータルケアセンター）

SY16

終末期の在宅輸血を安全に行うために

6月20日(土) 15:05～16:35

第5会場

座長：森 尚子（東京都立小児総合医療センター 緩和ケア科）

永野 牧郎（医療法人社団ときわ 大宮在宅クリニック）

演者：終末期がん患者の緩和ケアとして在宅赤血球輸血は本当に必要か？ - 札幌発の最新エビデンスを添えて -

宮下 直洋（HOME CARE CLINIC N-CONCEPT）

本邦の終末期小児がん患者に対する在宅輸血に関する実態調査

西川 英里（都立小児総合医療センター緩和ケア科）

在宅輸血におけるケアの質の評価と今後の課題・展望について

大橋 晃太（トータス往診クリニック／NPO 血液在宅ねっと）

SY17

緩和ケア 今年の推し論文はこれだっ！

6月20日(土) 15:05～16:35

第6会場

座長：采野 優（神戸大学医学部附属病院 緩和支援治療科）

演者：私の推し論文

松田 能宣（国立病院機構近畿中央呼吸器センター心療内科）

私の推し論文—日本発、世界へ

青山 真帆（山形県立保健医療大学）

緩和医療における推し論文：ここまで進んだ、緩和医療のデジタル化、AI利用の現状

佐藤 淳也（湘南医療大学 薬学部薬物治療学研究室）

運動療法は、骨転移を有するがん患者の身体機能と日常生活動作を安全に向上させることができるか？—骨転移患者の

運動療法に関するシステマティックレビューの知見から—

尾関 伸哉（南天訪問看護ステーション）

死別後の「成長」をどう捉えるか—遺族支援におけるPTG概念の臨床的再考—

山田 美紗子（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院臨床心理部）

**SY18**  
**専門的がん疼痛治療 / 緩和ケア遠隔コンサルテーションの試み**

6月20日(土) 15:05 ~ 16:35  
第7会場

座長：松本 禎久（がん研究会 有明病院 緩和治療科）  
里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

演者：専門的がん疼痛治療と遠隔コンサルテーション CHALLENGE-Campaign  
里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科 / 順天堂大学大学院医学系研究科緩和医療学）

京都府におけるがん疼痛に対する神経ブロック提供の取り組み  
上野 博司（パナソニック健康保険組合 松下記念病院 緩和ケア内科）

ONE SPACE WAKAYAMA における統合型遠隔支援：遠隔コンサルテーションの利用障壁と改善の方向性  
栗山 俊之（和歌山県立医科大学 医学部 麻酔科学教室・緩和ケアセンター）

北海道における緩和ケアの遠隔コンサルテーション  
上村 恵一（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 精神科）

**SY19**  
**医療でなんとかしすぎる日本へ、一石 ~コミュニティにおける生老病死の引き受け方~**

6月20日(土) 15:05 ~ 16:35  
第12会場

座長：小園 香奈子（認定 NPO 法人マギーズ東京）  
酒見 惇子（神戸大学医学部附属病院）

演者：医療はどこまで担うのか ~多層的 community の中で支援の在り方を問い直す~  
八戸 敏史（平成医療福祉グループ 医療事業部 / 医療法人社団大和会 多摩川病院 / 順天堂大学医学部 呼吸器内科学講座）

医療の外で生老病死を引き受けるといふこと 一寺院におけるコミュニティ実践から  
鈴木 龍生（山形県立保健医療大学 保健医療学部 看護学科 / 真宗大谷派 西連寺 / いちまる訪問看護ステーション）

痛みの緩和のその先へ — スピリチュアルケアの構造から考える地域の役割 —  
玉置 妙憂（非営利一般社団法人 大慈学苑）

## パネルディスカッション

**PD1**  
**スッキリしない身体症状緩和のコツ**

6月19日(金) 9:05 ~ 10:35  
第2会場

座長：山口 崇（甲南医療センター 緩和ケア内科）  
堀 華乃子（聖隷三方原病院 看護部）

演者：スッキリしない『口腔の症状』の緩和ケア~味覚障害、口渇を考える~  
長岡 広香（がん・感染症センター 都立駒込病院）

「スッキリしない身体症状緩和のコツ」~看護師の視点から考える~  
岡山 幸子（宝塚市立病院 看護部）

すっきりしない「しびれ」にどう支援するか?~リハビリテーションの視点より~  
田尻 寿子（静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション室）

**PD2**  
**痛みの見える化と未来のケア ~ウェアラブル端末を活用した緩和医療の可能性~**

6月19日(金) 9:05 ~ 10:35  
第14会場

座長：全田 貞幹（国立がん研究センター東病院）  
吉田 詩織（東北大学大学院医学系研究科がん看護学分野）

演者：ウェアラブルデバイスを用いた疼痛検出 AI の開発と ePRO 連携の展望  
平山 英幸（株式会社アルゴナース / 東北大学大学院 医学系研究科 緩和ケア看護学分野 / 株式会社 Aroma Care Tech / 株式会社 AILE）

ウェアラブル端末 × ePRO × EDC で実施する臨床研究の経験  
川口 崇（東京薬科大学 臨床評価学教室 / 東北大学大学院医学系研究科医学統計学分野）

デジタル機器を活用した未来のケアに向けて~ウェアラブルデバイス, VR, AI の可能性~  
仁木 一順（大阪大学大学院薬学研究科）

**PD3****緩和ケア領域における診療ネットワーク構築 ー今あるものを、活かし、つなぎ、広げる**

6月19日(金) 10:40～12:10

第7会場

座長：武村 尊生（東北福祉大学 総合福祉学部福祉心理学科）

演者：離島に緩和ケアを広げるー徳之島緩和ケアアウトリーチの取り組みー

田畑 幸利（徳之島徳洲会病院 看護部）

道南地域における一般的なサイコオンコロジー普及への挑戦

佐々木 史（市立函館病院精神神経科）

オピオイド鎮痛薬の不適切使用に対する診療ネットワークの構築について

山口 重樹（獨協医科大学医学部麻酔科学講座）

**PD4****在宅で挑む難治性疼痛**

6月19日(金) 10:50～11:50

第6会場

座長：廣橋 猛（永寿総合病院 がん診療支援・緩和ケアセンター）

風間 郁子（WyL 株式会社 ウィル訪問看護ステーション江戸川）

演者：在宅で挑む難治性がん疼痛

平本 秀二（医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック／滋賀医科大学 社会医学講座法医学部門／志高会 三菱京都病院 腫瘍内科緩和ケア内科）

限られた療養環境において苦慮した疼痛マネジメントから学んだこと

風間 郁子（WyL 株式会社 ウィル訪問看護ステーション江戸川）

難治性疼痛の患者の在宅療養を支えるための多職種アプローチ

佐久間 詠理（医療法人社団淳友会 わたクリニック）

**PD5****在宅緩和ケアにおける薬物投与デバイス**

6月19日(金) 13:35～15:05

第8会場

座長：奥山 慎一郎（訪問診療クリニックやまがた）

餅原 弘樹（医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック）

演者：オピオイド持続注射を使いこなして、より良いがん疼痛コントロールを目指す

石川 彩夏（医療法人社団淳友会 わたクリニック江戸川）

心不全緩和ケアにおける薬物投与デバイスの現状と課題

大森 崇史（こもれび在宅診療所）

在宅緩和ケアにおける持続皮下投与の安定継続に向けた薬局薬剤師の役割と多職種連携

大野 朋子（株式会社 ak ホールディングス 上永谷薬局）

薬物投与デバイスを使用する在宅患者の生活支援と訪問看護の役割

富澤 あゆみ（ひとつぶ診療所）

**PD6****進行がん患者の食を支える症状緩和**

6月19日(金) 13:35～15:05

第10会場

座長：所 昭宏（国立病院機構近畿中央呼吸器センター心療内科／支持・緩和療法チーム）

森 直治（愛知医科大学 緩和ケアセンター）

演者：がん緩和医療での理想的な栄養ケア

天野 晃滋（大阪国際がんセンター支持・緩和医療科）

進行がん患者と家族の食関連苦悩へのケア ～看護師の立場から～

向井 未年子（愛知県がんセンター看護部）

進行がん患者の食を支え、こころも支える；リエゾン精神看護の立場から

早川 昌子（大阪国際がんセンター 緩和ケアセンター）

進行がん患者におけるカヘキシアの段階別栄養支援の実際

竹内 知子（愛知医科大学病院栄養部）

**PD7**  
**AI がん患者カウンセリングはどこまで可能かー有効性と限界ー**

6月19日(金) 13:35 ~ 15:05  
第11会場

座長：角甲 純（三重大学大学院）  
竹内 麻理（慶應義塾大学医学部 緩和ケアセンター）

演者：実際のところ、緩和ケアに AI は使えるのか？～推進派の視点から探る、望ましい活用ケースと医療者の心理的ハードル～  
仁木 一順（大阪大学大学院薬学研究科）

AI を使った私はどこまで私なのか？～ AI の仕組みから考える主体性のあり方  
華井 明子（千葉大学 情報・データサイエンス学部）

緩和ケアにおける AI の利用について考える：慎重派（Cons）の立場から  
前田 一石（医療法人協和会 千里中央病院 緩和ケア内科）

AI はがん患者の心を支えられるのか？～慎重派の視点から考える、見えないリスクと心理的アフターケアの必要性～  
市倉 加奈子（筑波大学人間系／北里大学医療衛生学部）

**PD8**  
**緩和ケアの介入研究の進め方**

6月19日(金) 15:20 ~ 16:50  
第10会場

座長：濱野 淳（筑波大学 医学医療系）

演者：看護介入研究の「裏側」：ACP 支援研究の経験から  
竹之内 沙弥香（京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 看護倫理学分野）

呼吸困難に対する看護支援の介入研究をどう進めたかー送風療法 RCT から体位交換 RCT へー  
角甲 純（三重大学大学院）

終末期がん患者を対象としたリハビリテーションのランダム化比較試験の遂行から得られた研究設計と症例登録の実践的課題  
西山 菜々子（大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究科）

**PD9**  
**寄り添うは美徳か、呪縛か**

6月20日(土) 8:45 ~ 10:15  
第5会場

座長：岡本 禎晃（敦賀市立看護大学）  
倉田 明子（広島大学病院 精神科／緩和ケアセンター）

演者：寄り添いは誰のための言葉か  
蓮尾 英明（関西医科大学心療内科学講座）

精神看護専門看護師の立場から考える  
河野 佐代子（慶應義塾大学 看護医療学部 精神看護分野）

薬剤師の視点から考える「寄り添い」の距離～共感の罅を越える薬学的介入と自律支援～  
加藤 麻衣（西日本旅客鉄道株式会社 大阪鉄道病院 薬剤部）

「寄り添う」と「寄り沿う」～心理支援の立場から～  
加藤 真樹子（医療法人社団 中津胃腸病院）

**PD10**  
**緩和ケアの Early Exposure をどうデザインするか**

6月20日(土) 8:45 ~ 10:15  
第11会場

座長：柏木 秀行（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

演者：すべての医学生に緩和ケアをー「より良き臨床医」を育てるための緩和ケア Early Exposure ー  
中村 陽一（東邦大学医学部 臨床腫瘍学講座 緩和医療学分野／東邦大学医療センター大森病院 緩和ケアセンター）

緩和ケアの卒後教育 ～初期研修医に対する当院での取り組みを中心に、日本緩和医療学会での活動についてもご紹介～  
山口 健也（地域医療機能推進機構九州病院 緩和ケア科／地域医療機能推進機構九州病院 臨床研修センター）

薬剤師の卒前・卒後教育における緩和ケアへの Early Exposure - 「点の学習」を「線の関わり」へ繋げる実践的デザイン -  
金子 健（慶應義塾大学病院 薬剤部／慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター）

リハビリテーション療法士における緩和ケアの Early Exposure に関する現状と課題  
立松 典篤（名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻）

**PD11**  
**病気そのものの治療・ケア以外の「気がかりなこと」への取り組み**

6月20日(土) 10:30～11:30  
第2会場

座長：鳥崎 哲平（大腸肛門病センター高野病院 緩和ケア科）

演者：その気がかりは誰のもの？  
関根 知嘉子（国立病院機構 大阪医療センター）

専門職ネットワークからもれる「気がかり」を満たす  
川上 嘉明（東京有明医療大学看護学部看護学科 看護学研究科）

「気がかり」にアプローチする地域での取り組みと研修  
西 智弘（川崎市立井田病院 腫瘍内科）

**PD12**  
**重症心身障害児者と緩和ケア**

6月20日(土) 10:30～12:00  
第4会場

座長：南條 浩輝（医療法人輝優会かがやきクリニック）  
森 雅紀（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）

演者：在宅医療の現場から見た重症心身障害児者と緩和ケア  
南條 浩輝（医療法人輝優会かがやきクリニック）

重症心身障害児者の安楽を支える緩和ケアー心地よさを目指す看護実践一  
仁宮 真紀（旭川荘療育・医療センター 看護部）

高齢化する重症心身障害児者入所施設における施設外緩和ケア医の役割  
奥山 隆二（東京都立多摩南部地域病院、緩和ケア科）

**PD13**  
**リハビリテーションががん患者に与える心理的効果**

6月20日(土) 10:30～11:30  
第6会場

座長：辻 哲也（慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室）  
谷向 仁（名古屋市立大学大学院）

演者：リハビリテーション診療ががん患者に与える心理的効果～リハビリテーション科医の立場から～  
宮田 知恵子（国立がん研究センター東病院）

リハビリテーション診療ががん患者に与える心理的効果～理学療法士の立場から～  
祝 広香（慶應義塾大学病院 リハビリテーション科）

リハビリテーションががん患者と家族・遺族に与える心理的効果～精神科医の立場から～  
宮島 加耶（聖マリアンナ医科大学緩和医療学講座）

**PD14**  
**死亡直前期の混合症状へのアプローチ～エビデンスから実践まで**

6月20日(土) 15:05～16:35  
第3会場

座長：森 雅紀（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）  
青木 美和（近畿大学 看護学部）

演者：死亡直前期の混合症状のエビデンス  
長谷川 貴昭（名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター）

死亡直前の薬物治療の考え方  
岡本 禎晃（敦賀市立看護大学 薬理学）

死亡直前期の看護実践  
佐久間 由美（社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院）

**PD15**  
**現状と乖離した希望を持ち続ける患者とどう関わるか**

6月20日(土) 15:05～16:35  
第10会場

座長：藤澤 大介（国立がん研究センターがん対策研究所）  
前田 一石（医療法人 協和会 千里中央病院 緩和ケア科）

演者：病識を「正しく」しようとしなくても緩和ケアはできる  
森田 達也（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）

治癒の希望とどう向き合うか  
田代 志門（東北大学大学院文学研究科社会学専攻分野）

希望に応える医療からの離脱 — 緩和ケアにおける役割の再定義  
新城 拓也（しんじょう医院）

## ワークショップ

### WS1 教育の場としての在宅緩和ケア

6月19日(金) 9:05～10:35  
第7会場

座長：佐藤 麻美子（東北大学病院 緩和医療科）  
古瀬 みどり（山形大学大学院医学系研究科看護学専攻）

演者：卒前教育の場としての在宅緩和ケア  
濱野 淳（筑波大学 医学医療系）

在宅医療における教育の問題点について  
河原 正典（岡部医院仙台）

地域における緩和ケア～訪問看護の立場から～  
中島 朋子（東久留米白十字訪問看護ステーション／全国訪問看護事業協会）

教育の場としての在宅緩和ケア ～病院薬剤師編～  
餅原 弘樹（医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック）

### WS2 遠隔緩和ケア～コンサルテーションと遠隔医療～

6月19日(金) 15:20～16:50  
第3会場

座長：川島 有沙（名古屋大学大学院医学系研究科 総合保健学専攻）

演者：AMED 研究からみたがん患者への遠隔緩和ケア：必要な要件と提供体制について  
古川 大記（名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター）

遠隔会議・遠隔外来システムを活用した和歌山県全体の緩和ケアの質向上に向けた取り組み —ONE SPACE  
Wakayama Project の報告—  
栗山 俊之（和歌山県立医科大学 医学部 麻酔科学教室・緩和ケアセンター）

がん患者在宅看取りにおける Medical Care Station を利用した遠隔在宅連携  
安藤 秀明（秋田大学医学部附属病院 緩和ケアセンター／たにあい糖尿病・在宅クリニック）

北海道における遠隔緩和ケアの試み～どさんコロジーについて～  
藤原 葉子（医療法人徳洲会 ホームケアクリニック札幌）

### WS3 『身寄りのない人』の緩和ケア：法的・実践的アプローチの第一歩

6月20日(土) 8:45～10:15  
第13会場

座長：田上 恵太（悠翔会くらしケアクリニック練馬／東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）  
石井 容子（国際医療福祉大学 保健医療学部 看護学科）

演者：「住み慣れた家で最期まで過ごしたい！」と願う”おひとりさま”の覚悟を最期まで支え切るための方策をさらにみんなで考えたい！！

田上 恵太（悠翔会くらしケアクリニック練馬 在宅緩和ケア／東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野／一般社団法人 IPP(Integration of Primary care & Palliative care) 研究会／よしき往診クリニック /KISA2 隊／葛西医院）

「身寄りのない人」が緩和ケアを受けながら暮らすことを社会的側面から考える  
萬谷 和広（国立病院機構大阪南医療センター 医療福祉相談室）

おひとりさまのケアと行政連携：地域で”支え抜く”ための壁の越え方  
七澤 ゆきの（おく内科・在宅クリニック）

**WS4**  
**せん妄ガイドラインを使いこなそう**

6月20日(土) 10:30～12:00  
第7会場

メインファシリテーター：井上 真一郎（新見公立大学 健康科学部 看護学科）  
岡本 明大（三重大学医学部附属病院 薬剤部）

ファシリテーター：北浦 祐一（関西記念病院）  
松田 能宣（国立病院機構近畿中央呼吸器センター）  
角甲 純（三重大学大学院）  
岡本 禎晃（敦賀市立看護大学）  
竹内 麻理（慶應義塾大学医学部緩和ケアセンター）  
菅野 雄介（東京科学大学大学院 保健衛生学研究科）  
小林 成光（東邦大学看護学部）  
長谷川 貴昭（名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター）  
山本 泰大（小牧市民病院 薬局）  
吉村 匡史（関西医科大学リハビリテーション学部 作業療法学科）  
伊藤 哲也（東京大学医科学研究所附属病院 先端緩和医療科）  
山中 幸典（イワオ薬局 日赤病院前ミタス伊勢店）

**WS5**  
**こどもの症状緩和**

6月20日(土) 15:05～16:05  
第4会場

座長：平田 美佳（順天堂大学大学院 医療看護学研究科）  
宮本 二郎（Kukuru きっずクリニック）

演者：こどもの声を聴き、つらさに寄り添う看護 — 生活と成長の中で痛みを捉える  
牛山 実保子（日本大学医学部附属板橋病院 がん看護外来 緩和ケア・痛みセンター）

言葉で痛みを伝えることが難しいこどものサインに気づき、緩和へ — そのプロセスに寄り添う看護実践—  
大北 真弓（みえキッズ&ファミリーホームケアクリニック）

こどもの精神症状  
関口 典子（兵庫県立こども病院精神科）

**委員会企画**

**CM1** 6月19日(金) 10:45～12:15  
**日韓台国際セッション “How Culture Shapes End-of-Life Care: Comparative Practices in Japan, Taiwan and South Korea-Improving the Quality of Palliative Care in the Imminent Phase: Clinical Practices and Ethical Considerations”** 第5会場  
**【国際交流委員会】**

座長：結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院）  
柏木 秀行（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）  
Sun-Hyun Kim（Department of Family Medicine, International St. Mary's Hospital  
College of Medicine, Catholic Kwandong University）

**AI 通訳**  
\*発表言語：英語

演者：日本の緩和ケアの現状：制度、実践、教育、研究の動向  
平塚 裕介（竹田総合病院緩和医療科／東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）

**Current Status of Palliative Care in Korea**  
Sun-Hyun Kim（Department of Family Medicine, International St. Mary's Hospital  
College of Medicine, Catholic Kwandong University）

**Caring Across Cultures: Hospice and Palliative Care Perspectives from Eastern Taiwan**  
Jyh-Gang Hsieh（Division of Palliative Care, Hualien Tzu Chi Hospital, Buddhist Tzu Chi Medical Foundation  
Department of Humanities in Medicine, Tzu Chi University）

**CM2**  
**7支部の今**  
**【地区委員会】**

6月19日(金) 10:45～12:15  
第9会場

座長：有賀 悦子（帝京大学医学部緩和医療学講座）  
小原 弘之（JCHO 徳山中央病院）

演者：北海道支部の緩和ケアの現状とこれから  
小池 和彦（社会医療法人 札幌清田病院）

**東北支部の現状と課題**

井上 彰（東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野／日本緩和医療学会東北支部）

**関東甲信越支部について**

長岡 広香（がん・感染症センター 都立駒込病院）

**東海・北陸支部学術大会の変遷と今後の課題**

下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）

**関西支部のこれまでとこれから**

上野 博司（パナソニック健康保険組合 松下記念病院 緩和ケア内科）

**中国四国支部の今後の発展に向けて**

小原 弘之（JCHO 徳山中央病院 緩和ケア内科）

**九州支部の今～現状と展望～**

山口 健也（地域医療機能推進機構九州病院 緩和ケア科）

**CM3**  
**インシデントや医療事故に起因する精神的負担からの離職予防 - 生成 AI の可能性を探る -**  
**【安全・感染委員会】**

6月19日(金) 10:50～11:50  
第11会場

座長：栗原 美穂（国立がん研究センター中央病院 看護部）

緩和医療専門医更新単位

演者：医療事故や惨事に起因する精神的負担からの離職予防

小川 朝生（国立がん研究センター東病院精神腫瘍科／国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野）

**精神的負担からの離職予防を支える生成 AI メンタリングの可能性**

梶浦 新也（富山大学附属病院腫瘍内科・緩和ケア内科）

**ケアの場における人と AI のあり方**

矢谷 浩司（東京大学）

**CM4**  
**専門医・認定登録医をどう育てるか—研修・指導体制の再考**  
**【専門医認定委員会】**

6月19日(金) 13:35～14:35  
第6会場

座長：久永 貴之（筑波メディカルセンター病院 緩和医療科）

演者：緩和ケア病棟を主体とした研修をどうするか

平塚 裕介（竹田総合病院緩和医療科／東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）

**緩和ケアチームにおける緩和医療専門医に求められる役割を意識した研修体制**

相木 佐代（独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科）

**CM5**  
**こえをきき、ともにつくる研究 — PPI(患者・市民参画)の実践と展望**  
**【学術委員会】**

6月19日(金) 15:20～16:50  
第15会場

座長：井上 彰（東北大学大学院医学系研究科 緩和医療学分野）

演者：進行がん患者さんの息苦しさを和らげる治療を開発する - 患者・家族・市民と医療者がともにつくる緩和治療の臨床試験 - (J-SUPPORT2021/JORTC-PAL22)

三輪 聖（聖隷三方原病院 ホスピス科）

**緩和ケアをひらく ～患者・市民参画の意味と意義～**

桜井 なおみ（一般社団法人 CSR プロジェクト／キャンサーソリューションズ株式会社）

ディスカッサー：松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科）

平塚 裕介（竹田総合病院 緩和医療科）

前田 留里（NPO 法人京都ワーキング・サバイバー）

**CM6**  
**R8 診療報酬改定と今後の緩和ケアのあり方について考える**  
**【健康保険・介護保険委員会】**

6月20日(土) 8:45～10:15  
第2会場

座長：石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）  
上野 博司（パナソニック健康保険組合 松下記念病院 緩和ケア内科）

演者：R8 改定に対する学会の取り組みと R10 改定へ向けての課題  
石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）

2026年診療報酬改定を踏まえた緩和医療薬剤師の実践的対応と制度対応 —日本緩和医療薬学会の役割—  
伊東 俊雅（東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部／がん包括診療部緩和ケア室）

日本ホスピス緩和ケア協会の立場から  
林 章敏（日野原記念ピースハウス病院）

腎不全緩和ケアが実装されるまでの活動  
大武 陽一（たけお内科クリニック からだと心の診療所／西淀病院）

国の緩和ケアに関する取組について  
西村 瑠美（厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課）

**CM7**  
**地域の緩和ケア相談体制における”壁”はどこにあるのか？**  
**【地域包括ケアと緩和ケアの統合委員会】**

6月20日(土) 8:45～10:15  
第8会場

座長：濱野 淳（筑波大学 医学医療系）

演者：ケアを育む「井戸」や「水路」を求めて ～地域は荒野ではなく沃野である～  
神谷 浩平（一般社団法人 MY wells 地域ケア工房）

緩和ケアと訪問介護のかかわり方  
津野 采子（株式会社ハート介護サービス、ハート介護サービス東住吉 訪問介護事業）

がん診療連携拠点病院 MSW が見る「見えない壁」とは？  
保科 健（国家公務員共済組合連合会 斗南病院）

地域で薬剤師も感じる”壁”の存在とは  
笠原 庸子（医療法人秋本クリニック）

療養型病院の緩和ケア医からみた緩和ケア相談体制における”壁”  
藤木 啓（医療法人社団誠和会 藤木病院）

**CM8**  
**緩和医療におけるダイバーシティ&インクルージョンの実装：バリアの可視化と実践知の共有**  
**【総務・財務委員会】**

6月20日(土) 8:45～10:15  
第12会場

共催：日本医師会

座長：所 昭宏（国立病院機構近畿中央呼吸器センター 心療内科）  
栗原 美穂（国立がん研究センター中央病院）

演者：村上 あきつ（香川大学医学部附属病院がんセンター）  
下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）  
藤原 由佳（清水メディカルクリニック）  
田畑 幸利（徳之島徳洲会病院 看護部）

**CM9**  
**教育・研修委員会企画：緩和ケアを語り聴き癒しあおう 2026**  
**～緩和ケアに携わる看護師のためのキャリアカフェ～**  
**【教育・研修委員会】**

6月20日(土) 10:30～12:00

第10会場

座長：小林 孝一郎（白井聖仁会病院 緩和ケアセンター）  
松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）  
酒井 禎子（新潟薬科大学）

演者：私たちにとって緩和ケアの魅力とは何か — 実践を語り合い、ともに考える —  
田村 恵子（大阪歯科大学大学院 看護学研究科開設準備室）

緩和ケアの悩みを相談しよう  
岡山 幸子（宝塚市立病院 看護部）

人生の主役はあなたです！これからのキャリアと人生のバランスを共に語り合う場  
林 糸り子（北里大学大学院 看護学研究科 がん看護学）

《緩和ケア・EOL ケアの教育を考えよう》  
日塔 裕子（合同会社 柁の木（元くげめま緩和ケア内科））

**CM10**  
**学術大会の在り方、盛り上げ方を考える**  
**【広報委員会】**

6月20日(土) 13:20～14:20  
第3会場

座長：尾阪 咲弥花（聖路加国際病院 緩和ケア科）  
林 糸り子（北里大学大学院 看護学研究科 がん看護学）

演者：学術大会を“参加する場”から“ともに盛り上げる場”へ  
～広報委員会の実践とこれからの可能性～  
廣橋 猛（永寿総合病院 がん診療支援・緩和ケアセンター）

学術大会の魅力を発信する効果的な Youtube 番組の作成  
上村 恵一（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 精神科）

大会アンバサダー制度の導入と活用：学術大会の情報発信力を高めるための取り組み  
相木 佐代（独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科）

学術大会における広報委員会ブースについて  
大津 裕佳（三菱京都病院 看護部）

**CM11**  
**PEACE プロジェクトこれまでの歩みとこれからの基本的緩和ケア教育**  
**【委託事業委員会】**

6月20日(土) 13:20～14:20  
第5会場

座長：秋月 伸哉（がん・感染症センター都立駒込病院 精神腫瘍科）  
下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）

演者：PEACE プロジェクトのこれまでの歩みとこれからの基本的緩和ケア教育  
山代 亜紀子（洛和会音羽病院 緩和ケア内科）

PEACE における非がんの緩和ケア教育  
大森 崇史（こもれび在宅診療所）

～これからの心理職に必要なこと～  
伊藤 嘉規（名古屋市立大学病院臨床心理科）

多職種における PEACE の位置づけと今後  
吉住 智奈美（兵庫県立尼崎総合医療センター）

## APHN/JSPM Joint Session

**APHN/JSPM Joint Session**  
**Palliative Care development across Asia**

6月19日(金) 14:00～15:00  
第5会場

座長：柏木 秀行（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）  
石原 洋（国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科）

**AI 通訳**  
\* 発表言語：英語

演者：Asia Pacific Hospice Palliative Care Network  
Giam Cheong Leong（Asia Pacific Hospice Palliative Care Network (APHN)）

The present & future of Pediatric Palliative Care in Asia  
Poh Heng Chong（HCA Hospice, Singapore）

## TIPS

### TIPS1 オピオイドと鎮痛薬の新しい使い方

6月19日(金) 15:20～15:35  
第9会場

演者：オピオイドと鎮痛薬の新しい使い方  
城山 亮輔（東京大学医学部附属病院 薬剤部）

### TIPS2 痛みのある患者の指導・教育に活かすアプローチ / コミュニケーション

6月19日(金) 15:40～15:55  
第9会場

演者：痛みのある患者の指導・教育に活かすアプローチ / コミュニケーション  
重野 朋子（筑波大学附属病院緩和ケアセンター）

### TIPS3 医療者のケア

6月19日(金) 16:00～16:15  
第9会場

演者：医療者のバーンアウト、共感疲労を防ぐためのセルフケア  
栗原 幸江（上智大学グリーフケア研究所 / 認定 NPO 法人マギーズ東京 / 駒込病院緩和ケア科）

### TIPS4 『食べたい』を支える

6月19日(金) 16:20～16:35  
第9会場

演者：がんサバイバーの『食べる』を支えるためには何が必要か  
稲野 利美（静岡県立静岡がんセンター 栄養室）

### TIPS5 スピリチュアルケア

6月20日(土) 13:20～13:35  
第8会場

演者：スピリチュアルケアの実践とケアに臨む医療者の姿勢  
市原 香織（淀川キリスト教病院 緩和ケアセンター）

### TIPS6 苦痛緩和のための鎮静

6月20日(土) 13:40～13:55  
第8会場

演者：終末期における苦痛緩和のための鎮静  
前滝 栄子（関西医科大学 看護学部・看護学研究科）

### TIPS7 生成 AI を情報収集に利用する

6月20日(土) 14:00～14:15  
第8会場

演者：生成 AI を情報収集に利用する  
石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）

### TIPS8 生成 AI を研究や論文執筆に活用する

6月20日(土) 14:20～14:35  
第8会場

演者：生成 AI を研究や論文執筆に活用する  
石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）

### TIPS9 がんに伴う神経障害：生活障害への対処から構築する非薬物アプローチ

6月20日(土) 15:05～15:20  
第8会場

演者：がんに伴う神経障害：生活障害への対処から構築する非薬物アプローチ  
華井 明子（千葉大学 情報・データサイエンス学部）

**TIPS10**  
咳嗽

6月20日(土) 15:25～15:40  
第8会場

演者：意外と知らない咳嗽のメカニズムと緩和的アプローチ  
池田 昌弘（公益財団法人がん研究会 有明病院）

**TIPS11**  
終末期ケアにおける対人援助のためのフォーカシング

6月20日(土) 15:45～16:00  
第8会場

演者：終末期ケアにおける対人援助のためのフォーカシング  
白石 恵子（独立行政法人国立病院機構九州がんセンターサイコオンコロジー科）

## ランチョンセミナー

**LS1**  
基本的緩和ケアと病院・地域のオピオイド治療を考える  
～「明日は良くなる」希望のケアへ～

6月19日(金) 12:30～13:20  
第2会場

共催：塩野義製薬株式会社

座長：山本 亮（JA長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター）

演者：基本的緩和ケアと病院・地域のオピオイド治療を考える  
～「明日は良くなる」希望のケアへ～  
神谷 浩平（一般社団法人 MY wells 地域ケア工房）

**LS2**  
多職種、患者・市民とともに考えた緩和照射診療ガイドラインの有効活用について

6月19日(金) 12:30～13:20  
第3会場

共催：一般社団法人 がん医療の今を共有する会（ACT）

座長：塩山 善之（九州国際重粒子線がん治療センター）

演者：「がんによる症状の緩和のための放射線治療ガイドライン」発刊に際して  
高橋 健夫（埼玉医科大学総合医療センター放射線腫瘍科）

診療ガイドライン作成における患者・市民参画：ガイドライン作成の経験から  
齋藤 哲雄（済生会熊本病院総合腫瘍科）

がんによる症状緩和のための放射線治療ガイドラインへの期待～患者・家族の生活と想いを支える代弁者としての看護実践～  
片山 沙織（地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市民立総合医療センター 緩和ケアセンター）

**LS3**  
緩和医療にIVRという選択肢—緩和ケア医とIVR医の視点から—

6月19日(金) 12:30～13:20  
第4会場

共催：キヤノンメディカルシステムズ株式会社

座長：曾根 美雪（国立がん研究センター中央病院）

演者：緩和ケア医の視点からIVRを考える  
山代 亜紀子（洛和会音羽病院 緩和ケア内科）

多様化するがん疼痛に向き合うIVR治療  
西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座、緩和ケアセンター）

**LS4**  
難治性がん疼痛におけるメサドンの役割：将来の難治化予測と早期導入の意義

6月19日(金) 12:30～13:20  
第6会場

共催：帝國製薬株式会社／テルモ株式会社

座長：下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケアセンター / 緩和ケア部）

演者：難治性がん疼痛におけるメサドンの役割：将来の難治化予測と早期導入の意義  
余宮 きのみ（広島市立広島市民病院 緩和ケア科）

LS5

Living well with Cancer : 漢方で支える『食べる喜び』と『働く意欲』～症状緩和のその先へ～

6月19日(金) 12:30～13:20

第7会場

共催：株式会社ツムラ

座長：松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科 緩和ケアセンター）

演者：Living well with Cancer : 漢方で支える『食べる喜び』と『働く意欲』～症状緩和のその先へ～

高山 真（東北大学病院総合地域医療教育支援部・漢方内科／東北大学大学院医学系研究科 漢方・統合医療学共同研究講座）

LS6

骨転移のことで困っていませんか？～骨転移患者のQOLを支える多職種マネジメント～

6月19日(金) 12:30～13:20

第8会場

共催：久光製薬株式会社

座長：坂下 明大（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 緩和ケア内科）

演者：骨転移のことで困っていませんか？～骨転移患者のQOLを支える多職種マネジメント～

佐藤 信吾（東京科学大学病院 がん先端治療部・緩和ケア科／東京科学大学病院 緩和ケアセンター／東京科学大学病院 整形外科）

LS7

腹水を全量抜くことが大量腹水患者の生きる希望につながる！  
～全量ドレナージ+ KM-CART による積極的的症状緩和と治療の継続～

6月19日(金) 12:30～13:20

第9会場

共催：株式会社カナカメディックス

座長：廣野 靖夫（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター）

演者：腹水を全量抜くことが大量腹水患者の生きる希望につながる！

～全量ドレナージ+ KM-CART による積極的的症状緩和と治療の継続～  
松崎 圭祐（要町病院腹水治療センター）

LS8

がんの不眠への薬物・非薬物療法

6月19日(金) 12:30～13:20

第11会場

共催：エーザイ株式会社

座長：清水 研（がん研有明病院精神腫瘍科）

演者：がんの不眠への薬物・非薬物療法

藤澤 大介（国立がん研究センターがん対策研究所がん医療支援部）

LS9

緩和医療薬物療法戦略 2040年を見据えた“持続可能性”とは？

6月19日(金) 12:30～13:20

第13会場

共催：サンド株式会社

座長：金子 健（慶應義塾大学病院 薬剤部 緩和ケアセンター）

演者：緩和医療薬物療法戦略 2040年を見据えた“持続可能性”とは？

伊東 俊雅（東京女子医科大学附属足立医療センター 薬剤部）

LS10

緩和ケアにおける慢性便秘症の便秘エコーを活用した治療戦略(チーム医療)

6月19日(金) 12:30～13:20

第14会場

共催：富士フィルムメディカル株式会社

座長：結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院）

演者：見えない便を”見える化”する AIアシスト機能付き看護エコーが変えたがん患者の排便管理とエコー普及への組織的介入  
中辻 香邦子（筑波メディカルセンター病院 看護部管理）

訪問看護と訪問診療における AIアシスト機能搭載ポータブルエコーを用いた排便アセスメントとケアの実際  
内田 三恵（こもれび在宅診療所）

**LS11**  
**高齢者のがん疼痛薬物療法 ～高齢がん患者のトータルケアを目指して～**

6月20日(土) 12:15～13:05  
第1会場

共催：第一三共株式会社

座長：所 昭宏（国立病院機構近畿中央呼吸器センター心療内科／支持・緩和療法チーム）

演者：高齢者のがん疼痛薬物療法 ～高齢がん患者のトータルケアを目指して～  
里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

**LS12**  
**がん患者の持続痛・突出痛のマネジメント**

6月20日(土) 12:15～13:05  
第2会場

共催：協和キリン株式会社、久光製薬株式会社

座長：的場 元弘（東京西徳洲会病院）

演者：オピオイドは何を鎮めているのか ～脳が決める痛み、脳で変わる苦痛～  
金井 昭文（北里大学医学部新世紀医療開発センター・疼痛学）

**LS13**  
**高齢血液がん患者における治療と意思決定支援**

6月20日(土) 12:15～13:05  
第3会場

共催：中外製薬株式会社

座長：木澤 義之（筑波大学 医学医療系）

演者：高齢がん患者とのコミュニケーションで気づいておきたいこと ー高齢者機能評価の視点をふまえてー  
北川 善子（国立病院機構 九州がんセンター）

高齢者機能評価を用いた高齢者悪性リンパ腫の治療とチーム医療の実践  
三浦 勝浩（日本大学医学部）

**LS14**  
**難治性腹水 / 胸水管理における新しい選択肢としての埋め込み型ドレーナージカテーテルについて**

6月20日(土) 12:15～13:05  
第4会場

共催：株式会社メディコン

座長：石木 寛人（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

演者：難治性腹水 / 胸水管理の現状と埋め込み型ドレーナージカテーテルの位置づけについて  
横道 直佑（聖隷三方原病院 緩和支援診療科）

埋め込み型ドレーナージカテーテルの取り扱いについて：留置手技の実際  
西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR 学講座、緩和ケアセンター）

埋め込み型ドレーナージカテーテルの排液の実際と在宅での使用について  
平本 秀二（医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック）

**LS15**  
**在宅での神経難病緩和ケア**

6月20日(土) 12:15～13:05  
第6会場

共催：ファミリー・ホスピス株式会社

座長：中島 大地（合同会社ライフィニティ 難病支援訪問看護ステーション名古屋）

演者：在宅での神経難病緩和ケア  
鈴木 欣宏（結ファミリークリニック）

**LS16**  
**「希望」を処方する：アセトアミノフェンの最新情報と骨転移への集学的アプローチ**

6月20日(土) 12:15～13:05  
第7会場

共催：あゆみ製薬株式会社

座長：荒尾 晴恵（大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 看護実践開発科学講座）

演者：「希望」を処方する：アセトアミノフェンの最新情報と骨転移への集学的アプローチ  
余宮 きのみ（広島市立広島市民病院 緩和ケア科）

**LS17**  
**体外衝撃波治療 (ESWT) の筋骨格系疼痛に対する有用性**

6月20日(土) 12:15 ~ 13:05  
第8会場

共催：インターリハ株式会社

座長：篠田 裕介（埼玉医科大学病院 リハビリテーション科）

演者：体外衝撃波治療 (ESWT) の筋骨格系疼痛に対する有用性  
岩瀬 哲（埼玉医科大学病院 緩和医療科）

**LS18**  
**緩和ケアにおける疼痛対策の最前線 - 薬物療法と神経ブロックのシナジー -**

6月20日(土) 12:15 ~ 13:05  
第14会場

共催：丸石製薬株式会社

座長：服部 政治（中部徳洲会病院）

演者：がん疼痛に対する神経ブロック～基礎知識と多職種連携の紹介～  
中山 隆弘（飯塚病院ペインクリニック科）

## スポンサードセミナー

**SS1**  
**ホスピス型住宅における「ホスピスケアの質」と地域協働のあり方を考える**

6月20日(土) 8:45 ~ 9:45  
第3会場

共催：株式会社シーユーシー・ホスピス

座長：白山 宏人（大阪北ホームケアクリニック）

演者：ホスピス型住宅における「ホスピスケアの質」と地域協働のあり方を考える  
浅川 澄一（公益社団法人・長寿社会文化協会）  
田村 恵子（大阪歯科大学大学院看護学研究科開設準備室）

**SS2**  
**緩和IVRの実際 - 適応拡大された凍結療法を中心に -**

6月20日(土) 15:05 ~ 16:05  
第2会場

共催：ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社

座長：石木 寛人（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

演者：がん難治疼痛に対する集学的治療の取り組み  
石木 寛人（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

がん疼痛に対する凍結療法～緩和IVRの新たな選択肢～  
西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座、緩和ケアセンター）

## 共催シンポジウム

**SSY**  
**透析患者に広がる緩和ケアの可能性：QOL向上への新しいアプローチ**

6月20日(土) 14:10 ~ 16:10  
第13会場

共催：株式会社ヴァンティブ（第71回日本透析医学会学術集会・総会／ハイブリット開催）

座長：木澤 義之（筑波大学 医学医療系）  
土谷 健（東京女子医科大学腎臓内科）

演者：終末期腎不全患者における緩和ケアの必要性和緩和的腹膜透析の活用  
森 建文（東北医科薬科大学医学部腎臓・高血圧内科／東北医科薬科大学医学部統合腎不全医療寄附講座）

「最期まで透析を継続する」という選択を支える看護 ～ Palliative PD が創り出す穏やかな終末期～  
菊地 縁（東北医科薬科大学 医学部 腎臓・高血圧内科／統合腎不全医療寄附講座）

緩和ケアの基本から腎不全患者のための緩和ケアガイドンスの実践まで  
大武 陽一（たけお内科クリニック からだと心の診療所）

在宅で支える透析患者のQOL～プライマリケアからみた緩和医療の可能性～  
草島 邦夫（藤田医科大学 医学部 連携地域医療学）

## PAL ランチョンセミナー

### PAL1

「知っている」からその先へ  
～これまでの『診断時からの緩和ケア』普及啓発とこれからの課題～

6月19日(金) 12:30～13:20

第15会場

座長：尾阪 咲弥花（聖路加国際病院 緩和ケア科）  
前田 留里（NPO 法人京都ワーキング・サバイバー）

演者：「知っている」からその先へ～これまでの『診断時からの緩和ケア』普及啓発とこれからの課題～  
池永 昌之（淀川キリスト教病院）

## PAL 企画

### PAL2

「知っている」からその先へ～患者と医療者で考える普及啓発～

6月19日(金) 13:35～15:00

第15会場

座長：下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）  
松本 陽子（NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会）

演者：池永 昌之（淀川キリスト教病院）  
松本 陽子（NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会）  
前田 留里（NPO 法人京都ワーキング・サバイバー）

ファシリテーター：大津 裕佳（三菱京都病院 看護部）  
岡本 明大（三重大学医学部附属病院 薬剤部）  
木村 尚子（済生会横浜市南部病院 緩和医療科）  
添田 遼（慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室）

## 交流集会

### EM1

終末期の家族支援 ～親を亡くす子どもに対して私たちは何ができるのだろう～

6月19日(金) 19:00～20:00

～ Part 5

第1会場

企画代表者：井上 実穂（国立病院機構 四国がんセンター／NPO 法人 Hope Tree）

### EM2

訪問診療同行看護師の、ゆるくも熱い交流会

6月19日(金) 19:00～20:00

第2会場

企画代表者：飯田 智哉（巡る診療所）

### EM3

終末期における『意味のある活動』をどう支えるかー原点に立ち返り、改めて考える

6月19日(金) 19:00～20:00

第3会場

企画代表者：池知 良昭（香川県立丸亀病院 作業療法室）

### EM4

生命を脅かす状態にある最重度の重症心身障害およびそれに類する状態像のこどもの“いまを生きるケア”

6月19日(金) 19:00～20:00

第4会場

企画代表者：仁宮 真紀（旭川荘療育・医療センター）

**EM5** 6月19日(金) 19:00～20:00  
**ベトナムにおける緩和ケアの現状と必要な人材育成：日本に求められる国際協力** 第5会場

企画代表者：須藤 恭子（国立看護大学校）

**EM6** 6月19日(金) 19:00～20:00  
**DNARは誰のため？一患者急変時、「何もしたからない」現場に医師はなぜ戸惑いを覚えたのか？** 第6会場

企画代表者：濱田 昇（岡山市立市民病院 緩和ケアチーム）

**EM7** 6月19日(金) 19:00～20:00  
**緩和ケア病棟における 有差額・無差額室の運用の困難さ・工夫・もやもやについて語り合おう** 第7会場

企画代表者：金石 圭祐（JCHO 東京新宿メディカルセンター 緩和ケア内科）

**EM8** 6月19日(金) 19:00～20:00  
**多職種協働が変える骨転移患者の人生：  
多発骨転移のある高齢がん患者の在宅療養を支える多職種支援を考える** 第8会場

企画代表者：佐藤 信吾（東京科学大学病院 がん先端治療部・緩和ケア科・整形外科）

**EM9** 6月19日(金) 19:00～20:00  
**「治らない」と共に生きるケアー医療的ケア児・重症心身障害児者の「日常の緩和ケア」を語り合おう** 第9会場

企画代表者：羽多野 わか（重症心身障害児学園・病院 パルツァ・ゴードル）

**EM10** 6月19日(金) 19:00～20:00  
**臨床宗教師と医療者の協働と発展の探究** 第10会場

企画代表者：原 信太郎（医療法人伴帥会 愛野記念病院、九州臨床宗教師会）

**EM11** 6月19日(金) 19:00～20:00  
**「その人の声をきく、私たち看護師の声を聞いてもらう」** 第11会場

企画代表者：吉村 元輝（みんなのかかりつけ訪問看護ステーション）

**EM12** 6月19日(金) 19:00～20:00  
**日本各地でグリーフサポートマップを作ろう** 第12会場

企画代表者：佐藤 悠子（岡部医院仙台）

**EM13** 6月19日(金) 19:00～20:00  
**進行がん患者の苦痛と患者と家族の苦悩を悪液質(カヘキシア)の視点で解釈しよう** 第13会場

企画代表者：天野 晃滋（大阪国際がんセンター 支持・緩和医療科）

**EM14** 6月19日(金) 19:00～20:00  
**全国でIMADOKOを使っているみんなで語ろう！活用のあれこれ** 第14会場

企画代表者：大井 裕子（おおい在宅緩和ケアクリニック）

**EM15** 6月20日(土) 7:30～8:30  
**がん医療に携わる少数派だけど、大切な職種の未来を考える 2026** 第1会場

企画代表者：厚坊 浩史（がん研有明病院腫瘍精神科 公認心理師）

**EM16** 6月20日(土) 7:30～8:30  
“名ばかりの均てん化”を嘆いても始まらない～「どさんコロジー」から地域を超えて緩和ケアを考える～ 第2会場

企画代表者：大場 洋子（KKR札幌医療センター）

**EM17** 6月20日(土) 7:30～8:30  
急性白血病患者に対する緩和ケア 第3会場

企画代表者：木原 里香（JA愛知厚生連 江南厚生病院 緩和ケア内科）

**EM18** 6月20日(土) 7:30～8:30  
地域に開かれた小児緩和ケア - コンパッション都市の視点から考える地域の力 - 第4会場

企画代表者：津村 明美（認定NPO法人 横浜こどもホスピスプロジェクト）

**EM19** 6月20日(土) 7:30～8:30  
ACP 推進に向けた対話を促進する Let's Talk Card ゲームの開発：自分が大切にしていることについて語ろう 第5会場

企画代表者：長江 弘子（亀田医療大学）

**EM20** 6月20日(土) 7:30～8:30  
小児・AYA 世代患者の緩和ケアにおけるペイシェントジャーニーから考える「きょうだい児」の感情と支援 第6会場

企画代表者：藤井 愛美（福山大学 薬学部薬学科）

**EM21** 6月20日(土) 7:30～8:30  
がん患者の口腔有害事象を多職種で支える連携モデル—乾燥・味覚障害から顎骨壊死まで— 第7会場

企画代表者：八岡 和歌子（国立がん研究センター中央病院 歯科）

**EM22** 6月20日(土) 7:30～8:30  
誰かが抜けても回るチームへ～平時からの備えを考える～ 第8会場

企画代表者：木村 尚子（済生会横浜市南部病院 緩和医療科）

**EM23** 6月20日(土) 7:30～8:30  
鍼灸で緩和ケアしよう！第3弾 —「鍼灸を緩和ケアの選択肢に」多職種交流の場 第9会場

企画代表者：朝田 ちあき（北海道消化器科病院）

**EM24** 6月20日(土) 7:30～8:30  
伝わらない、行動につながらない—患者力を引き出すコミュニケーションを語り合う 第10会場

企画代表者：長谷川 友美（奈良県総合医療センター）

**EM25** 6月20日(土) 7:30～8:30  
がん相談支援が担う「危機」を見つめ直そう 第11会場

企画代表者：品田 雄市（東京医科大学八王子医療センター 総合相談・支援センター）

**EM26** 6月20日(土) 7:30～8:30  
在宅緩和ケア・高度実践看護師ネットワーク 第12会場

企画代表者：大森 崇史（こもれび在宅診療所）

**EM27**  
緩和ケアにおけるアロマセラピーの活用について話し合いませんか?～ Part3 ～

6月20日(土) 7:30～8:30  
第13会場

企画代表者：伊藤 里美（東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻緩和ケア看護学分野）

**EM28**  
非がん患者を含む緩和ケア推進に向けた IPOS 活用の実践と工夫—「患者の声」をケアに活かすために—

6月20日(土) 7:30～8:30  
第14会場

企画代表者：松村 優子（京都市立病院 がん医療連携センター）

**EM29**  
患者の思いを聴き、ともに作るアドバンスケアプランニング支援について

6月20日(土) 10:30～11:30  
第9会場

企画代表者：石橋 あかね（長田病院 地域包括ケア病棟）

**EM30**  
地域のコミュニケーションをひらく—異なる立場からの声を持ち寄り、ともに考える地域づくり—

6月20日(土) 10:30～11:30  
第11会場

企画代表者：徳谷 理恵（ピースホームケアクリニック・ピースホームケアクリニック京都）

**EM31**  
在宅終末期ケアを考える交流集会：最期の時を穏やかに迎えるために

6月20日(土) 10:30～11:30  
第12会場

企画代表者：中安 一夫（医療法人博愛会 颯田病院）

**EM32**  
緩和ケアを語るときに絵本ができること

6月20日(土) 13:20～14:20  
第6会場

企画代表者：荻野 行正（京都民医連中央病院 緩和ケア内科）

**EM33**  
在宅緩和ケアの質を地域でどう支える？—医師・看護師・薬剤師の実践知を持ち寄ろう

6月20日(土) 13:20～14:20  
第7会場

企画代表者：五味 一英（桜新町アーバンクリニック）

**EM34**  
緩和ケア研修会が変わる！「病いの語り」の効果的な活用術—患者・家族の視点を活かす研修づくり—

6月20日(土) 13:20～14:20  
第9会場

企画代表者：木村 恵美子（札幌医科大学 保健医療学部看護学科）

**EM35**  
救急・集中治療領域の緩和ケア：合同ガイドライン／チーム手引きを現場で実装する

6月20日(土) 13:20～14:20  
第10会場

企画代表者：石上 雄一郎（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

**EM36**  
在宅ホスピスボランティアのネットワークづくり

6月20日(土) 13:20～14:20  
第11会場

企画代表者：二ノ坂 保喜（医療法人にのさかクリニック）

**EM37**  
ケアになる言葉。～あつまれ、「言葉」～

6月20日(土) 13:20～14:20  
第12会場

企画代表者：柳原 恵梨（谷田病院）

EM38

6月20日(土) 13:20～14:20

子どもを亡くした家族を支え続けるために ―グリーフサポート人材育成の実践と課題：  
現場から始める支援―

第14会場

企画代表者：藤田 紋佳（名古屋大学 / 認定 NPO 法人福岡こどもホスピスプロジェクト）

EM39

6月19日(金) 15:20～16:20

外科緩和ケア医の皆さん、ともに語ろう！

第6会場

企画代表者：廣野 靖夫（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター）

## 市民公開講座

市民公開講座

6月21日(日) 10:00～11:30

「自分らしさ」を支える緩和ケア ～病とともに豊かに生きるために～

大名カンファレンス

共催：塩野義製薬株式会社

## 最優秀演題

最優秀演題

6月19日(金) 15:30～16:30

第1会場

座長：所 昭宏（国立病院機構近畿中央呼吸器センター心療内科 / 支持・緩和療法チーム）  
岸野 恵（三愛会総合病院）

最優秀演題-1 自然言語処理と機械学習による電子カルテの診療記録からのがん患者の疼痛マネジメントに関する Quality Indicator の算出  
近藤 うた（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野）

最優秀演題-2 食欲不振を呈する進行肺がん患者に対する異なる用量のステロイド療法の有効性と安全性を検討する比較試験 (NJLCG1602/NEJ031)  
長谷川 翔（東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）

最優秀演題-3 終末期患者の退院前カンファレンスにおける薬薬連携の現状：国内初の全国規模アンケート調査  
土屋 貴（地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院 薬剤部 / 日本緩和医療薬学会 先端学術緩和医療薬学タスクフォース）

最優秀演題-4 血液腫瘍患者におけるホスピス・緩和ケア病棟利用の関連因子：全国遺族調査に基づく後方視的検討  
服部 友歌子（国立がん研究センター東病院 緩和医療科）

最優秀演題-5 CT 画像で咳嗽機能を推定する：高齢誤嚥性肺炎患者の予後予測と ACP への応用の可能性  
花澤 佑昌（新潟大学大学院医歯学総合研究科 呼吸器・感染症内科）

最優秀演題-6 がん患者の不眠障害に対する在宅心拍変動バイオフィードバックの効果：探索的ランダム化比較試験  
蓮尾 英明（関西医科大学心療内科学講座）

## 優秀演題

優秀演題 1

6月19日(金) 9:05～10:05

分野 3「精神・心理的・社会的・スピリチュアルケア」

第5会場

座長：竹内 麻理（慶應義塾大学医学部 緩和ケアセンター）  
榎場 美穂（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

優秀演題 1-1 がんになった親をもつ児童に対して小学校教諭が支援の必要性を判断する過程：半構造化インタビューによる質的研究  
赤川 祐子（秋田大学大学院医学系研究科 看護学講座）

- 優秀演題 1-2 新生児の術後急性期における疼痛緩和ケアの現状と課題 ～医師・看護師対象の質問紙調査から～  
豊島 万希子 (神奈川県立こども医療センター 新生児病棟)
- 優秀演題 1-3 配偶者との死別体験の多様性 –誰もが「悲しみ」を感じるわけではない–  
坂口 幸弘 (関西学院大学 人間福祉学部/関西学院大学 悲嘆と死別の研究センター)
- 優秀演題 1-4 看取りパンフレットに関する看護師教育プログラム後の遺族調査  
田中 宏美 (社会医療法人シマダ嶋田病院緩和ケア病棟)
- 優秀演題 1-5 宮城県におけるグリーフサポート活動の可視化とグリーフ普及活動  
佐藤 悠子 (岡部医院仙台)
- 優秀演題 1-6 タイの遺族における抑うつ症状に関連する因子：横断的調査  
Samerchua Warodom (Tohoku university, Graduate school of Medicine, Palliative nursing department)

## 優秀演題 2

6月19日(金) 9:05～10:15

### 分野 5「終末期ケア・専門的緩和ケア(緩和ケア病棟・緩和ケアチーム等)」

第8会場

座長：梶浦 新也 (富山大学附属病院 腫瘍内科・緩和ケア内科)  
大谷 弘行 (聖マリア病院 緩和ケア内科)

- 優秀演題 2-1 ポストコロナの遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価：J-HOPE3 と J-HOPE5 研究の比較  
青山 真帆 (山形県立保健医療大学大学院保健医療研究科/東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻)
- 優秀演題 2-2 消化器がん患者における体液貯留の重症度と予後との関連  
加藤 涼子 (愛知医科大学病院薬剤部/愛知医科大学病院緩和ケアチーム)
- 優秀演題 2-3 骨転移への緩和照射例における 3 変数 NRF モデルと新片桐スコアの外部検証および予後予測能比較  
櫻井 孝之 (金沢大学附属病院 放射線治療科)
- 優秀演題 2-4 逝去時のケアとしての見送りについての遺族の評価に関する研究  
小林 孝一郎 (白井聖仁会病院 緩和ケアセンター)
- 優秀演題 2-5 死亡直前に急に悪化する身の置き所のなさは予測できるか：シート型体振動計「眠り SCAN」によるビッグデータ解析  
廣岡 佳代 (東京科学大学大学院保健衛生学研究科)
- 優秀演題 2-6 当院の緩和病棟における調節型持続鎮静と間欠的鎮静の比較検討 ～より良い緩和的鎮静を行うために  
鈴木 俊裕 (刈谷豊田総合病院)
- 優秀演題 2-7 終末期がん患者における死亡直前期の歩行能力の変化についての後ろ向き時系列解析研究  
岡本 涼太郎 (市立芦屋病院 リハビリテーション科/神戸大学大学院保健学研究科)

## 優秀演題 3

6月19日(金) 9:05～10:05

### 分野 4「地域・在宅ケア・特定集団に対する緩和ケア」

第11会場

座長：田上 恵太 (悠翔会くらしケアクリニック練馬/東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野)  
大津 裕佳 (三菱京都病院)

- 優秀演題 3-1 成人先天性心疾患診療に携わる専門医を対象とした緩和ケア専門チームの紹介実態と緩和ケア困難感－横断質問紙調査－  
秋山 直美 (筑波大学医学医療系/東北大学大学院医学研究科保健学専攻)
- 優秀演題 3-2 AYA がん患者の家族悲嘆に関連する終末期ケアプロセスの体系的レビューと構造化分析  
渡邊 拓史 (医療法人社団 淳友会 わたクリニック/日本大学医学部小児科学系小児科学分野)
- 優秀演題 3-3 最近 1 年間で当院 AYA 支援チームが行ったがん生殖相談の内、実施に至らなかった 5 例の検討  
渡辺 温子 (帝京大学医学部緩和医療学講座/帝京大学医学部附属病院緩和ケアセンター・緩和ケアチーム)
- 優秀演題 3-4 死亡個票に基づく全国遺族調査：COVID-19 流行下における終末期医療の質評価  
高橋 理智 (国立がん研究センターがん対策研究所 がん政策評価研究部)
- 優秀演題 3-5 小児集中治療室で亡くなった子どもと家族の Quality of Dying and Death の実態と関連要因の探索：多施設前方視的横断研究  
高山 温子 (東京大学医学部附属病院 看護部)
- 優秀演題 3-6 国内の周産期緩和ケアの現状：先進施設におけるケアの体制と課題  
千葉 真希 (武庫川女子大学研究推進センター研究員)

**優秀演題 4**  
**分野 2「痛み以外の身体症状」**

6月19日(金) 9:05～10:05  
第12会場

座長：笠原 庸子（医療法人秋本クリニック 地域医療連携室）  
坂下 明大（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 緩和ケア内科）

- 優秀演題 4-1 緩和ケア病棟における入院後早期せん妄と痛みとの関連：多施設共同観察研究 (EASED 付帯研究)  
齋藤 隆介（聖隷浜松病院 救急集中治療科）
- 優秀演題 4-2 がん化学療法に由来する吃逆に対する FISST の実施可能性研究  
岸 鷹平（三重大学大学院医学系研究科看護学専攻がん看護学）
- 優秀演題 4-3 緩和ケア病棟入院中の悪性胸水 (MPE) 患者を対象とした胸腔内カテーテル (IPC) の有効性 / 安全性に関する後ろ向き観察研究  
鶴田 慧司郎（甲南医療センター緩和ケア内科）
- 優秀演題 4-4 がん患者の呼吸困難に対する 4 種類のオピオイドの効果の比較：多施設前向き観察研究の二次解析  
田崎 潤一（熊本大学病院 緩和ケアセンター）
- 優秀演題 4-5 緩和ケア介入ががん患者における直腸超音波所見別の便秘治療の検討  
石原 洋（国際医療福祉大学成田病院緩和医療科 / 国際医療福祉大学医学部消化器内科学 / 横浜国際肝胆膵消化器病学機構）
- 優秀演題 4-6 担癌難治性腹水に対する CART の当院での運用成績—SAAG 別の比較検討—  
上野 卓教（つくばセントラル病院 消化器内科）

**優秀演題 5**  
**分野 6「教育・普及啓発・研究・ヘルスケア・その他」**

6月19日(金) 10:50～11:50  
第12会場

座長：石田 真弓（埼玉医科大学国際医療センター）  
鳥崎 哲平（大腸肛門病センター高野病院 緩和ケア科）

- 優秀演題 5-1 入棺体験を通じたアドバンスケアプランニング普及の取り組み  
宮部 勝之（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院）
- 優秀演題 5-2 乳がんサバイバーにおけるアドバンス・ケア・プランニング態度の関連因子探索  
熊田 奈津紀（和洋女子大学看護学部）
- 優秀演題 5-3 自然言語処理と機械学習を活用した治療や終末期のケアに関する話し合いに関する質評価モデルの開発と実現可能性の検討  
石田 美空（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野）
- 優秀演題 5-4 小児在宅医療におけるグリーンカンファレンスの内容分析：病院と地域の比較  
水谷 亮（さいわいこどもクリニック 在宅診療部）
- 優秀演題 5-5 専門的リハビリテーションによる終末期がん患者の日常生活活動の維持に関連する患者背景因子：緩和ケア病棟における多施設ランダム化比較試験の二次解析  
西山 菜々子（大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究科）
- 優秀演題 5-6 ホスピス緩和ケア領域の音楽療法士が抱える看護師との協働における障壁及び促進要因：半構造化面接による質的研究  
皆川 毅（秋田大学院医学系研究科 博士前期課程）

**優秀演題 6**  
**分野 6「教育・普及啓発・研究・ヘルスケア・その他」**

6月19日(金) 10:50～11:50  
第14会場

座長：川島 有沙（名古屋大学大学院医学系研究科 総合保健学専攻）  
添田 遼（慶應義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室）

- 優秀演題 6-1 緩和ケア病棟に勤務する看護師の仕事ストレスの明確化—臨床看護職者の仕事ストレス尺度 (NJSS) を用いた評価—  
山村 史代（日本赤十字社医療センター）
- 優秀演題 6-2 患者の看取り経験に伴う医師の無力感への対処プロセス  
長尾 武虎（名古屋市スクールカウンセラー）
- 優秀演題 6-3 PCA ポンプに関する病院の使用実態アンケート調査  
石川 彩夏（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科 / 医療法人社団淳友会 わたクリニック）

優秀演題 6-4 緩和ケアにおける紙媒体 PRO の自動データ抽出：従来型 OCR と AI 視覚モデルの性能検証  
董 磊（東北大学医学系研究科緩和ケア看護学分野）

優秀演題 6-5 Traumatic Grief Inventory-Self Report Plus 日本語版の作成と信頼性・妥当性の検討  
魚谷 将大（東北大学大学院教育学研究科）

優秀演題 6-6 終末期がん患者の身体的苦痛評価における非装着型センサ指標の比較検討：平均活動量、FI、MI と身体的苦痛との関連  
畑崎 華織（東京科学大学大学院 保健衛生学研究科）

**優秀演題 7  
分野 4「地域・在宅ケア・特定集団に対する緩和ケア」**

6月19日(金) 13:35～14:15  
第7会場

座長：名古屋 祐子（宮城大学看護学群）  
武村 尊生（東北福祉大学 総合福祉学部福祉心理学科）

優秀演題 7-1 日本の終末期がん患者における麻薬使用量の療養の場での違い：レセプトデータを用いた在宅医療と病院療養の比較 - 第1報 -  
永田 沙也（東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部）

優秀演題 7-2 緩和ケア病棟において受け入れ困難となる患者背景に関する全国調査 — 緩和ケア病棟とがん診療連携拠点病院の比較分析 —  
関根 知嘉子（国立病院機構 大阪医療センター 医療福祉相談室／国立病院機構 大阪医療センター がん相談支援センター）

優秀演題 7-3 がん患者に対する緩和ケア提供体制の病院機能別分析による検討  
大日方 裕紀（北海道大学大学院保健科学研究院）

優秀演題 7-4 レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）オープンデータを用いた本邦小児（0～14歳）のオピオイド鎮痛薬処方動向：人口10万人あたりMMEの6年間推移  
阿部 健太郎（国立がん研究センター東病院薬剤部）

**優秀演題 8  
分野 1「痛み」**

6月19日(金) 13:35～14:25  
第12会場

座長：石木 寛人（国立がん研究センター中央病院）  
武井 大輔（埼玉県立がんセンター薬剤部）

優秀演題 8-1 脳転移患者におけるナルデメジンの安全性評価（オピオイド鎮痛拮抗作用と重篤な Opioid withdrawal symptoms の検討）：多施設後ろ向き観察研究  
柳泉 亮太（横浜市立大学附属病院緩和医療科）

優秀演題 8-2 オピオイドレスキュー薬の自己管理における医療者が感じる懸念・課題に関する意識調査  
石井 和美（国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 看護部）

優秀演題 8-3 オピオイド服薬中のがんによる神経障害性疼痛患者へのミロガバリン追加併用時の各種評価項目における有効性と安全性の結果報告（第2報）  
橋口 さおり（聖マリアンナ医科大学緩和医療学講座）

優秀演題 8-4 がん疼痛患者に対するアセトアミノフェンの投与量の適正化に向けた考察  
加藤 あゆみ（日本医科大学付属病院薬剤部）

優秀演題 8-5 がん患者におけるジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤の解熱作用：後ろ向き観察研究  
高橋 佑一朗（北里大学医学部麻酔科学教室）

**優秀演題 9  
分野 6「教育・普及啓発・研究・ヘルスケア・その他」**

6月19日(金) 13:35～14:45  
第14会場

座長：采野 優（神戸大学医学部附属病院 緩和支援治療科）  
飯田 真之（神戸大学医学部附属病院 薬剤部）

優秀演題 9-1 患者・家族間で最期のお別れが言えるために、医療者は何が出来るか？—全国大規模遺族調査  
大谷 弘行（聖マリア病院 緩和ケア内科／九州がんセンター 緩和治療科）

優秀演題 9-2 「人生の締めくくり」に関する言葉の一般市民のイメージ調査：「終末期」と「人生の最終段階」との比較検討  
大武 陽一（たけお内科クリニック からだと心の診療所）

優秀演題 9-3 医学生を対象とした看取り時の医師の立ち振る舞い教育における困難感の増加に関する後方視的研究  
田中 幸介（京都大学大学院 医学研究科 リアルワールドデータ研究開発講座／国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科）

- 優秀演題 9-4 終末期・緩和ケア実習を通じた死生観の縦断的変容と在宅看取り教育への示唆 ―日本的文化的葛藤と ACP・多職種連携の認識に着目して―  
松浦 善隆（九州医療スポーツ専門学校看護学科）
- 優秀演題 9-5 地域における孤独・孤立対策としてのユニバーサル・ホスピスマインド  
小澤 竹俊（エンドオブライフ・ケア協会）
- 優秀演題 9-6 がん患者におけるインターネットによるがん医療情報の利用状況と情報アンメットニーズの関連要因  
田島 瑞穂（名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻）
- 優秀演題 9-7 神経筋疾患患者の胃瘻造設における協働意思決定と後悔に関する多施設共同研究―疾患進行度の違いによる比較―  
花井 亜紀子（国立精神・神経医療研究センター病院 看護部）

**優秀演題 10**  
**分野 4「地域・在宅ケア・特定集団に対する緩和ケア」**

6月19日(金) 14:15～15:05  
第7会場

座長：石井 容子（国際医療福祉大学 保健医療学部 看護学科）  
南部 美智子（三重大学大学院医学系研究科）

- 優秀演題 10-1 在宅緩和ケア患者における緩和照射の実施状況と短予後集団に適した地域連携ルールの検討 ―「意味のある照射」の定義  
秋本 悦志（秋本クリニック）
- 優秀演題 10-2 自宅で死亡した90歳以上の超高齢がん患者におけるオピオイドの使用状況：後ろ向き観察研究  
南村 和宏（ゆう在宅クリニック旭院）
- 優秀演題 10-3 ホスピス住宅における緩和ケアの質に関する遺族評価：J-HOPE4 との比較検討  
笹原 朋代（茨城県立医療大学保健医療学部看護学科）
- 優秀演題 10-4 在宅の死亡診断における臨床判断過程の探索的研究  
坂詰 大輔（桜新町ナースケア・ステーション）
- 優秀演題 10-5 新型コロナ禍前後での自宅死亡率の変化パターンとその要因：市町村別の地域相関研究  
佐藤 一樹（名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻）

**優秀演題 11**  
**分野 1「痛み」**

6月19日(金) 14:25～15:05  
第12会場

座長：蓮尾 英明（関西医科大学心療内科学講座）  
高橋 紀子（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）

- 優秀演題 11-1 内臓神経ブロックの有効性に影響する因子と転帰に関する後方視的検討  
古賀 優子（国立がん研究センター中央病院緩和医療科）
- 優秀演題 11-2 終末期がん患者における「早く死にたい」という気持ちを生み出す構造の理解と全人的アプローチの探究  
松村 優子（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端看護科学講座／京都市立病院がん医療連携センター）
- 優秀演題 11-3 全国における難治性癌性疼痛に対する内臓神経ブロックの施行実態：院内がん登録-DPC 連結データベースを用いた調査  
中間 楽平（国立がん研究センター中央病院 放射線診断科／国立がん研究センターがん対策研究所 医療政策部）
- 優秀演題 11-4 緩和ケア病棟における緩和的放射線治療後の生存期間と治療効果の後方視的検討  
大棟 有紀（大阪赤十字病院 緩和ケア科）

**優秀演題 12**  
**分野 5「終末期ケア・専門的緩和ケア(緩和ケア病棟・緩和ケアチーム等)」**

6月19日(金) 15:20～16:20  
第5会場

座長：品田 雄市（東京医科大学八王子医療センター）  
八戸 すず（みなみ野病院 緩和ケア部）

- 優秀演題 12-1 Phase of Illness が不安定期の緩和ケア病棟入院患者におけるフェーズの経時的変化および症状・機能状態との関連  
多賀谷 理子（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野）
- 優秀演題 12-2 緩和ケア病棟入棟面談に対する遺族の評価についての横断的調査  
小池 輪太郎（東北大学病院 緩和医療科）
- 優秀演題 12-3 がん患者の疼痛改善に関連する緩和ケアチームの施設背景：多施設前向き観察研究  
佐久間 麻美（東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻緩和ケア看護学分野）

- 優秀演題 12-4 終末期がん患者への「折り合いをつけられたか」という質問の重層的意味—実存的両価性の視点から—  
野池 輝匡（相澤病院 がん集学治療センター 緩和ケア科）
- 優秀演題 12-5 入院環境が終末期がん患者の苦痛に与える影響に関する研究  
佐藤 香（刈谷豊田総合病院 緩和ケア内科）
- 優秀演題 12-6 下顎呼吸と死前喘鳴に対して医療者の「苦しくない」という説明は届くのか—臨死期の見える苦しさへの説明の限界：遺族 501 名調査  
大谷 弘行（聖マリア病院／九州がんセンター）

**優秀演題 13  
分野 2「痛み以外の身体症状」**

6月19日(金) 15:20～16:20  
第12会場

- 座長：山崎 圭一（ベルランド総合病院 緩和ケア科）  
青木 美和（近畿大学 看護学部）
- 優秀演題 13-1 緩和ケアチーム介入非消化器がん患者における GLIM 基準に基づく低栄養と苦痛スクリーニングスコアの関連  
伊藤 真理（愛知医科大学病院）
- 優秀演題 13-2 緩和ケアをうける進行がん患者における栄養摂取を障害する症状と食事摂取の関連  
腰本 さおり（常葉大学 健康プロデュース学部 健康栄養学科／東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 精神行動医科学分野）
- 優秀演題 13-3 オキサリプラチンによる化学療法誘発性末梢神経障害の現状 —握力測定からみえてきたこと—  
竹田 美和子（公立置賜総合病院看護部）
- 優秀演題 13-4 緩和ケア病棟入院患者におけるクレアチニンおよびシスタチン C を用いた腎機能の比較検討  
佐藤 到（城北病院）
- 優秀演題 13-5 パクリタキセル／カルボプラチン療法による悪心や不安に対してバーチャルリアリティ（VR）は有効か？：2 群ランダム化比較試験  
仁木 一順（大阪大学大学院薬学研究科）
- 優秀演題 13-6 アジア環太平洋地域における緩和的放射線治療の実態調査  
若月 優（量子科学技術研究開発機構 QST 病院）

**一般演題ポスター**

**痛みの基礎研究  
(P1-1)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P1-1 病院における麻薬注射製剤と PCA ポンプに関連するインシデント実態調査  
近藤 麗子（国立がん研究センター中央病院 看護部）

**痛みの評価・判断  
(P1-2～P1-6)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P1-2 50 歳代の自閉症がある子宮肉腫終末期患者のがん疼痛に対するケア  
堀口 明香（上伊那医療生活協働組合 上伊那生協病院）
- P1-3 頭頸部癌における光免疫療法後疼痛の持続期間に関する検討：4 例のケースシリーズ  
廣瀬 綾菜（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）
- P1-4 痛みを再評価し高用量メサドンからヒドロモルフォンへオピオイドスイッチングし症状緩和を得た 1 例  
谷中 淑光（東京都立多摩南部地域病院緩和ケア科）
- P1-5 緩和ケア領域における高度の肛門部痛を訴えた 6 症例の検討  
今村 博（鹿児島市医師会病院緩和ケア科）
- P1-6 がん性疼痛の診断と疼痛治療に至る過程で、緩和ケア科主導の多職種連携が有用であった一例  
平川 由佳（京都府立医科大学病院麻酔科）

- P1-7 ヒドロモルフォン持続注から経口剤への切替え時の効果と安全性に関する検討  
徳田 憲治 (社会福祉法人恩賜財団済生会川内病院 緩和ケアチーム/社会福祉法人恩賜財団済生会川内病院 薬剤部)
- P1-8 日本のがん診療における医療用麻薬の使用に関する調査ーがん診療に携わる医師の医療用麻薬に関する認識ー  
小暮 孝道 (東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部)
- P1-9 ヒドロモルフォン徐放錠の分割投与の可能性を示唆してくれた3症例  
米山 哲司 (愛知国際病院緩和ケア科)
- P1-10 悪性腫瘍に起因する皮膚自壊病変に伴う難治性疼痛に対するメサドンの投与経験～21症例の後方視的検討～  
佐藤 哲観 (静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科/静岡県立静岡がんセンター 緩和ケアチーム)
- P1-11 死亡約1か月前にメサドンを初回導入した3事例の検討  
藤田 建 (岐阜県立多治見病院 緩和ケア内科)
- P1-12 高用量フェンタニル貼付薬からメサドンへの変更により良好な疼痛管理が得られた1例  
喜田 裕介 (淡海医療センター呼吸器外科)
- P1-13 がん寛解後のサバイバーにおけるオピオイドの使用状況の検討  
萩原 綾希子 (市立札幌病院緩和ケア内科)
- P1-14 後期高齢者におけるメサドンの有効性・安全性:後ろ向き比較研究  
武田 亜衣 (市立芦屋病院 緩和ケア内科)
- P1-15 メサペインでの疼痛管理が困難な症例に対してオピオイドスイッチングと多職種での集学的な介入が有効であった一例  
渡辺 裕之 (JA 愛知厚生連安城更生病院 緩和ケアチーム/同 薬剤部)
- P1-16 がん性疼痛にオピオイド持続点滴を使用している中で、早送り量として1時間より多量を要した患者の特徴:ケースシリーズ研究  
馬場 厚 (JA 岐阜厚生連 岐阜西濃医療センター 西濃厚生病院 緩和ケア科)
- P1-17 メサドン使用中に COVID-19 を発症、治療後致死性不整脈を来した症例  
松原 奈穂 (国立がん研究センター中央病院 緩和医療科/順天堂大学医学部附属順天堂医院 呼吸器内科学講座)
- P1-18 高用量オピオイドを使用していた進行癌患者において根治術後安全にオピオイド離脱した一例  
西條 未莉 (日本医科大学付属病院)
- P1-19 当院のオピオイド処方終了患者における退薬症状の現状  
土井 千春 (恩賜財団済生会横浜市南部病院 緩和医療科)
- P1-20 当院におけるがん性疼痛患者の周術期オピオイド投与の症例報告  
前田 洋典 (旭川厚生病院 緩和ケアチーム)
- P1-21 術後神経障害性疼痛に人参栄養湯が奏効した一例  
井熊 優香 (日本医科大学付属病院)
- P1-22 病院におけるがんの症状緩和を目的とした PCA ポンプ使用に関する使用選定規準と学習ニーズ  
飯田 郁実 (国立がん研究センター中央病院 看護部)
- P1-23 頭頸部がんに対する放射線療法とオピオイド鎮痛薬との関連についての調査研究  
牧 圭佑 (東北医科薬科大学薬学部病院薬剤学教室)
- P1-24 不安神経症を併発したがんサバイバーにおける長期オピオイド中止の一症例  
大瀬 克広 (公益社団法人昭和会いまきいれ総合病院緩和ケア内科)
- P1-25 緊急連絡先が示す家族構造とレスキュー回数の関連  
江草 徳幸 (広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院 薬剤部)
- P1-26 乳がん上腕神経叢浸潤による難治性疼痛に対してヒドロモルフォン+トラマドール併用皮下注にて疼痛改善が得られた1例  
小林 正人 (公益財団法人 星総合病院 緩和医療科)
- P1-27 大腿骨頸部骨折術後の重症感染症を併発しブプレノルフィンによるケミカルコーピングが疑われた患者の1症例  
大城 早苗 (沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院)
- P1-28 年齢層別3群間比較を用いた高齢がん患者へのオピオイド投与量に関する個別化医療への検討  
中澤 慧州 (千葉県立佐原病院緩和ケアチーム)

- P1-29 ヒドロモルフォンからメサドンにオピオイドスイッチ後に危篤な呼吸抑制が生じた1例  
島田 翔士 (昭和医科大学横浜市北部病院緩和医療科)
- P1-30 オピオイド持続皮下投与のレスキュー量は 1/12 か 1/24 か?—後方視的調査による検証—  
奥村 遥佳 (神戸学院大学薬学部)
- P1-31 QT 延長を認めたがん性疼痛患者に対し安全にメサドンを導入し得た一例  
松井 美貴 (日本大学医学部麻酔科学系麻酔科学分野)
- P1-32 難治性疼痛に対しメサドン使用中の終末期がん患者の急激な疼痛増悪に対してヒドロモルフォン持続注を併用し疼痛コントロールを得た一例  
屋比久 夏生 (地方独立行政法人 那覇市立病院 看護部)
- P1-33 慢性疼痛に対する 10 年間に渡る高用量オピオイド依存からの離脱における信頼関係構築と危機共有の重要性：外科医が介入した一症例報告  
松山 純子 (健和会大手町病院外科)
- P1-34 がん専門病院におけるオピオイドレスキュー薬自己管理に対する病棟副看護師長の懸念に関する調査  
木嶋 あすか (国立がん研究センター中央病院看護部)
- P1-35 オピオイドを自己にて急速皮下投与した 1 例  
武智 浩子 (耳原総合病院 緩和ケア科)
- P1-36 緩和ケアチームによるオピオイド回診の有用性と今後の課題  
木村 恵 (産業医科大学病院緩和ケアセンター)
- P1-37 ヒドロモルフォン塩酸塩による呼吸抑制に対して約 2 日間のナロキソン持続投与を要した 1 症例  
別府 曜子 (市立池田病院)
- P1-38 上顎洞腺様嚢胞癌術後再発に対してメサドン塩酸塩を中心に疼痛管理を施行した 1 例  
金子 高明 (松戸市立総合医療センター 緩和ケア科/緩和ケアチーム)
- P1-39 75 歳以上の高齢者のがん疼痛に対するオピオイド投与量について  
寺本 晃治 (滋賀医科大学医学部附属病院 腫瘍内科/滋賀医科大学医学部附属病院 腫瘍センター・緩和ケアセンター)

**オピオイド以外の薬物療法  
(P1-40 ~ P1-49)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P1-40 ブロナンセリン貼付剤によってオピオイド誘発性悪心・嘔吐が改善した 1 例  
藤城 泰磨 (社会医療法人 清風会 廿日市記念病院 診療部 呼吸器内科)
- P1-41 ミルタザピンの投与でがん性疼痛に対するレスキュー薬の使用回数が減少した症例  
横井 繁周 (市立敦賀病院緩和ケアチーム)
- P1-42 ジクロフェナクナトリウム経皮吸収型製剤で急性腎不全を来した疑いのある 1 症例  
杉本 恵実 (飯田市立病院薬剤部)
- P1-43 Avelumab 関連末梢神経障害に牛車腎気丸と芍薬甘草湯が有効であった 1 例  
三田 礼子 (JCHO 神戸中央病院内科 (緩和ケア))
- P1-44 プレガバリン中止後に急激な疼痛増強と身の置き所のなさを認め、ミダゾラムおよびキシロカイン併用により苦痛緩和を得た 1 例  
岩崎 誠 (国際親善総合病院 緩和ケア内科)
- P1-45 多角的鎮痛法を併用することでケミカルコーピングに対処した一例  
湊 綾那 (関西医科大学総合医療センター 麻酔科)
- P1-46 難治性がん疼痛症例における処置時鎮痛としてリドカイン塩酸塩静脈内投与が有効であった症例  
高井 啓有 (千葉県がんセンター緩和医療科)
- P1-47 当院での鎮痛を目的としたアセトアミノフェン投与量の検討  
近藤 裕 (JCHO 京都鞍馬口医療センター)
- P1-48 リドカインゲル製剤の塗布が著効したエルドハイム・チェスター病の一例  
目黒 匠 (大阪公立大学医学部附属病院)
- P1-49 後期高齢者のがん疼痛に対するケタミンの有用性の検討  
矢野 有紀 (東京西徳洲会病院 緩和医療科)

**ペインクリニック・神経ブロック  
(P1-50 ~ P1-65)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P1-50 適切な痛みの評価により ADL が改善したがん患者の 2 症例  
高見 理恵 (日本生命病院 麻酔・緩和医療科/日本生命病院 緩和ケアチーム)
- P1-51 モルヒネ内服換算 1000mg/ 日を要した進行がん患者の難治性疼痛にトリガーポイントブロック注射が奏功した一例  
小田切 拓也 (西濃厚生病院緩和ケアセンター)
- P1-52 緩和ケアにおける耳介低反応レベルレーザー照射の効果 (第 2 報)  
浅野 真 (社会医療法人平成醫塾苫小牧東病院 緩和ケア内科・ペインクリニック内科・麻酔科)
- P1-53 神経ブロックなどの集学的治療が奏功し化学療法継続が可能となった進行卵巣癌の一例  
野田 美弥子 (鹿児島大学病院緩和ケアセンター)
- P1-54 がん治療に関連する慢性難治性疼痛に対する脊髄刺激療法の経験  
高雄 由美子 (兵庫医科大学病院ペインクリニック部)
- P1-55 仙骨神経根パルス高周波法を試みたがん性疼痛の 3 症例  
杉本 真理子 (帝京大学医学部附属病院麻酔科・ペインクリニック科)
- P1-56 がん患者の帯状疱疹関連痛に緩和ケアチームの麻酔科医として発症早期から介入し、神経ブロックや温熱療法により疼痛を改善できた 2 症例  
山崎 花衣 (東海大学医学部医学科外科学系麻酔科/宗教法人寒川神社 寒川病院 麻酔科)
- P1-57 痛覚変調性疼痛の緩和にクロナゼパムが有用であった症例  
保利 陽子 (日本医科大学付属病院 麻酔科・ペインクリニック)
- P1-58 上下腹神経叢ブロックと不對神経節ブロックを併用することでオピオイドの使用を終了することができた盲腸がんの一例  
小松 祐也 (長崎大学病院緩和ケアセンター/長崎大学大学院医歯薬総合研究科 麻酔集中治療医学)
- P1-59 当院における難治性疼痛カンファレンスの取り組み報告  
岩崎 洋平 (東北大学病院 緩和医療科)
- P1-60 パルス高周波療法が生活の救いとなったユーイング肉腫仙骨神経根浸潤の 1 例  
工藤 隆司 (弘前大学医学部附属病院麻酔科・集中治療科)
- P1-61 仙骨硬膜外エタノール注入法により難治性疼痛が改善した 3 症例の検討  
江尻 直弥 (聖隷三方原病院 ホスピス科)
- P1-62 ペインクリニック専門医が連携し終末期がん患者の早期転院が可能となった 1 症例  
敦賀 健吉 (北海道大学病院 腫瘍センター 緩和ケアチーム/北海道大学病院 麻酔科)
- P1-63 CT ガイド下内臓神経ブロック施行前の画像検査にて判明した血管走行により刺入経路を決定した 3 症例  
吉田 倫将 (信州大学 医学部附属病院 麻酔科蘇生科/信州大学 医学部附属病院 信州がんセンター 緩和部門)
- P1-64 骨盤内腫瘍による下肢のがん疼痛に対しても膜下フェノールブロックを行い在宅医療へ移行した 1 症例  
鈴木 潤 (東北大学病院麻酔科/東北大学病院緩和医療科)
- P1-65 進行性に増大する臀部腫瘍による難治性疼痛に対して多様な神経ブロックを施行した症例  
渡慶次 さやか (琉球大学病院麻酔科)

**非薬物療法(患者教育など)  
(P1-66 ~ P1-70)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P1-66 高ストレス下のがん患者が選択する音楽の特徴：音響解析による評価  
竹内 瑞枝 (国立がん研究センター東病院 緩和医療科)
- P1-67 緩和ケア外来における慢性二次性筋骨格系疼痛に対する体外衝撃波治療 (ESWT) が奏効した 1 例  
須賀 建太郎 (埼玉医科大学病院看護部/埼玉医科大学病院緩和ケアチーム)
- P1-68 薬物抵抗性タキサン系 CIPN に対する鍼通電療法の一症例 — 刺激様式の変更により改善が認められた症例 —  
高梨 知揚 (東京有明医療大学 保健医療学部 鍼灸学科/東京有明医療大学 保健医療学研究科/東京有明医療大学 附属鍼灸センター)

- P1-69 乳がん多発骨転移と化学療法誘発性末梢神経障害による疼痛に対して、交番磁界治療器エイト<sup>®</sup>の在宅利用が有効であった1例  
塚越 真由美（国際医療福祉大学那須医療センター）
- P1-70 進行がん患者に対して、家族が行うマッサージの効果と実施可能性の探索的研究  
小田切 拓也（西濃厚生病院緩和ケアセンター）

**トータルペイン  
(P1-71 ~ P1-75)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P1-71 患者の人生に寄り添い、看護師が理解者として伴走した看護実践 ~治療を希望しなかった患者が安心して治療を継続し、意思決定を最終段階まで可能にした一症例~  
牛山 実保子（日本大学医学部附属板橋病院看護部）
- P1-72 がん告知後オキシコドンの導入でオピオイドせん妄を生じた患者への看護介入-全人的苦痛の視点からの事例検討-  
國廣 ゆう子（小倉記念病院総合 10 階病棟）
- P1-73 乳癌全身骨転移、頭蓋骨転移髄膜浸潤に対し総合的な緩和医療を行った1例  
渡部 通章（厚木市立病院 外科）
- P1-74 直腸がんの難治性疼痛により QOL 低下を来していた患者への緩和ケアチームの関わり  
赤松 真澄（北播磨総合医療センター）
- P1-75 がん再発告知後の自殺企図に対し危機介入と緩和ケアを実施した一例  
矢吹 みどり（埼玉医科大学国際医療センター 緩和ケアチーム）

**インターベンショナルラジオロジー(痛み)  
(P1-76 ~ P1-80)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P1-76 化学療法誘発性末梢神経障害 (CIPN) による感覚障害に対し、脊髄刺激療法 (SCS) が有効であった1症例  
小島 康裕（JA 愛知厚生連豊田厚生病院ペインクリニック外科）
- P1-77 直腸がんの骨盤内腫瘍による難治性疼痛へのラジオ波焼灼療法の有用性  
山名 順子（北播磨総合医療センター 緩和ケア内科）
- P1-78 標準治療で難治した転移性骨腫瘍のがん性疼痛に対して経皮的凍結療法が有効であった一例  
木原 綾乃（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR 学講座）
- P1-79 肺癌術後痛性骨転移に対して IVR 治療を駆逐することで迅速な疼痛緩和が得られた1例  
豊田 将平（奈良県立医科大学附属病院 放射線診断・IVR 学講座）
- P1-80 IVR 治療により口腔内大量出血を回避できた1例  
浅野 寿利（静岡済生会総合病院 緩和医療科）

**その他の痛みに関するもの  
(P1-81 ~ P1-89)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P1-81 終末期の腎癌多発骨転移による難治性神経障害性疼痛にミダゾラムが奏効した一例  
一戸 真紀（青森市民病院 緩和ケアチーム）
- P1-82 肝腫瘍占拠率 50% 超の胃癌多発肝転移に対し、全肝照射が疼痛緩和と肝不全死回避に寄与した1例  
和田 健太郎（多根総合病院 緩和医療科）
- P1-83 当院における進行がん患者に対するリハビリテーション介入の実態と効果の検討  
太田 拓児（岩見沢市立総合病院外科）
- P1-84 包括的高度慢性下肢虚血における鎮痛薬の使用状況と効果  
岡部 智行（広島市民病院 緩和ケアチーム）
- P1-85 下腹部疝痛を緩和後に意思決定の話し合いが可能となった AL アミロイドーシスによる末期腎不全患者の1症例  
藤井 知美（愛媛大学医学部附属病院緩和ケアセンター）

- P1-86 胸腺カルチノイド患者の難治性疼痛発作に対してクロナゼパムが有効だった 1 例  
横田 小百合 (虎の門病院緩和医療科)
- P1-87 慢性非がん性疼痛に対して強オピオイド不適切使用となったがんサバイバーに対し、多職種による治療が奏功し、病状進行によるがん性疼痛悪化にも対応できた一例  
濱岡 早枝子 (順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座)
- P1-88 全身性の苦痛がある終末期患者の褥瘡の改善・悪化予防と苦痛の軽減を目指した褥瘡ケアについての一考察  
平出 朱実 (北海道中央労災病院 看護部外来)
- P1-89 下肢切断後に生じた疼痛に対して医療用麻薬の調整や非薬物療を行い、多職種で症状緩和を行った症例  
野木森 智江美 (東京都健康長寿医療センター緩和ケア内科)

**痛み以外の基礎研究  
(P2-1)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-1 肝実質性黄疸と閉塞性黄疸の生命予後に関する検討  
川畑 恵 (札幌厚生病院緩和ケア科/勤医協中央病院緩和ケア科)

**呼吸器症状(呼吸困難、咳など)  
(P2-2～P2-14)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-2 末期心不全の呼吸困難と難治性咳嗽に対して、モルヒネ注を安全に長期投与できた 1 例  
高広 悠平 (市立三次中央病院 緩和ケア内科/市立三次中央病院 緩和ケアセンター)
- P2-3 両側悪性胸水に対する両側胸膜癒着術：5 例の後方視的検討  
上沼 康範 (済生会宇都宮病院緩和ケア科)
- P2-4 緩和ケア病棟に入院した、がん患者の呼吸困難に対するステロイドについての検討  
岡久 将暢 (がん研究会有明病院 緩和治療科)
- P2-5 末期心不全患者におけるフェンタニルの呼吸困難緩和効果—単施設 10 年間の後方視的検討—  
小沢 陽子 (丸の内病院 内科)
- P2-6 頻回の咳嗽に伴う肺出血に対し、リドカイン吸入により一時的に止血を得た症例  
横須賀 とも子 (神奈川県立こども医療センター 緩和ケアサポートチーム)
- P2-7 食道癌亜全摘術後に薬剤性間質性肺炎を発症した患者に対し、呼吸リハビリテーション・運動療法を施行し、看取りまでを経験した一症例  
中野 健介 (医療法人徳洲会岸和田徳洲会病院リハビリテーション科)
- P2-8 非悪性疾患の呼吸困難に対するモルヒネ使用の現状  
志津 匡人 (岐阜県立多治見病院呼吸器内科)
- P2-9 病変の拡大により苦痛表出や表情からの他覚的評価が困難であった上顎骨肉腫患者の呼吸困難評価に日本語版 modRDOS-4 が有用であった一例  
森 圭史 (NTT 東日本関東病院 緩和ケア科)
- P2-10 16G IVH カテーテルで胸膜癒着術を行ったがん性胸膜炎の 2 例  
齊藤 英一 (新生病院)
- P2-11 健常者における運動時の呼吸困難に対する送風の有効性  
山田 佳子 (医療法人 ときわ会 ときわ会病院 5 病棟)
- P2-12 圧力・温度センサを用いた酸素マスク装着状態検知システムの基礎的検証  
清水 正樹 (京都桂病院緩和ケア科)
- P2-13 重症閉塞性肺疾患による呼吸困難に対し在宅でモルヒネ持続皮下注射を導入し症状緩和を得られた一例  
三戸 順子 (医療法人社団 NC のへクリニック)
- P2-14 がん疼痛を合併した呼吸器症状に対しトラマドール塩酸塩が有効であった 2 症例  
白根 佐智恵 (東京都済生会中央病院)

**消化器症状(悪心・嘔吐、腹水など)  
(P2-15 ~ P2-27)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-15 進行がん患者における腹部膨満感に対するステロイド使用の実態と有効性に関する後方視的研究  
前倉 俊也(国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科/国立病院機構 大阪医療センター ケアサポートチーム)
- P2-16 看護師が行う直腸エコーによる便秘の可視化を看護ケアに活かした実践—症状緩和と病状理解に寄与した2事例—  
島田 いづみ(社会医療法人近森会近森病院)
- P2-17 両側巨大卵巣転移による腹部膨満感に対し、エチゾラムの筋弛緩作用が奏功した盲腸癌の一例  
林 啓一(新潟県立加茂病院 緩和ケア内科)
- P2-18 免疫チェックポイント阻害剤治療後に対照的な経過をたどったが鎮痛薬の変更により疼痛緩和を図ることが出来たirAE腸炎の2例  
高鹿 美姫(東京女子医科大学消化器内科)
- P2-19 肺癌による悪性腹水に対して腹水濾過濃縮再静注法(CART)を行うことで治療を開始・継続できた2症例  
日野 未来(日本生命病院 麻酔・緩和医療科/日本生命病院 緩和ケアチーム)
- P2-20 スピリチュアルペインを伴う不完全悪性腸閉塞の腹痛に対する全人的介入の一例  
大東 杏(飯塚病院連携医療緩和ケア科)
- P2-21 内服困難患者における便秘に用いられる便秘治療薬の簡易懸濁法を含む経管投与への適応可否に関する調査  
宇波 奈央子(日本医科大学付属病院薬剤部)
- P2-22 小児の化学療法誘発性悪心・嘔吐にミルタザピンが有効であった一例  
大江 千紘(東北大学病院 緩和医療科)
- P2-23 難治性腹水を有する消化管がんにおける腹水濾過濃縮再静注療法の安全性と有効性  
山口 翔太郎(国立がん研究センター中央病院 消化管内科)
- P2-24 近隣基幹病院、在宅クリニックとの連携により悪性消化管閉塞に対し経皮経食道胃管挿入術を施行、良好なQOLが得られた3例 —完全独立型緩和ケア病院の取り組み—  
渡部 秀樹(鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院)
- P2-25 進行食道癌に対する緩和的食道ステント留置の検討  
麓 祥一(大分中村病院 外科/大分大学医学部附属病院 消化器・小児外科学講座)
- P2-26 慢性偽性腸閉塞症患者に対する内視鏡下胃・空腸瘻造設術の症状緩和効果  
富田 尚貴(国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科)
- P2-27 悪性消化管閉塞に対する経皮経食道胃管挿入術の有用性の検討  
石丸 英三郎(多根総合病院 緩和医療科)

**食欲不振・輸液・栄養・悪液質症候群  
(P2-28 ~ P2-32)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-28 輸液はせず経口摂取のみで療養できた膀胱癌終末期患者の一例  
椿 貴佳(医療法人 至捷会 木村病院 内科)
- P2-29 緩和ケア病棟における輸液に関する調査  
磯部 博隆(高岡市民病院 緩和ケア科)
- P2-30 緩和ケアチームにおける管理栄養士の積極的介入とその意義 —食事提供の工夫を通じたQOL向上へのアプローチ—  
大澤 由衣(市立敦賀病院 医療技術部 栄養管理室)
- P2-31 アナモレリンを長期服用することで治療継続できた膀胱がん患者の1例  
山本 美智子(神奈川県厚生連伊勢原協同病院)
- P2-32 治療としての脱水:輸液中止によりQOLが劇的に改善した終末期腸閉塞の一例  
中島 マリア美知子(医療法人社団ホスピティウム聖十字会中島医院)

**倦怠感  
(P2-33 ~ P2-35)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-33 終末期全身倦怠感軽減のためのミダゾラムの使用経験  
生田 肇 (市立加西病院)
- P2-34 下咽頭癌術後患者に出現した倦怠感への対応に苦慮した一症例  
橋口 麻美 (医療法人財団聖十字会 西日本病院 薬剤部)
- P2-35 在宅がん終末期患者における低用量ステロイドの有効性に関する後ろ向き検討  
古川 龍太郎 (医療法人徳洲会 ホームケアクリニック札幌)

**しびれ感  
(P2-36)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-36 多発性骨髄腫に対してボマリドミドを使用中に、進行する末梢神経障害が出現し、ギラン・バレー症候群の診断に至った一例  
工藤 仁隆 (飯塚病院)

**リンパ浮腫・浮腫・皮膚症状  
(P2-37 ~ P2-44)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-37 リンパ浮腫 3 症例からの教訓  
青石 裕香 (愛晋会 中江病院 外科/緩和ケア/在宅診療)
- P2-38 大腸癌末期患者の臨死期に両下肢に緊満性水疱が多発した症例に関する一考察  
馬見塚 勝郎 (鹿児島市医師会病院 緩和ケア科)
- P2-39 乳がん皮膚浸潤の創管理に難渋した 1 例 ~ Mohs ペースト後も持続した浸出液・出血・疼痛コントロールの課題 ~  
松本 静香 (医療法人春秋会 城山病院)
- P2-40 終末期乳癌による浮腫に伴う疼痛に対しての症状緩和が得られた 1 例 - スタッフに与えた影響 -  
長谷川 森一 (社会医療法人明陽会成田記念病院 緩和ケア外科)
- P2-41 当科に入院後、利尿剤使用にて 1 週間で症状改善を認めた 2 例の報告  
小池 佳勇 (藤田医科大学緩和医療科)
- P2-42 右乳房の自壊創処置に垂鉛華デンプンを使用し自宅退院が実現した一例  
青木 尚子 (社会医療法人明陽会成田記念病院 緩和ケア病棟)
- P2-43 悪性腫瘍の腹壁浸潤による腹部膨満感が皮膚穿破後、改善した 2 例  
井上 裕次郎 (永寿総合病院緩和ケア内科)
- P2-44 癌終末期と判断された腎障害が免疫関連有害事象であり副腎皮質ステロイド治療により著明な下腿浮腫改善を認めた一例  
山本 航史郎 (埼玉医科大学病院 緩和医療科)

**口腔の問題  
(P2-45 ~ P2-47)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-45 緩和ケア病棟の終末期がん患者に対して MA-T<sup>®</sup> を用いた口腔ケアによる口腔の環境改善効果  
長谷川 典子 (JA 岐阜厚生連 中濃厚生病院)
- P2-46 終末期がん患者の口腔カンジダ症に対するミコナゾール付着錠の有効性の検討  
佐久間 英規 (みたき総合病院 歯科・歯科口腔外科)
- P2-47 終末期患者の口腔カンジダ症治療に用いた口腔粘膜付着型治療剤 (ミコナゾール付着錠) に対する患者と看護師の思い ~ A 施設にある緩和ケア病棟での実践を通して ~  
渡邊 尚美 (みたき総合病院 看護部 緩和ケア病棟)

**高カルシウム血症  
(P2-48 ~ P2-49)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

P2-48 悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症の検討—栄養学的指標との関連、予後について  
平井 一郎 (三友堂病院 緩和ケア科)

P2-49 高カルシウム血症を合併したがん終末期患者に対するゾレドロン酸の症状緩和効果  
川村 泰一 (静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科)

**脊髄圧迫・脳転移・痙攣  
(P2-50)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

P2-50 異なる経過をたどったトルソー症候群の3事例  
清水 祐紀子 (たたらリハビリテーション病院 内科 (緩和ケア))

**貧血・出血・血栓症・血液学的問題  
(P2-51 ~ P2-53)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

P2-51 止血目的の緩和的放射線療法(緩和照射)が著効した子宮体癌術後再発の一例  
池田 翼 (総合病院落合病院麻酔科)

P2-52 初回時の緩和的放射線治療が無効であったが、より低線量の再照射が有効であった膀胱癌の一例  
永田 和也 (公立館林厚生病院放射線治療科)

P2-53 人生目標達成を支援する目的で在宅輸血を行った終末期胃癌患者の一例  
進谷 憲亮 (ファミリーヘルスクリニック北九州)

**オンコロジーエマージェンシー  
(P2-54 ~ P2-56)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

P2-54 悪性の中樞気道狭窄による呼吸困難に対して、V-V ECMO 補助下で気管ステントを留置し、救命および呼吸困難の改善が得られた一例  
近藤 志穂 (株式会社日立製作所日立総合病院 緩和ケア科)

P2-55 終末期小児がん患者における突発的致死急変と家族支援の重要性—急変を呈した2症例の検討—  
中島 健太郎 (九州大学病院小児科)

P2-56 乳癌治療中に隣臓癌と診断された脊髄圧迫による腫瘍緊急症の女性のACP  
松本 佳祐 (埼玉医科大学病院 緩和医療科 / 埼玉医科大学病院 緩和ケアチーム / 埼玉医科大学病院 救急科)

**薬物相互作用  
(P2-57 ~ P2-59)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

P2-57 ジルチアゼム併用下でフェンタニル貼付剤へオピオイドスイッチ後に傾眠・せん妄を呈した一例  
熊倉 康友 (山梨大学医学部附属病院 医療チームセンター)

P2-58 低体温症の出現に多剤併用の影響が示唆された認知症を有するがん患者の1例  
佐藤 香 (刈谷豊田総合病院 緩和ケア内科)

P2-59 口腔内粘膜保護剤使用によりフェンタニル舌下錠の効果が減弱したと思われる一症例  
秋田 一樹 (山梨大学大学院 総合研究部 医学域 臨床医学系 (麻酔科学))

**血液検査・画像検査  
(P2-60)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-60 ビタミンD欠乏症と高度な黄疸に伴う尿細管障害により低カリウム、低カルシウム血症を来し上下肢筋攣縮が出現した終末期がん悪液質患者の1例  
村松 雅人 (JA 愛知厚生連豊田厚生病院 緩和ケア内科)

**がん治療における支持療法  
(P2-61～P2-69)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-61 進行大腸癌に対する化学療法中に CV ポートカテーテルが断裂し、カテーテル片が肝静脈に迷入した1例  
高橋 秀和 (船橋市立医療センター 腫瘍内科)
- P2-62 周術期患者に対する緩和ケア介入: スコーピングレビュー  
小林 歩夢 (三重大学医学部看護学科)
- P2-63 緩和医療従事者における鍼灸導入意向と関連要因 — 第29・30回日本緩和医療学会交流集会参加者アンケートによる探索的分析 —  
朝田 ちあき (北海道消化器科病院 医療連携相談室)
- P2-64 乳がん化学療法に伴う味覚障害と生活上の苦悩に関するパイロットスタディ  
福本 純子 (公益財団法人 筑波メディカルセンター病院 看護部専門外来)
- P2-65 多施設連携の取り組みから実現したがん専門施設から大学病院への慢性 GVHD (graft versus host disease) 症例の病棟連携の報告  
内田 智子 (国立がん研究センター 中央病院 緩和医療科)
- P2-66 演題取下げ
- P2-67 化学放射線療法により発症した口腔内粘膜炎症性疼痛に対して葛根黄連黄芩湯の有効性が示唆された2症例  
水野 洋子 (富山大学附属病院腫瘍内科・緩和ケア内科)
- P2-68 タルタマブ投与によって発生したサイトカイン放出症候群に対し、積極的鎮痛対応を用いて治療継続を得られた1症例  
齋藤 善也 (旭川医科大学病院 緩和ケア診療部)
- P2-69 がんを診断したら乾燥組換え帯状疱疹ワクチンの接種を — ペインクリニック医からの提案 —  
飯澤 和恵 (山形大学医学部附属病院 疼痛緩和内科)

**抗がん治療: 化学内分泌療法  
(P2-70～P2-73)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-70 当院緩和ケア外来初診時から化学療法継続をおすすめした1例  
吉永 敬士 (社会医療法人シマダ 嶋田病院)
- P2-71 後治療での Fruquintinib 療法が著効した直腸癌肺転移再発の2例  
岡脇 誠 (川崎医科大学先端腫瘍医学)
- P2-72 初発急性骨髄性白血病に対する高用量 daunorubicin を含む寛解導入療法+自家末梢血幹細胞移植療法 (Double-7) の長期観察研究  
塩田 祐子 (東京慈恵会医科大学 内科学講座 腫瘍・血液内科 緩和ケア診療部 / 東京慈恵会医科大学 内科学講座 腫瘍・血液内科)
- P2-73 通院困難と臨床判断されたものの多職種介入による全身管理及び訪問化学療法の施行により外来通院再開が可能となった再発神経膠芽腫の1例  
阿部 菜保子 (医療法人展大会 鶴田クリニック)

**抗がん治療: 放射線治療  
(P2-74～P2-81)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P2-74 転移性臍腫瘍 (Sister Mary Joseph's Nodule) に対して緩和的放射線治療を行った1例  
鶴田 淳 (倉敷成人病センター 支持緩和医療科)

- P2-75 篩骨洞扁平上皮癌に対する寡分割緩和放射線治療の一例  
田中 修 (朝日大学病院 放射線治療科)
- P2-76 Sister Mary Joseph's Nodule に対する再照射を含む緩和放射線治療の 1 例  
久米 佑 (秋田大学医学部附属病院放射線治療科 / 診断科)
- P2-77 乳房粗大腫瘍に対して放射線治療を実施し良好な経過を得た一症例  
川上 浩幸 (聖隷佐倉市民病院 放射線治療科)
- P2-78 当院の出血性胃癌に対する止血目的の放射線治療成績  
西村 岳 (京都第一赤十字病院 放射線治療科)
- P2-79 より負担の少ない緩和的放射線治療の試み ~患者固定用マスクではなく、体表面照合法を用いて緩和照射を実施した一例~  
児玉 秀治 (三重県立総合医療センター 緩和ケアチーム)
- P2-80 緩和ケアにおける放射線治療医の関与の意義 —BSC とされた症例に根治的放射線治療を選択した経験—  
下田 絵美子 (市立東大阪医療センター 放射線科 / 市立東大阪医療センター 緩和ケア内科)
- P2-81 緩和目的放射線治療における低頻度照射 (週 1-3 回) の治療完遂率と症状緩和効果: 単施設後方的検討  
松井 利晃 (埼玉県立がんセンター放射線治療科)

**外科治療  
(P2-82 ~ P2-87)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P2-82 超高齢者に対する緊急手術の現状  
三浦 康誠 (菊名記念病院外科)
- P2-83 中皮腫と診断され手術療法を受ける患者の苦痛と対処  
太田 良介 (兵庫医科大学看護部)
- P2-84 がん性腹膜炎による消化管閉塞の緩和目的に胃瘻造設し在宅療養を目指した 1 例  
森本 雅美 (公立学校共済組合四国中央病院)
- P2-85 大腸癌の頸椎転移に伴う軸椎歯突起骨折に対して頸椎後方椎体固定術を施行し疼痛改善を得た 1 例  
末田 早苗 (耳原総合病院 緩和ケア科)
- P2-86 切除不能腫瘍性疾患に対する緩和目的の消化管緊急手術症例に関する検討  
小島 正継 (滋賀医科大学 外科学講座)
- P2-87 緩和的局所制御を目的としたステージ IV 乳癌原発巣切除の検討  
渡邊 克隆 (大同病院外科)

**インターベンショナルラジオロジー(痛み以外)  
(P2-88 ~ P2-91)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P2-88 モーズ軟膏では止血困難であった腫瘍出血に対し血管塞栓術が有用であった乳癌の 2 例  
川端 邦裕 (公立学校共済組合東海中央病院 緩和ケアチーム)
- P2-89 経カテーテル動脈塞栓術が有効であった管理困難な巨大腫瘍形成を伴う進行乳癌の 1 例  
平田 裕久 (松原徳洲会病院 緩和ケアチーム)
- P2-90 下肢腫脹を伴うがん性静脈閉塞に対する緩和的 IVR について  
穴井 洋 (市立奈良病院 放射線科)
- P2-91 ゴールデンタイムを超過し再照射を行った転移性脊髄圧迫症に対し、緩和的放射線治療が著効した一例  
沈沢 欣恵 (社会福祉法人大阪暁明館 大阪暁明館病院 緩和ケア科)

**その他の痛み以外の身体症状・治療  
(P2-92 ~ P2-112)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P2-92 味覚障害への亜鉛補充療法により多様な症状を呈した銅欠乏症の診断治療と症状緩和  
木内 大佑 (国立国際医療センター 緩和ケア科)

- P2-93 終末期がん患者におけるフロセミド注単回皮下投与の尿量増加の有効性と予後による効果の違いの検討  
金石 圭祐 (JCHO 東京新宿メディカルセンター)
- P2-94 中咽頭癌患者の唾液過多に対して、在宅医療でスコポラミン軟膏を使用した症例  
新井 成牧 (株式会社ツル薬局)
- P2-95 タムガイド® (Tumguide®) の赤色透過光を用いた経鼻胃管先端位置確認システムの有用性に関する事例報告  
白石 洋介 (JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 麻酔科)
- P2-96 緩和ケア病棟における悪性リンパ腫患者へのステロイド使用状況と症状緩和効果の検討  
森 和憲 (大阪鉄道病院 緩和ケア内科/大阪鉄道病院 サポートケアチーム)
- P2-97 症状緩和を目的とした止血介入が患者の最終経過に与えた影響を振り返る一例  
穴山 玲子 (湘南藤沢徳洲会病院 緩和ケア内科)
- P2-98 がん診療拠点病院において胸部悪性腫瘍治療中の患者におけるポリファーマシーの実態調査  
中川 夏樹 (東京大学医学部附属病院 呼吸器内科/国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)
- P2-99 自発性腫瘍崩壊症候群 (STLS: spontaneous tumor lysis syndrome) を呈した骨巨細胞腫の一例  
山田 友理 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 麻酔集中治療医学)
- P2-100 終末期がん患者における末梢挿入型中心静脈カテーテル (PICC) の有用性の検討  
中村 聖華 (岩手医科大学附属病院 緩和医療学科)
- P2-101 気管カニューレ関連トラブル症例の分析に基づいた PCU における気道緊急対応策の検討  
山城 謙人 (東京科学大学病院 緩和ケア科)
- P2-102 造血器腫瘍患者におけるリハビリテーションによる身体機能の変化  
近藤 千雅 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院リハビリテーション部)
- P2-103 緩和ケア病棟における睡眠障害の実態調査—その対応と有用性—  
長澤 歩波 (神戸学院大学薬学部)
- P2-104 進行がん患者に対する可聴領域外のハイレゾ自然音源が与える生体情報や癒しの変化を評価する探索的無作為化単盲検比較試験  
葛 航農 (国立がん研究センター東病院 緩和医療科/順天堂大学 大学院医学研究科)
- P2-105 血液透析を行いながら緩和ケア病棟に入院した終末期癌患者 31 例の後方視的検討  
水野 絵里 (札幌南徳洲会病院緩和ケア内科)
- P2-106 寒冷凝集素症患者に対する当院での緩和ケア介入  
馬目 美由紀 (北総白井病院 看護部)
- P2-107 皮膚表出がんに対するモーズ療法の適応を考える - 緩和ケア病棟における 4 症例の経験から -  
石丸 紗也佳 (市立芦屋病院 緩和ケア内科)
- P2-108 傍腫瘍性辺縁系脳炎と考えられた一事例  
川畑 恵 (札幌厚生病院緩和ケア科/勤医協中央病院緩和ケア科)
- P2-109 メトクロプラミドでアカシジアを発症したがその焦燥感が不安障害やうつ病と判断されメトクロプラミドが長期連用となっていた 1 症例  
仁熊 敬枝 (岡村一心堂病院)
- P2-110 脳死肝移植後の乳がんの一事例  
川畑 恵 (札幌厚生病院緩和ケア科)
- P2-111 腫瘍熱に対するナイキセンの有効性について  
阿部 大地 (タムス浦安病院 緩和ケア内科)
- P2-112 舌がん治療後の頸部絞扼感と可動域制限に対する鍼治療の一症例  
米丸 蓮音 (筑波技術大学保健科学部附属東西医学統合医療センター/彩美堂鍼灸治療院)

**抑うつ・不安  
(P3-1 ~ P3-3)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P3-1 がんに関連する自死を予防できなかった2例  
白木 照夫 (国立病院機構岩国医療センター内科)
- P3-2 ロラゼパムの舌下投与が有効であった癌性腹膜炎の症例  
峠 正義 (富山県立中央病院緩和ケア科)

- P3-3 進行がん患者の不安や抑うつなどの精神的苦痛の軽減により自宅復帰を果たした両側転移性副腎横紋筋肉腫の1例  
 百瀬 亨（社会医療法人財団慈泉会相澤病院 リハビリテーションセンター内部疾患リハ科）

**せん妄・不眠  
 (P3-4 ~ P3-13)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
 6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
 ポスター会場

- P3-4 進行がん患者の過活動型せん妄に対するプロナンセリン経皮吸収型製剤の有効性に関する後方視的研究  
 小栗 洋平（天心堂へつぎ病院緩和ケア内科）
- P3-5 難治性せん妄に対してバルプロ酸 Na が有効であった進行がん患者の1例  
 久松 靖史（大分ゆふみ病院）
- P3-6 終末期の患者に対するプロナンセリン貼付剤 (BNS) の効果についての検討  
 井谷 嘉男（宇治徳洲会病院緩和ケア内科）
- P3-7 疼痛と終末期せん妄の併存症例への治療戦略に関する専門領域別差異と本邦における全体像 —全国質問紙調査を用いた多変量ロジスティック回帰分析およびクラスター解析—  
 船槻 紀也（関西医科大学 医学部 精神神経科学講座／関西医科大学総合医療センター 緩和ケアチーム）
- P3-8 がん終末期患者9名に投与したオランザピン筋注製剤（ジプレキサ<sup>®</sup>）の安全性の検証  
 阿部 克哉（日立総合病院臨床検査科）
- P3-9 在宅終末期がん患者のせん妄症状に対するクエチアピン坐剤使用の後ろ向き観察研究  
 山田 泰史（愛和病院）
- P3-10 終末期がん患者の過活動型せん妄に対する院内製剤クエチアピン坐剤の製剤学的評価と有効性の検討  
 殿垣 聖子（医療法人協和会 千里中央病院 薬剤科／神戸薬科大学 製剤学研究室）
- P3-11 在宅医療におけるがん患者の終末期過活動型せん妄の薬物療法に関する前向き観察研究  
 阿部 晃子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）
- P3-12 当院緩和ケア病棟における向精神薬注射製剤（クロルプロマジン，ミダゾラム，ハロペリドール）の使用時期と投与期間の実態  
 長 美鈴（聖路加国際病院 緩和ケア科）
- P3-13 疼痛制御によりせん妄が軽減した舌がんの一例  
 眞鍋 治彦（AGIH 秋本病院緩和ケア科）

**精神・心理的ケア  
 (P3-14 ~ P3-28)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
 6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
 ポスター会場

- P3-14 高齢者におけるAIおよびインターネット活用が心理状態に与える影響に関する考察～不安や苛立ちから心理士の介入が必要となった一例～  
 芥川 亘（独立行政法人 国立病院機構 岩国医療センター）
- P3-15 認知機能の低下により生じる不安の緩和に〈連絡ノート〉を導入した一例  
 庄野 孝仁（京都市立病院緩和ケア科）
- P3-16 死を見据えたエンドオブライフ期にある高齢者が抱く感謝の意味  
 小野 真由子（東京都健康長寿医療センター 認知症支援推進センター／東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム）
- P3-17 演題取下げ
- P3-18 表出の少ない終末期がん患者に対して Integrated Palliative care Outcome Scale (IPOS) と作業を用いて思いの表出を支援した一事例  
 磯谷 茜音（桑名市総合医療センター）
- P3-19 転移性脳腫瘍患者の心理の特徴 —原発性脳腫瘍患者との比較による文献検討—  
 村井 紗織（三重大学医学部看護学科）
- P3-20 希少がん患者が直面し続ける心理的負担に介入した一症例  
 小川 佐知子（地方独立行政法人山口県立病院機構 山口県立総合医療センター 緩和ケアチーム）
- P3-21 緩和病棟看護師が行う園芸療法の効果と検証  
 井上 淳子（聖峰会 田主丸中央病院 緩和ケア病棟）

- P3-22 病棟看護師によるケアの関わりと緩和ケアチームの存在意義  
星野 未幸 (利根中央病院)
- P3-23 闘病仲間の死を経験した小学1年生の患児らとのグリーフの過程についての一考察  
牧田 夏美 (名古屋大学医学部附属病院 小児がん治療センター)
- P3-24 配偶者の看取りと療養環境の移行が同時期に生じた症例における公認心理師の関与～悲嘆の対象が移行する過程に着目した一事例～  
犬飼 一智 (医療法人協和会本部クオリティマネジメント室)
- P3-25 当院におけるがん患者自殺予防フローの運用状況と今後の課題  
中村 万希 (市立函館病院 臨床心理科/市立函館病院 精神神経科)
- P3-26 精神的リスクを背景に家族が告知を拒否した症例から考えるがん告知支援  
中安 千佳子 (社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院 緩和ケアチーム)
- P3-27 緩和ケア病棟で療養する維持透析患者の苦悩—透析見合わせの過程に焦点を当てて—  
佐藤 楓 (札幌北楡病院)
- P3-28 治療方針の転換期に危機状態を呈した進行がん患者への看護介入—アギレラ & メズイックの危機理論を用いた事例検討—  
西川 ちひろ (社会医療法人近森会近森病院)

**ボディイメージ・セクシュアリティ  
(P3-29～P3-31)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P3-29 外見変化に対する認知変容に向けたアピアランスケアの課題 —がん患者へのインタビュー調査結果から—  
照屋 典子 (琉球大学医学部保健学科)
- P3-30 がん診療病院におけるアピアランスケア実践と関連要因の検討  
照屋 典子 (琉球大学医学部保健学科)
- P3-31 がん診療病院におけるアピアランスケアの困難と関連要因の検討  
照屋 典子 (琉球大学医学部保健学科)

**スピリチュアルケア・宗教的ケア  
(P3-32～P3-36)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P3-32 多職種を対象としたコミュニケーション・スキル研修の評価：ロールプレイの患者役による Numerical Rating Scale とテキストマイニングを用いた分析  
小澤 竹俊 (エンドオブライフ・ケア協会)
- P3-33 終末期患者がレガシー表現を選択できた心理的条件：価値志向的意思決定の単例報告  
松坂 俊 (飯塚病院)
- P3-34 家族との空白の時間を埋める：発達特性をもつ若年がん患者の終末期支援  
相原 茉里 (川崎市立多摩病院緩和ケア内科/聖マリアンナ医科大学 総合診療内科学講座)
- P3-35 瞑想によるがん患者の人生観の変容—A氏のインタビュー分析—  
秋山 紀子 (上智大学大学院 実践宗教学研究科 死生学専攻 博士後期課程/やまが在宅クリニック)
- P3-36 嘔気に対して使用されていたハロペリドール持続点滴を終了したところ意識状態が改善し、スピリチュアルペインが表出された1例  
西土 徹 (名古屋徳洲会総合病院 緩和ケア外科)

**家族のケア・子どものケア  
(P3-37～P3-53)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P3-37 緩和ケア認定看護師による終末期患者家族へのライフレビュー対話の実践と課題  
中村 智美 (新潟大学大学院保健学研究科 博士後期課程)
- P3-38 がん患者遺族における「スピリチュアルペイン」の構造 — 探索的因子分析による量的評価 —  
角 裕子 (京都大学医学部附属病院看護部)

- P3-39 終末期がん患者の望む最期を支えるための家族看護  
岡 千奈美 (地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立十三市民病院 外来)
- P3-40 末期がん患者の気がかりであったひきこもりの状態にある家族への伴走型支援  
米村 智子 (松江市立病院 看護局)
- P3-41 親ががんになった思春期の子どもへのサポートプログラムファシリテーター養成講座の教育効果～養成講座前・直後・3か月後の3時点による縦断的質問紙調査～  
赤川 祐子 (秋田大学大学院医学系研究科 看護学講座 / NPO 法人 Hope Tree)
- P3-42 BPS-S モデルによる課題設定が奏効したがん患者家族の身体化を伴う心理社会的苦痛への介入  
鈴木 雅文 (株式会社麻生飯塚病院連携医療・緩和ケア科)
- P3-43 終末期がん患者のメッセージを家族に伝えた看護実践の効果の検証  
辻 順子 (国保中央病院)
- P3-44 小児 ICU 終末期における沖縄美ら海水族館遠隔授業を活用した家族・きょうだい支援の実践  
綿引 彩花 (筑波大学附属病院看護部)
- P3-45 がんを診断を受けた患者家族のメンタルヘルス：スコーピングレビュー  
武田 佳子 (三重大学医学部医学・看護学教育センター)
- P3-46 18 トリソミー児の在宅看取りにおける両親の意思形成過程～1 事例からの考察～  
松岡 恵美 (ヘルスケアリンク株式会社 香住ヶ丘リハビリ訪問看護ステーション)
- P3-47 「進行性がん患者の家族に対して病態受容への支援がうまくいかなかった事例」～多職種における作業療法士のグリーンケアの関わり～  
波平 真純 (沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院 リハビリテーション科)
- P3-48 重度障害児を持つ親が人生会議を経験して思うこと  
大西 孝子 (滋賀県立総合病院 子ども棟)
- P3-49 フォトプロジェクト活動報告—子どもの成長を写真に記録する—  
瀧田 咲枝 (愛知こどもホスピスプロジェクト / 椋山女学園大学看護学部看護学科)
- P3-50 新生児の術後急性期における疼痛緩和ケアの現状と課題 ～電子カルテを用いた後方視的調査～  
豊島 万希子 (神奈川県立こども医療センター 新生児病棟)
- P3-51 終末期の患者を支える家族の変化 ～「母を眠らせてください」と鎮静を望んだ家族との関わり～  
笹谷 幸恵 (公益社団法人日本海員救済会小樽救済会病院)
- P3-52 ヤングケアラーの存在に着目し多職種連携で在宅療養を支えた再発乳癌症例  
楠原 正太 (東京都済生会中央病院 腫瘍内科)
- P3-53 PICU での小児終末期移行における看護師の役割と感じたジレンマ  
小畑 さくら (聖マリアンナ医科大学病院 小児緩和・グリーンケア部会)

#### 遺族のケア

(P3-54 ~ P3-58)

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)

6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)

ポスター会場

- P3-54 急性期病院におけるグリーンケア外来の立ち上げと緩和ケアチーム看護師としての役割  
福田 有梨 (社会医療法人愛生会 総合上飯田第一病院 緩和ケアチーム / 社会医療法人愛生会 総合上飯田第一病院 看護部)
- P3-55 がん患者の遺族における精神心理的支援のニーズとその関連要因  
内田 恵 (名古屋市立大学大学院医学研究科 精神認知行動医学 / 名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター)
- P3-56 遺族会参加者の参加動機の質的分析 -Worden の悲嘆の課題モデルを軸に -  
深澤 一菜子 (静岡県立こども病院 診療支援部 育成支援室 / 静岡県立こども病院 グリーンケア部会)
- P3-57 在宅でがん患者を看取った家族の well-being の構成概念の探索と専門職支援との関連性の検討  
中村 江衣 (日本医療大学保健医療学部看護学科)
- P3-58 がんで親を亡くした子どもを対象とした集いの実践とその意義  
太良 哲彦 (社会医療法人博愛会 相良病院 腫瘍内科・緩和ケア科)

**相談支援・がんカウンセリング  
(P3-59 ~ P3-64)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P3-59 延命目的に外来化学療法を行っている、子育て世代にある患者と家族に必要な支援とは ~治療期の苦痛のスクリーニングから~  
新田 香澄 (岩手県立久慈病院 看護科)
- P3-60 がん看護外来の運用状況と緩和ケア認定看護師の腫瘍内科外来への配置による成果と課題  
千葉 淳 (東北労災病院 看護部)
- P3-61 患者・家族がアクセスしやすい栄養相談体制の整備に向けて —3万件の相談分析から—  
小泉 和可奈 (国立がん研究センター がん対策研究所 がん医療支援部)
- P3-62 がん患者支援団体「認定NPO法人あいおぶらす」の活動と今後の課題 ~あいおぶらすの家『いっぽいっぽ』の取り組み 第2報~  
三堀 いずみ (認定NPO法人あいおぶらす/学校法人 湘南ふれあい学園 湘南医療大学)
- P3-63 最善を尽くしたいと願う患者を支えたがん相談支援の一事例  
赤地 桂子 (埼玉県済生会川口総合病院 がん相談支援センター)
- P3-64 がん患者の診断告知後の心理社会的苦痛への看護実践とその効果についての文献検討  
光行 多佳子 (東京医科大学医学部看護学科)

**ピアサポート・患者会・家族会  
(P3-65 ~ P3-70)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P3-65 罹患経験を持つ看護師によるピアサポート介入の効果  
佐藤 美紅 (宮城県立こども病院)
- P3-66 鍼灸マッサージとヨガを取り入れたがんサロンの取り組み  
高久 秀哉 (水戸済生会総合病院緩和ケア内科/筑波技術大学保健科学部附属東西医学統合医療センター)
- P3-67 当院で開催している対面とオンラインを併用したがん患者会(オレンジ会)の活動報告  
吉田 萌 (労働者健康福祉機構関東労災病院)
- P3-68 神奈川県内のがん診療連携病院における「がんサロン」運営の現状と工夫  
中嶋 須磨子 (新百合ヶ丘総合病院 緩和ケアチーム/新百合ヶ丘総合病院 看護部)
- P3-69 中山間地域を含む地方圏における院内ピアサポート実装準備の課題  
大野 裕美 (四国大学大学院看護学研究科)
- P3-70 リンパ浮腫患者のこえをきき、リンパ浮腫がんサロンをともにつくる  
吹田 智子 (箕面市立病院 患者支援センター 相談支援室/箕面市立病院 リンパ浮腫ケア外来)

**社会的・経済的問題・就労の問題  
(P3-71 ~ P3-75)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P3-71 身寄りのいない壮年期の終末期がん患者の療養支援  
松本 幸絵 (地方独立行政法人栃木県立がんセンター)
- P3-72 石綿関連悪性腫瘍の社会的問題について介入を行った2症例  
須山 隆之 (特定医療法人雄博会 千住病院 緩和ケア科)
- P3-73 大腸がん術後に化学療法を受けながら復職する患者のレジリエンス —患者を支える環境の側面に焦点を当てて—  
千葉 泉海 (奈良県立医科大学附属病院 看護部)
- P3-74 化学療法を受ける壮年期食道がん患者の社会的役割遂行上の困難と対処  
田口 誉 (秋田大学大学院医学系研究科博士前期課程 診療看護師コース/秋田大学医学部附属病院 看護部)
- P3-75 乳癌治療の中断に心理社会的問題がかかわった2症例  
中村 久美子 (山口県立総合医療センター麻酔科)

**その他の精神・心理・社会的ケア・スピリチュアルケア  
(P3-76 ~ P3-90)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P3-76 **がん患者の遺族が抱えるスピリチュアルペインと関連因子の検討 —J-HOPE4 データを用いた分析—**  
平本 秀二 (医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック/滋賀医科大学 社会医学講座法医学部門)
- P3-77 **がん患者・家族、医療従事者を支える新たなアプローチ～「ティラ活」を通じた支援の可能性～**  
高田 知世 (国立病院機構 栃木医療センター 薬剤部/国立病院機構 栃木医療センター 緩和ケアチーム)
- P3-78 **小児がん患者がレジリエンスを獲得するために必要な心理社会的支援とは**  
岩淵 晴子 (新潟県立がんセンター新潟病院緩和ケア内科/新潟大学医歯学総合病院小児科)
- P3-79 **職員に活用される「がん患者の自殺予防対応マニュアル」の作成と予防対応行動の促進を図る工夫と効果**  
重廣 奈緒子 (JA 尾道総合病院 緩和ケアチーム)
- P3-80 **壮年期にある終末期患者の希望を支えるためのケア**  
田嶋 友歌 (社会福祉法人 仁生社 江戸川病院 看護部)
- P3-81 **認定看護師によるコンサルテーションの意義～がん末期患者へのケアを通じた病棟看護師の変化～**  
鈴木 ゆりえ (国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院)
- P3-82 **補完代替医療への信念と社会的脆弱性が、がん治療中断への意思決定に影響した6歳の小児脳腫瘍例**  
金澤 剛二 (日本大学医学部附属板橋病院 小児科/日本大学医学部附属板橋病院 緩和ケア・痛みセンター)
- P3-83 **メサドン著効後に緩和ケア病棟を嫌い、地域包括病棟に転棟した1例**  
藪 潤 (医療法人協和会 協和マリナホスビタル 緩和ケア内科)
- P3-84 **「在宅で最後を迎えたい」とは限らない - 化学療法中患者の終末期療養希望の実態**  
伊藤 美里 (伊那中央病院 包括的がん治療センター 腫瘍内科 緩和ケアチーム)
- P3-85 **がん患者における心理社会的支援サービスの利用中断・終了の背景と継続ニーズ**  
松井 智子 (大阪大学大学院人間科学研究科学生支援室)
- P3-86 **視力障害の進行及び全盲に至る経緯の精神的変化に着目した緩和ケアの開始により良好な関係性の構築が可能となった一症例**  
久保田 敬乃 (川崎市立井田病院緩和ケア内科)
- P3-87 **人との交流を生きがいとしていた患者が、がんの罹患や転移を契機に悲嘆や喪失感を抱いた事例 - スピリチュアルケアの視点から -**  
後藤 舞美 (独立行政法人国立病院機構 別府医療センター)
- P3-88 **新たな「わたしの音楽」との出会い～疼痛コントロールにおける緩和ケアのあり方～**  
吉田 輝々 (埼玉医科大学総合医療センター緩和医療科)
- P3-89 **ICI 時代のがんサバイバーシップと緩和ケア**  
佐藤 栄一 (北九州市立医療センター 外来化学療法センター・腫瘍内科)
- P3-90 **大学祭における小児がんチャリティーイベントが持つ患者支援の意義を考える**  
長 祐子 (北海道大学病院 小児科)

**在宅緩和ケア  
(P4-1 ~ P4-45)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P4-1 **地域で看取る一スピリチュアル・ウェルビーイングに焦点を当てて一**  
貞方 初美 (在宅看護センター だんわ)
- P4-2 **頭頸部癌終末期患者の在宅緩和ケア—病院と在宅を繋ぐ専門医連携—**  
高橋 秀行 (医療法人あい友会 あい駒形クリニック)
- P4-3 **在宅療養下で胸腔ドレーン管理を行った終末期患者の四例**  
椎名 裕樹 (医療法人社団 真 ゆかりホームクリニック)
- P4-4 **当院におけるがん訪問診療導入リードタイムの長期化要因に関する検討**  
上林 孝豊 (京都民医連あすかい病院)
- P4-5 **「眠り SCAN」に関するアンケートから分析する介護施設におけるテクノロジーの活用の現状と今後の課題**  
斉藤 麻衣 (SOMPO ケアそんぼの家交野)

- P4-6 在宅緩和ケア患者におけるエドモントン症状評価システム改訂版を使用した苦痛症状の評価  
松村 千佳子（神戸大学大学院 医学研究科／My Angel Labo）
- P4-7 福井県における在宅 PCA ポンプ普及に向けてのアンケート調査  
加藤 泰史（福井県済生会病院 緩和ケア科）
- P4-8 生活破綻への介入と緩和ケアを両軸で実践した在宅終末期ケアの一症例  
宮武 佳菜枝（医療法人社団思葉会 MEINHAUS 訪問看護ステーション）
- P4-9 A 病院の認定看護師による退院後訪問指導を通して～患者・家族が望むその人らしい最期を迎えるための関わり～  
多田 都子（大阪府済生会富田林病院）
- P4-10 当院における癌終末期在宅療養の問題点を感じた症例  
武知 浩和（公立学校共済組合 四国中央病院 緩和ケア外科）
- P4-11 訪問看護現場における「苦悩の共有」と「ケアの共創」～地域を越えた対話が紡ぐ、明日への勇気～  
吉村 元輝（みんなのかかりつけ訪問看護ステーション）
- P4-12 ホスピス住宅で死亡した入居者の ADL・医療処置・費用の特徴：がんと難病の後ろ向き比較研究  
笹原 朋代（茨城県立医療大学保健医療学部看護学科）
- P4-13 ホスピス住宅に求められるケアの在り方～在宅緩和ケアの視点から考える～  
白川 美弥子（医療法人矢津内科消化器科クリニック／ひと息の村訪問看護ステーション）
- P4-14 輸血を必要とする患者の在宅療養を可能にした要因  
山田 真弓（トータス往診クリニック／NPO 血液在宅ねっと）
- P4-15 認知機能低下のある独居のがん末期患者の在宅看取りを支えた訪問看護の実践 ～できる限り安全・安楽に自宅で過ごすための看護ケアと多職種連携で支えた事例～  
渡邊 摩実（アール・クラ横浜ベイ）
- P4-16 がん患者の希望する看取りの場所の変化とその転機について  
竹井 清純（ホームアレークリニック城南／PHC おぎくぼ在宅診療所）
- P4-17 非がんの患者に自宅でオピオイド使用を含む終末期緩和ケアを行った3例の報告  
村上 慶高（ひまわり在宅クリニック）
- P4-18 終末期がん患者における「自分らしさ」を支えた看取りの実践～看取りの場所が異なる2症例～  
矢野 靖江（医療法人あい友会 あい駒形クリニック）
- P4-19 在宅緩和ケアにおけるオピオイド誘発性便秘症の治療  
大西 宙（双愛会ツインハート在宅クリニック蒲田）
- P4-20 在宅緩和ケアにおける利用者及び家族によるハラスメントの分析  
幸田 杏美（ひと息の村訪問看護ステーション）
- P4-21 在宅緩和ケアを担う看護小規模多機能型居宅介護の持続可能な運営モデル  
市橋 康佑（医療法人社団 思葉会 MEIN HAUS）
- P4-22 患者・家族が参加可能な ICT を活用した多職種連携による在宅看取りの1例  
古閑 悠輝（市立大村市民病院）
- P4-23 訪問リハビリテーション介入により活動範囲拡大と QOL 向上を認めた進行乳がんによる病的骨折の1症例  
日當 泰彦（秋本クリニック訪問看護ステーション）
- P4-24 警察の協力が必要だったケースワーカーとの関わりが困難な身寄りのない生活保護受給者の自宅看取り例～行政や葬儀社のインタビューも交えて～  
渡辺 啓太郎（栄光病院 在宅医療センター）
- P4-25 在宅療養中のがん末期利用者に対する訪問リハビリテーション ～全人的苦痛を踏まえた、生活に根ざした支援の実践報告～  
荷見 菜々（さつきホームクリニック／さつき訪問リハビリステーション）
- P4-26 在宅緩和ケアにおける患者の複雑なニーズの実態  
大日方 裕紀（北海道大学大学院保健科学研究院）
- P4-27 緩和ケア病棟における在宅緩和ケア症例のデスクカンファレンス開催意義  
松長 成美（厚生連高岡病院 緩和ケアセンター）

- P4-28 「何もしてあげられない」から「本人の希望を叶えたい」へ ～感情表出の乏しい夫への意思決定支援が奏功した在宅看取りの一例～  
木村 和恵（あい太田クリニック）
- P4-29 訪問診療における多職種協働による施設看取り支援の実践 —「生活の延長」として看取りを支える取り組み—  
松本 美奈（医療法人溪仁会 手稲家庭医療クリニック）
- P4-30 在宅緩和ケアにおける「定期巡回・随時対応型訪問介護サービス」の有用性と今後の課題の検討  
五島 正裕（ホームケアクリニックこうべ）
- P4-31 独居高齢者の在宅看取りにおける意思決定支援～社会的緩和ケアの視点から～  
森 あゆみ（もん訪問看護ステーション天白）
- P4-32 がん患者の在宅療養における適切な症状緩和を目指して —遺族アンケートに基づくアウトカム評価と今後の展望—  
伊丹 知子（医療法人自由会 こうなんクリニック）
- P4-33 外来薬物療法を受けるがん患者の電話トリアージにおける熟練看護師の判断指標  
渡邊 千春（新潟医療福祉大学 看護学部 看護学科）
- P4-34 終末期ケアにおける家族・医療チーム双方のバイアス構造 —訪問看護師である家族をもつ症例の検討—  
大塚 明子（医療法人あい友会 あい駒形クリニック）
- P4-35 自宅療養中の終末期がん患者に対するブプレノルフィン持続皮下注射の使用実態と有害事象に関する単施設後方視研究  
渡邊 紘章（在宅緩和ケアあすなろ医院）
- P4-36 当院の訪問リハビリテーション終了者における要因の分析—後方視的な調査から得られたもの—  
大武 尚幸（訪問診療クリニックやまがた）
- P4-37 在宅緩和医療におけるミッドラインカテーテル留置の実践 ～末梢確保困難症例における新たな選択肢～  
鈴木 優太郎（悠翔会在宅クリニックみもみ）
- P4-38 地域緩和ケアチームによる在宅緩和ケア支援の有用性 ～在宅未経験医師が担当した終末期がん2例の検討～  
柴田 昌枝（医療法人広至会 かんわ訪問看護ステーション）
- P4-39 小児急性リンパ性白血病に対するプリナツモマブ在宅持続投与の緩和的意義  
古賀 友紀（独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 小児・思春期腫瘍科）
- P4-40 在宅緩和ケアにおいて多職種連携のもと全人的苦痛の緩和と生活の質向上を目指した一症例 ～急性骨髄性白血病患者への訪問リハビリでの関わり～  
池澤 俊光（さつき訪問リハビリステーション）
- P4-41 ユニバーサル・ホスピスマインドを共有する村における看取りの研究 —在宅看取り率70.6%の検討と遺族の満足度調査—  
小川 信（医療法人 にのさかクリニック／国民健康保険 大和診療所）
- P4-42 日本語での意思疎通が困難ながん終末期患者とその家族が、言葉の壁があっても安心して自宅での看取りを迎えられるよう支援した一例  
渡邊 真理子（医療法人愛和会 訪問看護ステーション愛和）
- P4-43 演題取下げ
- P4-44 在宅看取り阻害要因の探索～中山間地域のがん診療連携拠点病院における在宅緩和ケアの実践から  
高石 美樹（市立三次中央病院 緩和ケア内科）
- P4-45 退院当日に自宅で看取りとなった末期状態の方と家族への訪問看護  
中村 久美（訪問看護ステーションなでしこ3号館）

**退院支援・退院調整  
(P4-46～P4-51)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P4-46 急遽在宅への退院となった症例 退院決定から在宅までの1時間  
橋本 芳正（洲本伊月病院 緩和ケアチーム）
- P4-47 過敏性肺炎で退院困難だった終末期下咽頭癌患者に対して自宅環境調査を行い抗原回避を指導して帰宅可能となった一例  
鈴木 雄大（特定医療法人雄博会 千住病院 緩和ケア内科）

- P4-48 外来カンファレンスと地域カンファレンスを活用した退院調整看護師の関わり～認知機能低下、在宅サービス利用拒否がある高齢肺癌患者の在宅療養移行支援～  
渡邊 裕美（公益財団法人 筑波メディカルセンター病院）
- P4-49 小細胞肺癌の終末期における療養場所についての検討  
長崎 拓己（藤枝市立総合病院呼吸器内科）
- P4-50 急性期病院において、終末期患者・家族の意向に添いながら自宅看取りとなった一例  
横田 璃梨花（中頭病院医療相談室）
- P4-51 「答えを求めない関わり」がもたらす支援効果 — 末期がん患者と家族への介入事例  
松本 由美子（日本医科大学多摩永山病院患者支援センター）

**緩和ケアにおける地域連携  
(P4-52 ~ P4-86)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P4-52 地域多職種向け緩和ケアセミナーのハイブリッド開催における3年間の実践と成果  
小原 由里（藤沢湘南台病院 患者総合支援センター 医療福祉相談室）
- P4-53 介護支援専門員（ケアマネジャー）の抱える緩和ケアについての困難感やニーズに関する調査  
坂東 直樹（健生会吉田病院 内科・地域緩和ケアサポート）
- P4-54 かかりつけ医機能としての地域連携  
岡村 新一（おかむらクリニック／西岡医院）
- P4-55 切れ目のない地域緩和ケア連携における緩和ケア科とホスピス型住宅とのかかわり ～緩和ケア科が提供するホスピス型住宅への訪問診療の意義～  
三島 敬（医療法人平和会 平和病院 緩和支援センター／医療法人平和会 平和病院 緩和ケア病棟）
- P4-56 日本の終末期がん患者における麻薬使用量の地域での違い：レセプトデータを用いた在宅医療と病院療養の比較—第2報  
大和田 啓暉（東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンター）
- P4-57 在宅療養支援診療所に所属するがん看護専門看護師による同行訪問の実際—訪問看護ステーションのアンケート結果より考察—  
志方 優子（奈良県立医科大学附属病院）
- P4-58 高齢終末期患者に対してライフケアバランスを考えた在宅療養の実現への道のり～家族として支えた緩和ケア医の取り組み～  
廣川 智（平塚市民病院 緩和ケア内科）
- P4-59 北海道地域緩和ケア研修会「どさんコロジ一定例会」に対する医療介護従事者のニーズ  
藤原 葉子（ホームケアクリニック札幌）
- P4-60 青森県地域緩和ケア連携調整員研修の地域展開に関する評価  
山下 慈（青森県立中央病院 サポートケアセンター）
- P4-61 慢性期病院における、病棟看護師の緩和ケアの実践と困難感の質問紙調査  
藤田 晋也（株式会社麻生 飯塚病院 連携医療・緩和ケア科／医療法人博愛会 京都病院 内科）
- P4-62 がんと共に生きる子どもの学校優先の希望を地域・多職種で支えた症例  
堀木 としみ（医療法人社団ときわ赤羽在宅クリニック）
- P4-63 病院的緩和ケア内科から在宅医療へのアウトリーチがもたらしたものは？  
加藤 博美（公益社団法人鹿児島共済会 南風病院 緩和ケア内科／医療法人ナカノ会ナカノ在宅医療クリニック）
- P4-64 京滋緩和ケア研究会 30年の活動報告 ～COVID-19感染症流行後の新たな形での活動の再開～  
吉岡 亮（三菱京都病院 腫瘍内科・緩和ケア内科）
- P4-65 低心肺機能と透析を合併した進行肺癌患者における療養場所決定の困難さ — 多様なニーズと施設の制限との葛藤  
齋藤 恵美子（兵庫県立尼崎総合医療センター）
- P4-66 緩和的放射線治療を目的とした地域医療機関との連携強化および紹介促進の取り組み  
南平 結衣（三重県立総合医療センター 放射線治療科／三重県立総合医療センター 緩和ケアチーム）
- P4-67 がん末期 DNAR 合意形成がある方の小樽市消防本部救急隊長経験者への実態調査  
福森 星輔（社会福祉法人恩賜財団済生会支部北海道済生会小樽病院 緩和ケアチーム）

- P4-68 在宅終末期患者の緊急搬送における P (Palliative) カードの有用性 ～訪問診療医を対象としたアンケートによる評価～  
山本 直美 (若草第一病院 看護部)
- P4-69 多職種在宅緩和ケアチームによる交流会・カンファレンスの企画運営 一顔の見える地域緩和ケア体制づくりの実践～  
齊藤 名歩 (さつきホームクリニック/さつき訪問看護ステーション)
- P4-70 支援困難事例を抱え込まない地域連携～看護小規模多機能型居宅介護が担うハブ機能の一事例～  
市橋 正子 (医療法人社団思葉会 MEIN HAUS)
- P4-71 緩和ケア病棟への入棟相談時に望ましい意向確認と理解・納得の程度についての研究—全国調査による施設間差異の検討—  
長谷川 友美 (国立病院機構 大阪医療センター 医療福祉相談室/がん相談支援センター)
- P4-72 当院緩和ケア病棟における在宅終末期がん患者への後方支援～バックベッド登録した入院患者の分析から～  
久保田 一葉 (札幌清田病院 緩和支援医療センター 地域医療連携室)
- P4-73 北九州・京築地域の緩和ケア連携推進に向けての現状と課題について ～訪問看護師を対象とするオンライン調査からの検討～  
太郎良 純香 (北九州市立医療センター)
- P4-74 在宅緩和ケア移行期における訪問 / がん看護専門看護師の役割～退院前カンファレンスを最大化する～  
福田 麻実 (株式会社 虹の街 虹の街訪問看護ステーションいずみ)
- P4-75 在宅療養における医療デバイスに関する勉強会の有用性に関する調査 —訪問看護師を対象とした調査結果からの考察—  
笠原 庸子 (医療法人秋本クリニック)
- P4-76 高齢肺癌患者の看取りの場所に関連する因子の検討：単施設後方視的検討  
平島 智徳 (藤井会 石切生喜病院 呼吸器腫瘍内科)
- P4-77 急性期がん専門病院歯科における地域歯科との連携実態 — 歯科選定患者への後方支援の 6 年の活動報告  
石橋 美樹 (地域独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター がんオーラルケア・歯科口腔外科)
- P4-78 有床診療所を拠点とした新しい全病期的な緩和ケアクリニカルパスの導入と多職種連携の取り組み～『かなでプロジェクト』活動報告～  
米田 宜美 (医療法人明星会 星野クリニック)
- P4-79 生きる意味の喪失をきたし治療に拒否的姿勢を示した乳がん患者に対して無床診療所および訪問看護での緩和ケアが有効であった一例  
川上 恵子 (星のライフクリニック)
- P4-80 在宅療養中に他院入院となった 9 例の振り返り：希望一致と回避可能性の検討  
加藤 薫 (かとう内科並木通り診療所)
- P4-81 在宅医同士の連携により在宅輸血を行った小児がん患者の 1 例  
川村 健太郎 (医療法人稻生会生涯医療クリニックさっぽろ)
- P4-82 演題取下げ
- P4-83 当院における胃がん患者の終末期医療の変化 ～在宅医療が与える影響についての後方視的研究～  
山北 伊知子 (広島市立北部医療センター安佐市民病院 がんゲノム診療科兼腫瘍内科・通院治療センター次長)
- P4-84 『見取り搬送』システムという緩和ケアにおける地域連携 ～当院の取り組み状況と今後の課題～  
藤井 仁志 (岩手県立久慈病院 外科)
- P4-85 HIV 感染症・血友病を合併したがん患者の緩和ケア病棟受け入れに関する全国調査 ～がん拠点病院と緩和ケア病棟の施設間認識差と有効な改善策の検討～  
相木 佐代 (独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科/独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター がん相談支援センター)
- P4-86 地域緩和ケアにおける療養病床の有用性  
藤木 啓 (医療法人社団誠和会藤木病院)

- P4-87 小児神経疾患に関わる医師と看護師の医療用麻薬に対する認識  
野崎 章仁 (滋賀県立総合病院 遺伝科)
- P4-88 緩和ケア病棟新規開設後5年6ヶ月におけるAYA世代入院症例の検討  
栗崎 功己 (社会医療法人抱生会 丸の内病院 緩和ケア内科)
- P4-89 濃厚な治療歴を有する神経芽腫高リスク群患児に対して、在宅移行を行った3例の経験  
遠渡 沙緒理 (岐阜大学大学院医学系研究科 難治性脈管異常医学講座)
- P4-90 大学病院における小児緩和ケアチーム発足後1年4か月間の活動報告  
前田 久美子 (東邦大学医療センター大森病院 小児緩和ケアチーム/東邦大学医療センター大森病院 看護部)
- P4-91 AYA世代がん患者の「生活のしにくさ」と心理的支援ニーズの分析：質問票を用いた現状評価  
前田 貴司 (広島赤十字・原爆病院 外科/同 緩和ケアチーム)
- P4-92 総合病院における小児緩和ケアチームの活動の実態調査  
山本 光映 (聖路加国際病院 看護部)
- P4-93 当センターが関わった小児・AYA世代死亡例の後方視的検討  
末藤 美貴 (三重大学医学部附属病院 小児・AYAがんトータルケアセンター)
- P4-94 AYA世代のがん看護における困難感の要因とその軽減の検討：知識、意識、経験の影響  
二瓶 恭子 (大崎市民病院 AYA世代支援チーム)
- P4-95 AYAがん患者の在宅看取り事例を振り返って～最期まで成熟しようとする患者・家族への支援～  
長久 栄子 (真生会富山病院 緩和ケアセンター)
- P4-96 小児血液悪性腫瘍終末期における看取りの場と医療実態：自宅看取りに着目した後方視的検討  
郷古 康愛 (日本大学医学部附属板橋病院 小児科)
- P4-97 複雑な医療的ケアのあるこどものQOLの代理評価：スコーピングレビュー  
林田 真来 (三重大学大学院医学系研究科看護学専攻)
- P4-98 完全非公開型医療介護専用SNSを活用し終末期医療を行った県外在住の小児固形腫瘍患者  
越智 元春 (岡山大学病院 小児科/岡山大学病院 緩和ケアチーム)
- P4-99 当院における小児緩和ケアチームの活動の実態と今後の課題  
山下 貴郁 (筑波大学附属病院看護部・緩和ケアセンター)
- P4-100 小児がん患者の中等度から重度の痛みに対するオピオイド鎮痛薬使用に関する最新のエビデンス：スコーピングレビュー  
永井 義浩 (京都府立医科大学附属病院疼痛・緩和ケア科)
- P4-101 当院における小児への緩和ケアの介入の現状と課題  
米倉 千奈津 (信州大学医学部附属病院 消化器内科)
- P4-102 当院における予後不良な小児がんの在宅医療連携の実態と課題 - 診療録を用いた後方視調査 -  
矢野 恵理 (長野県立こども病院療育支援部)
- P4-103 小児専門病院における小児緩和ケアチームの役割：電子診療録による後方視的検討  
鞍谷 沙織 (国立成育医療研究センター 総合診療部 緩和ケア科)
- P4-104 18トリソミー児と家族に対する周産期緩和ケアの実践と意思決定支援 パースプランの活用を通して  
勝又 薫 (神奈川県立こども医療センター新生児科/神奈川県立こども医療センター緩和ケア普及室)
- P4-105 小児がん在宅緩和医療のグリーン訪問の取り組み  
杉山 正伸 (医療法人財団ときわ 赤羽在宅クリニック/医療法人財団ときわ 大宮在宅クリニック/東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科)
- P4-106 小児期の造血細胞移植における自己調節鎮痛法の後方視的検討  
足洗 美穂 (聖路加国際病院小児科)
- P4-107 「こどものこえ」を研究に取り入れることは可能か？：小児がん経験者へのインタビュー調査を通じた一考察  
高山 温子 (東京大学医学部附属病院 看護部)
- P4-108 こども達の“いい顔”を大切にす共同体として重症児と家族とともにあるケアモデル—専門職としての就労と市民的関与の実践—  
熊谷 智子 (医療法人社団思葉会 MEIN HAUS)

- P4-109 子育て世代がん患者支援をめぐるオンライン月例症例検討会の取り組み—知見共有と医療者支援の可能性—  
木原 歩美（京都民医連あすかい病院）
- P4-110 フィラデルフィア染色体陰性急性リンパ性白血病に多発脳出血を合併した AYA 世代患者に対する精神的サポートと多職種協働について  
田原 雪乃（社会医療法人敬愛会中頭病院 血液腫瘍内科・消化器内科病棟）
- P4-111 こどものこえを安全にすくい上げる研究手法とは？：小児がん経験者へのフォーカスグループインタビューを通じて  
入江 亘（順天堂大学大学院医療看護学研究科）
- P4-112 小児びまん性橋膠腫患児の在宅療養期における、医療と暮らしをつなぐ遊びを中心とした伴走支援の活動報告  
猪村 真由（一般社団法人 child play lab.）

**高齢者の緩和ケア  
(P4-113 ~ P4-122)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P4-113 高齢者悪性リンパ腫に対する緩和医療の検討  
山口 法隆（新横浜リハビリテーション病院）
- P4-114 「胃瘻はしない」と決めてからの栄養管理と地域連携  
大家 理恵（公立学校共済組合北陸中央病院内科/同 NST）
- P4-115 高齢者福祉施設における看取り期の「食」をめぐる意味形成とリハビリ専門職の役割—物語構成による二事例報告—  
山本 秀美（株式会社 ハーフ・センチュリー・モア サンシティ木津）
- P4-116 特別養護老人ホームにおけるがん終末期患者の療養～がん関連認定看護師の支援と今後の課題～  
草間 泰子（済生会広島病院）
- P4-117 認知症とがんを合併した患者家族への MSW のアプローチに関する一例  
羽馬 寛子（藤沢湘南台病院 医療福祉相談室）
- P4-118 外来治療する後期高齢がん患者への医療者の支援～医師の包括的な診療内容に焦点を当てて～  
廣瀬 未央（高知県立大学看護学部）
- P4-119 独居高齢者の生活様式の維持と治療継続の看護支援  
中川 吉恵（社会医療法人 高清会 高井病院 乳腺外科外来）
- P4-120 造血器腫瘍の化学療法を受ける高齢患者のインフォームドコンセントにおける看護師の役割認識と行動  
河合 房乃（元 関西国際大学看護学研究科）
- P4-121 外来高齢がん患者に対する緩和ケア早期介入モデル構築に向けた検討—初診時評価を基盤とした院内連携システムと緩和ケア認定看護師の役割—  
萩谷 翔太（静岡県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程）
- P4-122 心肺蘇生を希望しないという意思を示していたにも関わらず、予期せぬ心肺停止状態で発見された際に心肺蘇生が行われた3例  
庄子 聡（あおぞら在宅診療所 仙台南）

**非がん患者の緩和ケア(認知症)  
(P4-123 ~ P4-124)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P4-123 誤嚥性肺炎の呼吸困難に対するモルヒネ持続静注の臨床的検討  
岩田 安弘（西能みなみ病院診療部）
- P4-124 精神科病院における終末期認知症患者の看取りケアに対する看護師の認識  
梶山 倫子（医療法人三星会かわさき記念病院）

**非がん患者の緩和ケア(呼吸器疾患、心疾患)  
(P4-125 ~ P4-133)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P4-125 看護師が COPD 患者に対して行う緩和ケアが患者に与える心理社会的影響：スコーピングレビュー  
加藤 希彩（三重大学医学部看護学科）

- P4-126 在宅末期膀胱癌・心サルコイドーシス併存患者における ICD 停止の意思決定支援と看取りの一例  
橋本 孝太郎 (ふくしま在宅緩和ケアクリニック)
- P4-127 間質性肺炎患者の終末期についての検討  
佐藤 真季子 (群馬大学医学部附属病院 呼吸器アレルギー内科)
- P4-128 間質性肺炎患者の安静時呼吸困難に対するモルヒネの有効性：プラセボ対照単盲検無作為化第 II 相試験 (JORTC-PAL15)  
萩本 聡 (公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科/公立陶生病院 緩和ケア内科)
- P4-129 「人生の最終段階における埋込み型除細動器 (ICD) の除細動機能停止」を含む患者と家族の意思決定支援に複数の多職種チームが関与した重症心不全の 1 例  
齋藤 義之 (社会医療法人 立川メディカルセンター 立川総合病院 緩和治療内科)
- P4-130 心不全患者の緩和ケア、ACP の重要性を考える一例 ～カテコラミンを継続して在宅復帰するためには～  
長谷川 記三子 (訪問看護ステーション Style)
- P4-131 終末期心不全患者の ACP・在宅看取りに向けた課題に取り組む ～地域カンファレンスの開催を通して～  
小林 美喜 (筑波メディカルセンター病院 看護部)
- P4-132 超高齢心不全患者の在宅看取り一慌てた救急要請を経て～  
前角 衣美 (よだか診療所)
- P4-133 人工呼吸管理下における呼吸器感染症患者の呼吸困難に対するフェンタニルからモルヒネへのスイッチング—等換算量と必要量の個人差を示した 2 症例—  
東 有佳里 (公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院 緩和ケア内科/公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院 緩和ケアチーム)

**非がん患者の緩和ケア(神経疾患)  
(P4-134～P4-139)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P4-134 難病相談支援員が行う難病療養者への支援に関する研究  
名越 恵美 (岡山県立大学 保健福祉学部 看護学科)
- P4-135 Respiratory Distress Observation Scale を用いて終末期の呼吸困難を評価した重症心身障害者の 3 例  
松村 渉 (西部島根医療福祉センター 小児科)
- P4-136 高用量オキシドロンが有効であった HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) に伴う重度神経障害性疼痛の一例  
相木 佐代 (医療法人みんと会 にしはらクリニック/独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科)
- P4-137 孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病患者 2 例に対する在宅緩和ケアの経験  
永井 拓 (ふくしま在宅緩和ケアクリニック 診療部)
- P4-138 多職種により意思決定支援を行った筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の一例  
前野 有理 (あい太田クリニック)
- P4-139 包括的高度慢性下肢虚血に伴う足趾切断後疼痛に対し、ミロガバリンを含む段階的鎮痛介入が有効であった一例  
大谷 拓也 (順天堂大学医学部附属浦安病院 薬剤科)

**非がん患者の緩和ケア(腎疾患、その他)  
(P4-140～P4-145)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P4-140 脳卒中回復期患者における統合緩和アウトカムスケールを用いた包括的症状評価  
石田 ゆず (社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院)
- P4-141 透析患者の下肢壊疽に伴う疼痛に対し薬物療法・非薬物療法等多面的アプローチで疼痛コントロールを行なった事例  
児玉 麻衣子 (福井大学医学部附属病院緩和ケアチーム)
- P4-142 療養型病床を有する透析施設における緩和ケアの現状  
渡邊 哲子 (富谷中央病院)
- P4-143 透析患者の最期の時間を支えるための職種・施設・診療科を越えた連携の試み  
松田 浩明 (つばさクリニック岡山)
- P4-144 透析中のがん患者に対する緩和ケアチームの関わり～当院の課題と多職種連携について～  
吉田 園美 (伊那中央病院)

P4-145 **Oncologic Peritoneal Dialysis 担がん維持透析患者が最期まで自宅で快適に生活できることを目指して**  
松本 佳祐 (埼玉医科大学病院 緩和医療科/埼玉医科大学病院 緩和ケアチーム/埼玉医科大学病院 救急科)

**集中治療での緩和ケア  
(P4-146 ~ P4-149)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P4-146 「延命のため」から「よりよく生きるため」へ医療行為の意味を再定義し、気管切開に至った一症例  
田中 萌生 (新潟市民病院 緩和ケア内科)
- P4-147 救急医療における患者死亡退院後の遺族へのグリーフケアに対する認定看護師の認識  
糸賀 萌 (大阪大学医学部保健学科)
- P4-148 救急・集中治療において成人先天性心疾患 (ACHD) 患者に ICU 入室時から緩和ケア介入を行った事例  
真室 茅花 (東京都立多摩総合医療センター ICU)
- P4-149 緩和的な視点から人工呼吸からの抜管を自宅で行った症例～家族の希望する「自宅での穏やかな看取り」のために～  
中屋 真由美 (鹿児島県立大島病院 看護部)

**その他の地域・在宅緩和ケアと特定集団に対する緩和ケア  
(P4-150 ~ P4-160)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P4-150 緩和ケア病棟で死亡した肝細胞癌患者における Child-Pugh 分類とオピオイドの使用状況について  
矢田 崇純 (宮崎医療センター病院)
- P4-151 介護老人保健施設における看取りの現状 ～ターミナルケア加算の推移から見えたもの～  
佐伯 尚美 (医療法人 いちえ会 介護保険施設 せんけい苑)
- P4-152 デイホスピス事業の実績と課題  
甲斐 京子 (医療法人矢津内科消化器科クリニック 緩和ケアサロン「ほっとひと息」)
- P4-153 緩和ケア認定看護師による社会的孤立を予防する保健室の取り組み  
松岡 サチ子 (野村医院)
- P4-154 在宅療養中の高齢がん患者に対するデジタル回想コラージュの有効性について  
坂口 聡子 (令和健康科学大学リハビリテーション学部作業療法学科/広島大学大学院医系科学研究科 精神機能制御科学研究室)
- P4-155 「どさんコロジ」～オール北海道で緩和ケアの均てん化に取り組む“地域からの活動”報告～  
小田 浩之 (北見赤十字病院 緩和ケア内科/東京都立大学大学院 都市環境科学研究科)
- P4-156 血液悪性腫瘍患者の終末期ケアの質にコロナ禍が与えた影響  
木原 里香 (JA 愛知厚生連 江南厚生病院 緩和ケア内科)
- P4-157 就労・子育て期がん患者の医療的孤立に対し、地域かかりつけ医が緩和ケア提供者として主治医機能を継続し在宅看取りに至った1例  
栗林 泰子 (社会医療法人河北医療財団あいクリニック)
- P4-158 高用量メサドン使用患者に対する在宅療養支援と施設移行の経験  
吉田 耕輔 (一般社団法人誠創会あさがおクリニック)
- P4-159 重症心身障害児者施設における緩和ケアチーム・意思決定支援チームの活動の実際  
齋藤 菜穂 (東京都立府中療育センター小児科/秋谷潮かぜ診療所)
- P4-160 当院における精神疾患を有するがん患者に対する緩和ケア  
中山 啓 (富山市立富山市民病院 緩和ケア内科)

**予後予測  
(P5-1 ~ P5-11)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P5-1 急性期病院における主治医の主観的予後予測 (CPS) と実際の生存の乖離およびその要因解析—プロトコルー  
白石 朝子 (産業医科大学病院緩和ケアセンター)

- P5-2 予後予測の過小評価が医療介入に影響した一事例  
矢間 友美（鳥取大学医学部附属病院 緩和ケアチーム）
- P5-3 進行がん患者における Palliative Prognostic Index (PPI) を用いた予後予測の有用性に関する検証  
高見澤 重賢（川崎市立井田病院 腫瘍内科／川崎市立井田病院 緩和ケア内科）
- P5-4 癌疼痛患者におけるオピオイド開始時栄養状態と予後の検討  
堀江 達夫（大田市立病院 薬剤科）
- P5-5 緩和ケアリンクナース主体の緩和ケアカンファレンス～予後予測スケールを用いた緩和ケアカンファレンス  
吉田 園美（伊那中央病院）
- P5-6 子宮内胎児死亡が予想された重症先天性心疾患児における意思決定支援と不確実性を考慮した周産期緩和ケアの検討  
高見 直（名古屋大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター 新生児部門）
- P5-7 免疫チェックポイント阻害薬治療の長期治療効果持続が、患者の病識・予後予測理解に与える影響について  
小林 紘（医療法人社団葵会 AOI 国際病院 緩和ケア科／同 緩和ケアチーム）
- P5-8 治療が多様化する肺癌の症例に対して、これまでの緩和医療学的予後予測が適応可能か？  
大村 彰勲（姫路聖マリア病院 緩和ケア内科）
- P5-9 転移性骨腫瘍に対する緩和的放射線治療の年代別後方視的解析 —新片桐スコアの再検証と照射線量低減の影響—  
三好 章太（広島大学病院医系科学研究科放射線腫瘍学）
- P5-10 終末期悪性腫瘍患者の 30 日転帰を予測する Laboratory Prognostic Score (LPS) の有用性の検証  
中津 翔貴（聖霊病院診療科部門）
- P5-11 画像診断に基づく播種性骨髄癌の診断と予後予測  
佐藤 健二（帝京大学医学部附属病院整形外科学講座）

**看取りの前後のケア  
(P5-12 ~ P5-21)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P5-12 在宅看取りの質を高める：構造化を足場に、個別性へリソースを集中させる  
西尾 裕樹（穎田病院在宅医療センター）
- P5-13 最後まで治療を受けて亡くなった患者の遺族の語りから Good Death を考える  
安藤 満代（西九州大学子ども学部心理カウンセリング学科）
- P5-14 死亡退院後の出血事象の実態調査 ～理想的な医葬連携に向けて～  
吉村 真一郎（地域医療機能推進機構 九州病院 緩和ケア科）
- P5-15 看取りの説明の在り方の検証 —悲嘆反応が強く表出された一例—  
江頭 佐都美（市立芦屋病院看護部）
- P5-16 地域のための、地元医療関係者による 2 種類の看取りパンフレット（専門職向け、患者家族向け）作成の報告  
後藤 慎一（日本赤十字社長崎原爆病院緩和ケア内科）
- P5-17 当院におけるがん終末期患者の身体的拘束の現状と課題  
赤松 直子（市立函館病院 臨床心理科／市立函館病院 精神神経科）
- P5-18 終末期肺癌患者急変時における二軸モデルでの意思決定と NPPV を用いた折衷的対応の一例  
前橋 美歌（栃木県医師会塩原温泉病院）
- P5-19 在宅療養中の進行がん患者に出現する死前喘鳴における肺水腫（容量負荷）関与の頻度と特徴：前向き観察研究  
渡辺 邦彦（在宅ほすびす／獨協医科大学 麻酔科）
- P5-20 緩和ケア病棟での看取りケアの実際 —眠り SCAN 使用前後の比較—  
竹内 美保（公立西知多総合病院）
- P5-21 多系統萎縮症患者における経口摂取継続の支援：療養場所の変更と多職種連携を通じた看取りの一例  
井口 多恵子（医療法人社団うちの診療所 うちの診療所中野）

**苦痛緩和のための鎮静  
(P5-22 ~ P5-34)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P5-22 終末期がん患者の治療抵抗性の苦痛に対する鎮静～治療抵抗性の苦痛と判断する難しさ～  
横山 亜紀子 (JA 神奈川県厚生連相模原協同病院 看護部)
- P5-23 がん終末期における持続的鎮静導入の予測因子に関する検討 — day -7 時点の臨床指標を用いたネステッド症例  
対照研究 —  
鈴木 健介 (医療法人愛和会 愛和病院)
- P5-24 緩和ケアチーム介入患者の治療抵抗性の苦痛に対するカンファレンスおよび患者の鎮静の意思確認に関する実態  
調査  
永石 恵美 (長崎大学病院 緩和ケアセンター)
- P5-25 苦痛緩和のため持続的鎮静を施行したがん患者と非がん患者の後方視的検討  
岩間 かれん (広島市民病院 緩和ケアチーム)
- P5-26 4 日間の間欠的鎮静にて意志決定能力を回復しえた胃がん患者の一例  
則行 敏生 (尾道総合病院 緩和ケアセンター)
- P5-27 がん終末期の治療抵抗性の苦痛緩和を目的とした持続的鎮静の実態に関する単施設後ろ向き観察研究①  
水野 俊美 (がん研究会有明病院 看護部)
- P5-28 治療抵抗性の苦痛に対する終末期持続鎮静日数の年度別変化の検討  
山崎 裕 (市立函館病院緩和ケア科)
- P5-29 がん終末期の治療抵抗性の苦痛緩和を目的とした持続的鎮静の実態に関する単施設後ろ向き観察研究②  
梶原 裕希 (がん研究会有明病院 看護部)
- P5-30 当院緩和ケア病棟における終末期患者に対する苦痛緩和目的の持続的鎮静施行状況の 10 年間推移  
木村 雅代 (福井県済生会病院 外科/福井県済生会病院 緩和ケアチーム)
- P5-31 ミダゾラム高用量投与にもかかわらず鎮静困難であった呼吸困難を呈した前立腺癌の 1 例  
杉崎 裕香 (東邦大学医療センター佐倉病院 緩和ケアチーム)
- P5-32 当院緩和ケア病棟での鎮静についての検討  
岩城 隆二 (大阪赤十字病院緩和ケア科)
- P5-33 当院における鎮静の現状分析  
中野 美紀 (大分ゆふみ病院)
- P5-34 看護師不在の介護施設における末期癌患者のせん妄管理：フェノバルビタール坐薬の導入とその成果  
黒沼 純一 (医療法人社団昌健会 みんなのライフサポートクリニック蘇我)

**ホスピス・緩和ケア病棟  
(P5-35 ~ P5-67)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P5-35 緩和ケア病棟における入院時の医師による患者・家族への説明内容に関する調査  
小谷野 博正 (外旭川病院医務部)
- P5-36 オーストラリア緩和ケア病棟における悪性・非悪性患者の臨床特性と転帰の比較  
光齋 久人 (University of Technology Sydney)
- P5-37 緩和ケア病棟での急変死亡症例に対し、家族への説明に加え研修医・専攻医の苦悩解消も目的として死亡時画像  
診断を実施し明らかな所見を得た 3 症例  
佐野 広美 (埼玉協同病院緩和ケア内科)
- P5-38 当院における緩和ケア病棟における終末期の輸液についての後方視的検討  
浦川 雅己 (深谷赤十字病院 支持緩和医療科)
- P5-39 終末期がん患者に対する作業療法介入が社会的交流と ADL に与えた影響：A-QOA および PAL を用いた一症例  
報告  
杵淵 実結 (医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院 リハビリテーション部)
- P5-40 緩和ケア病棟におけるドッグセラピーの実際とその効果  
井上 壽子 (西日本旅客鉄道株式会社大阪鉄道病院)

- P5-41 **Beyond Words 多文化患者における終末期ケアの課題と実践**  
河野 真揮枝 (市立芦屋病院 緩和ケア内科)
- P5-42 **緩和ケア病棟入院相談外来迅速枠を利用した患者の特徴と早期受診に向けた課題**  
鈴木 梢 (がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケア科)
- P5-43 **緩和ケア病棟 (PCU) における茶人による継続的な「茶の湯の時間」提供の取り組み**  
橋本 教正 (京都桂病院 緩和ケア科)
- P5-44 **患者・家族のニーズを可視化するハートフルケアプランを用いた看取りケアの有用性**  
小林 奈緒 (藤田医科大学病院 看護部)
- P5-45 **「その人らしさ」を支えるケア：新設緩和ケア病棟での大型犬面会と家族行事支援**  
佐藤 謙二郎 (市立青梅総合医療センター)
- P5-46 **専門的緩和ケアにおける口腔ケアの質向上に向けた取り組み - オーラルヘルスセンター (OHC) との連携による実践的アプローチ -**  
本多 彩 (東京科学大学病院 看護部)
- P5-47 **緩和ケア病棟における倫理カンファレンスによる看護師の意識と行動の変化**  
新井 美穂 (独立行政法人 国立病院機構 岩国医療センター)
- P5-48 **COVID-19 のため 6 年ぶりの再開となった当院緩和ケア病棟遺族会の振り返り～対面で会えること、話せることの意味～**  
谷知 ルミ (高槻赤十字病院看護部 緩和ケア病棟)
- P5-49 **悪性脳腫瘍患者の緩和ケアの実態調査と今後の展望**  
清川 樹里 (帝京大学医学部附属病院 脳神経外科／鶴巻温泉病院 緩和ケア科／ Science Tokyo 緩和ケアネットワーク)
- P5-50 **大学病院における緩和ケア病棟新設の実装過程 ～「思いやりと慈しみの緩和ケア」を形にする多職種による運用設計～**  
村瀬 樹太郎 (東京慈恵会医科大学西部医療センター 総合診療部)
- P5-51 **看取り期に胸腔持続ドレナージを行い、胸部圧迫感の改善を得たがん性胸膜炎の 1 例**  
松田 良信 (市立芦屋病院緩和ケア内科)
- P5-52 **デスカンファレンスのアンケート調査から明らかとなった今後の課題**  
宮本 真紀 (社会福祉法人 イエズスの聖心病院)
- P5-53 **終末期がん患者におけるホスピタルアートを通じた自己超越と「生」の再統合 - 認知機能低下を乗り越えた精神的成長の一例 -**  
今井 洋介 (長岡西病院 ビハーラ病棟)
- P5-54 **末梢静脈路の確保困難例に対する、ミッドラインカテーテルの使用経験～緩和ケア病棟での 3 症例～**  
山口 健也 (地域医療機能推進機構 九州病院 緩和ケア科／地域医療機能推進機構 九州病院 総合診療科)
- P5-55 **A 病院緩和ケア病棟における看護師のスピリチュアルケアの実態**  
直井 由利子 (医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院)
- P5-56 **当院 PCU において医療者による患者・医療者満足度調査からわかること**  
西澤 昭彦 (加古川中央市民病院)
- P5-57 **緩和ケア病棟での結核治療中の患者の受け入れに関する活動報告**  
池田 みき (国立病院機構東京病院緩和ケア内科)
- P5-58 **若年がん患者の終末期における多層的な苦痛と関係性の困難 - スタッフへの投影と多職種チームによる感情調整の構造的分析 -**  
中谷 直喜 (上尾中央総合病院 腫瘍内科)
- P5-59 **緩和ケア病棟における長期入院症例の現状分析と適切な療養場所への移行に向けた課題**  
富野 敦稔 (医療法人協和会 千里中央病院 緩和ケア内科)
- P5-60 **言語バリアによる家族間の誤解と対立を、通訳を介した面談により修復しえた 1 例**  
秦 美暢 (医療法人社団葵会 AOI 国際病院 緩和ケア科／同 緩和ケアチーム)
- P5-61 **終末期がん患者の ADL 自立度別の負担感と自立感の比較：CoQoLo と FIM を用いた横断的検討**  
山口 愛 (医療法人社団三喜会鶴巻温泉病院)
- P5-62 **終末期がん患者における予後予測因子の検討**  
山田 淳子 (みなみ野病院 緩和ケア科)

- P5-63 緩和ケア病棟においてどのような症例が緩和照射を完遂することができるのか ～効果も含めて当院の症例より～  
中村 俊彦（公立学校共済組合 九州中央病院）
- P5-64 緩和ケア病棟入棟面談における意思決定のアウトカムに関する後方視的検討  
鈴木 尚樹（山形県立中央病院）
- P5-65 緩和ケア病棟における終末期がん患者の転倒転落の要因と対策  
菅野 ひかり（医療法人社団 葵会 AOI 国際病院／緩和ケア病棟）
- P5-66 終末期がん・緩和ケア病棟における带状疱疹と予後に関するスコアリングレビュー  
山崎 圭一（ベルランド総合病院 緩和ケア科）
- P5-67 コロナ禍の制約と緩和ケア病棟看護師のホスピス・マインドの成熟  
尾越 幸（京都桂病院看護部）

**緩和ケアチーム  
(P5-68～P5-87)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P5-68 子宮体癌の多発肺転移による呼吸困難が、化学療法後に悪化し治療抵抗性となり、間欠的鎮静による苦痛緩和を行い良好な転帰をたどった一例  
鈴木 俊裕（刈谷豊田総合病院）
- P5-69 緩和ケアチームを立ち上げ介入を行うことで、急性期病棟看護師のがん患者に対する緩和ケア実践や気持ちに変化が起こるかのアンケート調査  
小川 佳子（米の山病院病棟）
- P5-70 生成 AI による電子カルテ要約を用いた緩和ケア初期アセスメントの効率化：導入初期の評価  
吉澤 聖道（松本市立病院）
- P5-71 緩和ケア病棟休床による緩和ケアチーム活動への影響  
小西 治子（香川県立中央病院緩和ケア内科／香川県立中央病院緩和ケアセンター）
- P5-72 平成記念病院における「その人らしさ」を共有する仕組みづくり ―入院時情報収集用紙と「私のきもち」シートを用いた緩和ケアチームの活動報告―  
堀西 祐多（平成記念病院）
- P5-73 精神疾患を有する患者の疼痛コントロール困難症例に対する継続的な緩和ケアチーム介入の効果―オピオイド中止を可能にした一例―  
浅沼 真樹（医療法人信和会 明和病院 薬剤部）
- P5-74 がん拠点病院との連携を支える一般病院緩和ケアチームにおける看護師の役割 ―地域の受け皿としての意思決定支援と看取りへの関与―  
吉田 ひとみ（松本市立病院）
- P5-75 高度急性期病院の緩和ケアチームが関わる患者の退院支援期間に影響する要因の検討  
岡 梨津子（東京科学大学病院 看護部・緩和ケアセンター／文京学院大学大学院 福祉医療マネジメント研究科）
- P5-76 緩和ケアセンターとがん相談支援センターが協働することのメリット  
南澤 晴海（長野赤十字病院 がんサポートセンター）
- P5-77 治療拒否を伴う難治性下腿潰瘍に対する緩和ケアチーム介入の有用性―若年女性症例を通して―  
友松 裕美（東海大学医学部専門診療学系緩和医療学／東海大学医学部附属病院緩和ケアチーム）
- P5-78 急性期病院における緩和ケアチーム介入が進行終末期がん患者の身体拘束解除に与える影響―後方視的症例分析―  
大森 和美（広島市立広島市民病院 医療支援センター緩和ケアセンター）
- P5-79 緩和ケア病棟の閉鎖に伴う緩和ケアチームへの業務移行 ―一般病棟での緩和ケアにおける実践と工夫―  
曾和 晃正（医療法人南労会 紀和病院 緩和ケアチーム／紀和病院 消化器外科）
- P5-80 急性期病院における緩和ケア対象者のスクリーニングと緩和ケアチームの取り組み  
北野 由紀（公益社団法人日本海員救済会 小樽救済会病院 緩和ケアチーム）
- P5-81 術後の疼痛管理に困難を認めた長期オピオイド使用がん患者の一例 ―緩和ケアチームの視点から―  
高橋 彩子（昭和医科大学内科学講座緩和医療学部門）
- P5-82 治療効果が得られない不安、苦痛に対して多職種チームが治療期を支えた一症例  
高仲 雅子（日本医科大学多摩永山病院 緩和ケアチーム／看護部）

- P5-83 症状の言語化が困難な患者に対する質問ツール使用の有用性の検討  
大橋 理紗（関西医科大学総合医療センター緩和ケアチーム）
- P5-84 当法人ホスピスにおける緩和ケアチームでのあん摩マッサージ指圧師の役割  
秋山 彩雲（医療法人社団ユニメディコ マッサージ・リハビリ部）
- P5-85 思春期患者の「食べたくない」を「これなら食べる」へー作業療法と栄養管理の協働による意思決定支援ー  
戸村 有希（国立成育医療研究センター栄養管理部）
- P5-86 マンパワーが限られた施設における緩和ケア活動効率化の取り組み  
鈴木 三栄子（JA とりで総合医療センター 緩和ケアチーム／JA とりで総合医療センター 看護部）
- P5-87 多職種で行う小児緩和・グリーフケアー大学病院における小児緩和・グリーフケアの現状と課題ー  
倉光 真登香（聖マリアンナ医科大学 診療看護技術部 小児科出向）

**緩和ケア外来  
(P5-88 ~ P5-93)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P5-88 がんと共に豊かな生活を送り続ける支援を目指す看護外来  
荒井 賞枝（東京慈恵会医科大学附属柏病院 看護部）
- P5-89 がん治療終盤～終末期を支える：「がん地域サポート外来」の取り組みについて  
福田 圭子（医療法人協和会 千里中央病院 看護部）
- P5-90 医療不信と社会的孤立が背景にあった舌癌疑い患者への緩和ケア外来介入の一例  
久保 敏大（鹿児島市医師会病院緩和ケア科）
- P5-91 緩和ケアセンターにおける地域と切れ目ない緩和医療提供の新たな取り組み  
宇野 みゆき（藤田医科大学病院 看護部）
- P5-92 緩和ケア外来におけるがん治療患者の意思決定支援の役割と課題  
安藤 留美（北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院 緩和ケア科 緩和ケア外来）
- P5-93 地域がん診療連携拠点病院 緩和ケア外来における治療非選択者への継続支援の意義と課題  
山本 歩（福岡和白病院）

**苦痛スクリーニング  
(P5-94 ~ P5-105)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P5-94 緩和ケアチーム介入スクリーニングシートの有用性について  
矢野 香織（社会医療法人親仁会みさき病院）
- P5-95 当院における緩和ケアスクリーニングの実態調査  
佐藤 尚子（岡崎市民病院緩和ケア内科）
- P5-96 苦痛スクリーニングの標準化を軸とした全人的苦痛ケアの推進ー10年間の組織的取り組みとその成果ー  
三浦 一穂（岩手医科大学附属病院 看護部）
- P5-97 急性期病棟における緩和ケアの質的向上をめざしてー緩和ケアの質の評価尺度 IPOS を用いてー  
赤嶺 瑞希（社会医療法人敬愛会 中頭病院 小児・女性センター病棟）
- P5-98 当院緩和ケア病棟での IPOS 実施と活用に向けた小集団活動における取り組み  
原田 昭子（地方独立行政法人 市立秋田総合病院）
- P5-99 A 地域がん診療連携拠点病院の苦痛のスクリーニング実施の現状と課題  
花木 ひとみ（総合病院 聖隷浜松病院 緩和ケアセンター 看護師）
- P5-100 当院における患者報告型アウトカム (PRO: Patient Reported Outcome) を用いた入院がん患者と緩和ケアチーム介入がん患者の症状別実態把握と今後の課題  
川越 久美子（社会福祉法人 三井記念病院）
- P5-101 一般病棟で緩和ケアを受ける患者の IPOS 導入の検討  
神 梨沙（つがる西北五広域連合 つがる総合病院）
- P5-102 患者中心のケア実現に向けた IPOS 活用の現状と今後の課題  
東 由加里（京都市立病院 看護部）

- P5-103 **がん患者への患者報告型アウトカム導入による効果と課題** —一般病棟における IPOS の活用を考える—  
御供 優子 (盛岡市立病院)
- P5-104 **気持ちのつらさへの支援強化を目的とした苦痛スクリーニング運用改定後の看護師の評価**  
前河内 里奈 (県立広島病院 看護部 緩和ケアチーム)
- P5-105 **緩和ケアスクリーニング陽性例における二次評価と非介入症例の検討**  
山内 加寿巳 (岡崎市民病院)

**早期からの緩和ケア  
(P5-106 ~ P5-117)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P5-106 **緩和ケアの介入後に自宅や介護施設での看取りを選択した症例の特徴**  
信谷 健太郎 (社会医療法人 美杉会 男山病院)
- P5-107 **「動くがん相談支援センター」による認知度向上と利用促進に向けた試み**  
辻本 仁美 (地方独立行政法人 市立東大阪医療センター がん相談支援センター)
- P5-108 **在宅療養支援病院における解決できない苦しみに寄り添い続ける緩和ケア外来の実践**  
篠 美和 (医療法人社団 守成会 広瀬病院 在宅診療部)
- P5-109 **急性期病院において理学療法士が家族ケアに関与した末期がん症例**  
栗山 泰典 (りんくう総合医療センター 診療支援局 リハビリテーション部門)
- P5-110 **急性期病院の外来において急速な身体機能低下をきたす進行がん患者に対する看護ケアの要素；文献レビュー**  
石井 恵 (日本福祉大学看護学部/人間環境大学大学院看護学研究科博士後期課程)
- P5-111 **壮年期の治療継続を希望する終末期がん患者に対する看護師の関わり**  
尾形 美瑠樹 (福岡大学筑紫病院 8 階東病棟)
- P5-112 **治療早期からの緩和ケアの障害 ~治療病院から緩和ケア施設への障害の現状と問題点~**  
佐藤 恵子 (医療法人 平和会 平和病院 緩和ケア科)
- P5-113 **当院での診断時からの緩和ケア提供体制整備の取り組み~試行開始 10 ヶ月間のまとめと今後の展望~**  
石田 享相 (市立豊中病院 緩和ケアセンター/市立豊中病院 産婦人科)
- P5-114 **外来オピオイド導入がん患者に対する疼痛管理支援モデルの構築にむけた検討—運用評価と看護師が担う疼痛管理の視点の考察—**  
萩谷 翔太 (静岡県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程)
- P5-115 **緩和ケアの早期導入は、急性期病院において乳癌患者の生涯最後 30 日間の入院を減少させる**  
吉田 謙一 (国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 緩和ケア内科/国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 外科)
- P5-116 **がんサポートチームの活動の振り返りと課題**  
高木 佳代 (社会医療法人 宏潤会 だいでうクリニック)
- P5-117 **A 病院一般病棟・外来看護師のがん診断時の緩和ケア実践に関する意識調査**  
横尾 真由子 (大分県済生会 日田病院)

**その他の終末期ケア、デリバリー  
(P5-118 ~ P5-126)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P5-118 **がん診療連携拠点病院と非拠点病院で死亡した、がん患者の特性と行われた終末期医療の比較：2013-2015 年のレセプトデータの分析**  
宮下 光令 (東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野)
- P5-119 **終末期・緩和リハビリテーションにおける「納得」成立経路の分析：csQCA と Firth ロジスティック回帰によるモデル化**  
池田 耕二 (奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科)
- P5-120 **急性期病院に勤務する医師の緩和ケアに対する考え方**  
布川 佳要子 (富山赤十字病院 緩和治療病棟 看護部)
- P5-121 **秋田県の訪問看護師が感じている在宅終末期ケアにおける困難感**  
川田 葉月 (秋田大学大学院医学系研究科診療看護師コース/大館市立総合病院)

- P5-122 その救急受診は誰のためだったのかー在宅終末期症例から見た ACP の空白  
フィンガー 真由美 (杏林大学医学部付属病院 救急総合診療科)
- P5-123 肺癌の終末期臨床像  
珠蘭 其其格 (東北労災病院 緩和ケア内科/東北労災病院 緩和ケアチーム)
- P5-124 悪性神経膠腫終末期の療養の場に関する検討  
武内 勇人 (京都第二赤十字病院 脳神経外科)
- P5-125 心不全患者に対する「サイ五郎さんの人生会議」を用いて ACP を実施した 1 事例  
中澤 陽菜 (市立敦賀病院 緩和ケアチーム/看護部)
- P5-126 北海道における緩和ケア提供体制の二次医療圏別分析：地域格差の可視化と均てん化への提言  
松山 哲晃 (独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター)

**卒前教育  
(P6-1 ~ P6-5)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P6-1 模擬患者を活用した緩和ケア外来ロールプレイ教育ー 医学科 2・3 年生への教育実践  
津田 万里 (東海大学医学部専門診療学系緩和医療学)
- P6-2 看護大学生の緩和ケアに関する認識の質的検討 -A 大学に在籍している看護大学生への実態調査を通して -  
角田 知穂 (帝京科学大学医療科学部看護学科)
- P6-3 「慰めることいつも」を共に考える：金沢大学医学生との臨床実習の紹介  
山田 圭輔 (金沢大学附属病院緩和ケアセンター)
- P6-4 埼玉医科大学医学部 5 年生を対象とした緩和ケア臨床実習の教育効果 実習前後質問紙調査  
平田 まりの (埼玉医科大学国際医療センター支持医療科)
- P6-5 緩和ケア病棟での卒前医学教育の取り組み  
横山 和彦 (昭和医科大学病院緩和医療科)

**教育方法  
(P6-6 ~ P6-8)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P6-6 呼吸器内科専攻医が緩和ケアを学ぶための関連病院間連携の取り組み  
張 秀一 (昭和医科大学藤が丘病院呼吸器センター)
- P6-7 臨床経験を有する看護師が多い緩和ケア病棟勉強会に事前事後課題を取り入れた試み  
中川 みどり (公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター附属病院 緩和ケア病棟)
- P6-8 在宅末期がん緩和ケアにおける D to P with N と訪問看護師 POCUS (オンラインエコー) 教育体制の構築  
杉田 かおり (秋本クリニック)

**卒後教育  
(P6-9 ~ P6-16)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P6-9 看護師を対象としたがん緩和ケアに関する教育介入が知識、態度、自己効力感、自信、実践、困難感、死生観に与える影響：スコーピングレビュー  
岡村 結 (三重大学医学部看護学科)
- P6-10 当院における地域緩和ケアネットワーク研修の取り組み  
高野 陽平 (砂川市立病院 薬剤部)
- P6-11 ELNEC-J 小児緩和ケアカリキュラム看護師教育プログラム参加前後の看護師の小児緩和ケアに対する認識と実践の変化  
松岡 真里 (三重大学大学院看護学研究科生涯発達看護学講座小児看護学分野)
- P6-12 当院緩和ケア病棟における臨床研修について～2年間の現況と展望～  
大原 寛之 (日本赤十字社長崎原爆病院 緩和ケア内科)

- P6-13 臨床経験 2-4 年目の看護師を対象としたオンライン緩和ケア・ロールプレイ教育プログラムの影響—介入後の自由記述の内容分析—  
大丸 杏里 (三重大学大学院医学系研究科看護学専攻)
- P6-14 がん薬物療法終了をめぐる模擬臨床倫理カンファレンスの教育的実践 —中国四国がんプロ合同演習における緩和ケアチーム参加の意義—  
村上 あきつ (香川大学医学部附属病院がんセンター／香川大学医学部臨床腫瘍学講座)
- P6-15 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラムにおける研修形式と学習成果の比較—対面・リモート方式の違いに着目した分析—  
利 緑 (秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻 看護学講座)
- P6-16 腫瘍内科専攻医における緩和ケア教育の現状と課題—研修当事者の視点からの文献レビューと専門研修への展開—  
青木 聖子 (亀田総合病院腫瘍内科)

**施設内教育**

**(P6-17 ~ P6-34)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)

6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)

ポスター会場

- P6-17 がん診療連携拠点病院における災害時の役割・課題 災害研修の報告  
波多江 優 (神奈川県厚生連 相模原協同病院)
- P6-18 A 病院におけるがん疼痛看護の向上に向けた院内認定看護師育成への取り組み  
長小田 かおり (熊本赤十字病院)
- P6-19 がん患者支援に携わる院内スタッフへの ACP 研修の実践と今後の課題  
宮野 由美 (荒尾市立有明医療センター 緩和ケアチーム)
- P6-20 倫理研修会開催後の職員の変化  
上田 佳奈 (国立病院機構 岩国医療センター がん相談支援センター)
- P6-21 アピランスケア充実への取り組み ~患者が安心して語れることを目指して~  
吉田 克江 (地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 看護部)
- P6-22 緩和ケア病棟看護師のスピリチュアルペインへの困難感と学習ニーズ  
濱田 美加 (大阪赤十字病院 看護部)
- P6-23 急性期病院における看護倫理教育 Jonsen の 4 分割表を用いた倫理カンファレンスの実践 ~緩和ケア認定看護師としての活動~  
小松 真由子 (日本赤十字社 福島赤十字病院)
- P6-24 がん看護リンクナースが質の高い排便管理を提供するための取り組み —エコーを使った排便ケアに対する認識の変化—  
中辻 香邦子 (公益財団法人 筑波メディカルセンター病院)
- P6-25 一般病棟におけるがん患者の悪液質に対する学習による看護師の意識、行動の変化  
山家 良太 (みやぎ県南中核病院)
- P6-26 院内における基本的緩和ケアの知識向上を図る取り組み -生活のしやすさに関する質問票の改訂と配信型勉強会システムの構築-  
小野 裕子 (市立函館病院 緩和ケアチーム／市立函館病院 看護部)
- P6-27 せん妄予防に関する看護師継続教育の有効性 ~急性期と緩和医療科の混合病棟における実情から~  
小松崎 亜紀 (聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院 看護部)
- P6-28 入職 3 年目看護師に対する緩和ケア病棟研修における成果と今後の課題  
中田 祐子 (一般社団法人 朝倉医師会病院)
- P6-29 緩和ケア専門病院におけるアドバンス・ケア・プランニング (ACP) 実践の取り組みと今後の課題  
中山 祐紀子 (医療法人社団杏順会 越川病院)
- P6-30 大学病院一般病棟における ACP 実践に向けた看護師のコミュニケーションスキル向上への取り組み~リフレクションを活用して~  
屋木 景子 (名古屋市立大学病院看護部)
- P6-31 中規模総合病院における ACP 認知度調査と院内研修を通じた臨床定着の取り組み  
丸山 奈々 (医療法人社団哺育会 白岡中央総合病院 看護部)

- P6-32 基本的緩和ケアの実践を支える教育的介入としての緩和ケアチーム看護師の役割 ー心理的支援を主訴とした依頼事例の検討ー  
井上 萌 (日本赤十字社 前橋赤十字病院 看護部)
- P6-33 基本的緩和ケアを支える教育的実践が生じる構造 ー緩和ケアチーム専従看護師の役割に着目してー  
今井 洋子 (日本赤十字社 前橋赤十字病院 看護部)
- P6-34 SPACE-Nを用いた緩和ケア病棟看護師の自己認知の可視化 ー自己評価の「揺らぎ」と二極化から次年度教育への示唆ー  
徳永 有理 (医療法人ガラシア会ガラシア病院)

**市民・患者への啓発  
(P6-35 ~ P6-41)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P6-35 アピアランスケア周知への取り組み ー患者が外見の変化に向き合うヒントを見つけるためにー  
楠 寿子 (京都市立病院機構 京都市立病院 がん相談支援センター)
- P6-36 当院の緩和ケアチームによる中高生を対象としたがん教育の実践報告  
野井 拓 (箕面市立病院泌尿器科/箕面市立病院緩和ケアチーム)
- P6-37 使用したワークシートで振り返るがん教育の意義  
平野 美穂 (社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院緩和ケア看護室)
- P6-38 【続報】「とにかく明るいACP」在宅緩和ケアネットワークにおける地域住民への普及啓発活動  
升田 志保 (広島市立北部医療センター安佐市民病院)
- P6-39 生老病死を日常生活の中で「自分ごと」として考えるための異業種協働 ー縁起でもないつどい、第2回【天晴れ★孤独死】活動報告  
佐野 智美 (一般社団法人 福岡県社会保険医療協会 社会保険田川病院 緩和ケア内科)
- P6-40 市民にACPを“体験”として届ける試み ー実在事例を基にした寸劇がもたらした意識変化と教育効果ー  
光田 栄子 (かとう内科並木通り診療所)
- P6-41 福岡県におけるコミュニティ緩和ケアの実践報告 ー県との協働による在宅ホスピスボランティア育成20年のあゆみー  
二ノ坂 保喜 (医療法人にのさかクリニック/ふくおか在宅ホスピスをすすめる会)

**コミュニケーション  
(P6-42 ~ P6-45)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P6-42 緩和医療にかかわる医療者のつらさとバーンアウトに関するパイロットスタディーー専門的緩和ケアに従事する医療者への半構造化面接調査ー  
高橋 美帆 (敦賀市立看護大学/三重大学医学部附属病院)
- P6-43 患者が看護師に望むコミュニケーションとはー患者と看護師のコミュニケーションに対する認識の差ー  
松岡 綾美 (社会福祉法人 恩賜財団 済生会川内病院 緩和ケアチーム/社会福祉法人 恩賜財団 済生会川内病院 看護部)
- P6-44 治療医の病状説明に同席する緩和ケア医の役割ー SHARE を用いた協働面談の実態ー  
勝田 友絵 (公立昭和病院 緩和医療科)
- P6-45 がん患者へのバッドニュース告知面談における、感情ダイナミクスに基づくコミュニケーションスキル・トレーニングプログラムの有効性  
安次富 裕哉 (国立がん研究センター東病院 緩和医療科)

**アドバンス・ケア・プランニング、意思決定  
(P6-46 ~ P6-113)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P6-46 アドバンス・ケア・プランニングを支援する慢性心不全看護認定看護師の実践に対する阻害要因  
山本 恵子 (日本大学病院 看護部)
- P6-47 当院における入院患者対象の「もしもの時のあなたの希望用紙 (ACP 質問票)」の導入までの活動について  
吉野 和穂 (小田原市立病院)

- P6-48 **患者主体の症状マネジメント実現に向けた看護師の役割と課題**  
門田 みどり (医療法人 済衆館 済衆館病院)
- P6-49 **統合失調症を患い意思疎通が困難な乳癌患者の自宅退院に向けた支援**  
住田 俊彦 (公立学校共済組合 東海中央病院)
- P6-50 **生命を脅かす・制限する病状を持つ子どものためのアドバンス・ケア・プランニング：コクラン系統的レビュー**  
山路 野百合 (昭和医科大学 臨床疫学研究所／東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 家族看護学分野)
- P6-51 **自閉症スペクトラム症を有する患者に対するがん診断時から終末期の ACP 支援**  
加藤 理香 (箕面市立病院 緩和ケアチーム)
- P6-52 **終末期の意思決定における子ども、保護者、医療従事者の関係性とコミュニケーションの特徴に関する検討：英国と日本を対象としたスコーピングレビュー**  
竹田 加奈子 (国立成育医療研究センター緩和ケア科)
- P6-53 **小規模総合病院の「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の普及および研修前後の認識の変化**  
三谷野 聡子 (地方独立行政法人 大月市立中央病院)
- P6-54 **地域における ACP 普及活動 - とよはし ACP 研究会 - について**  
平松 和洋 (豊橋市民病院)
- P6-55 **淡路島におけるアドバンスケアプランニング (ACP) に対する意識調査～5年前の調査結果と比較して見えた当院の課題～**  
川 二美 (医療法人 いちえ会 洲本伊月病院 緩和ケアチーム)
- P6-56 **臨床倫理コンサルテーションをきっかけに患者の希望が治療につながった脊椎転移症例**  
泉田 日奈子 (医療法人 信和会 明和病院)
- P6-57 **代理意思決定者となった家族・親戚の思い**  
片山 智美 (宗教法人聖フランシスコ病院会 聖フランシスコ病院 ホスピス病棟 3 階)
- P6-58 **患者意向の可視化を通じた ACP 実践の評価と患者・家族支援のあり方 ―外来・入院患者の回答分析に基づく検証―**  
萬徳 孝子 (岩手医科大学附属病院 看護部)
- P6-59 **婦人科悪性腫瘍に対する診断・治療期からの意思決定支援の取り組み**  
野田 陽子 (済生会福岡総合病院／がん治療サポートチーム／認定看護師)
- P6-60 **終末期にある造血幹細胞移植後早期再発患者の QOD に向けた意思決定支援 余命告知とオピオイド導入における看護介入の 1 例**  
辻脇 有紀子 (泉大津急性期メディカルセンター)
- P6-61 **「あなたならどうします？」から取り組んだ認知症終末期高齢者の ACP**  
大塚 菜穂子 (旭町内科クリニック)
- P6-62 **A 病院におけるアドバンス・ケア・プランニング (ACP) の体制整備～取り組みと課題～**  
北岡 智子 (高知大学医学部附属病院 緩和ケアセンター)
- P6-63 **高齢癌患者のアドバンス・ケア・プランニング (ACP) における経験豊かな医療者の思考様式：エフェクチュエーション (EF) の視点から**  
桐島 寿彦 (地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 腫瘍内科)
- P6-64 **ACP を通して外来作業療法の介入で目標を達成できた一事例**  
林 知代 (北海道済生会小樽病院リハビリテーション室作業療法課／北海道済生会小樽病院緩和ケアチーム)
- P6-65 **終末期まで気管切開下陽圧換気療法の選択に葛藤した筋委縮性側索硬化症の一例**  
藤井 浩史 (医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック)
- P6-66 **「価値の引き出し」を用いた ACP 市民啓発の試み ―もしもサロンにおける対話型アプローチ―**  
日下部 明彦 (横浜市立大学医学部医学科 地域医療・在宅医療学／総合診療医学／横浜市医師会／横浜市立大学附属病院 患者サポートセンター)
- P6-67 **婦人科がん患者の思いの揺れを時間軸で支える継続看護 ―外来・病棟の一元化体制における一事例―**  
佐川 弘美 (大津赤十字病院 看護部)
- P6-68 **代理意思決定における家族の後悔の要因に関する文献検討**  
藪 奈々花 (三重大学医学部看護学科)

- P6-69 急性期病院での入院患者に対する ACP への取り組み  
野口 明子（社会福法人十善会 十善会病院）
- P6-70 人生の最終段階を疑似体験するボードゲームを用いた体験学習プログラムの記述的評価  
石井 洋介（医療法人社団おうちの診療所 おうちの診療所 目黒／株式会社 omniheal）
- P6-71 急性期入院で「延命治療は希望しない」という意思表示が具体的判断に結びつかなかった認知症終末期患者の一例  
高田 健正（藤田医科大学 医学部 連携地域医療学、南生協病院 総合診療科）
- P6-72 がん専門病院における意思決定支援外来の取り組みと課題  
佐々木 照美（国立病院機構九州がんセンター）
- P6-73 急性期病院のなかでアドバンスケアプランニングの普及・啓発に取り組んで  
大西 真理（市立東大阪医療センター 緩和ケアセンター 看護局）
- P6-74 進行がん患者における抗がん薬治療の意思決定に関する介入：文献レビュー  
秋田 奈々（大阪医科薬科大学大学院 看護学研究科／淀川キリスト教病院）
- P6-75 神経難病専門病院における神経難病患者への ACP 支援の現状と課題  
新井 玉南（地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立神経病院 脳神経内科病棟）
- P6-76 がん終末期の在宅療養者を中心とした継続支援がもたらす意思決定支援 —緩和ケアチームと訪問看護師を繋いだ入退院支援看護師の関わり—  
青木 さやか（医療法人社団哺育会 白岡中央総合病院 地域医療連携部 入退院支援課）
- P6-77 終末期がん患者の意向に沿った療養場所決定支援  
柏 彩織（茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター）
- P6-78 自施設での ACP（アドバンス・ケア・プランニング）普及のための活動報告  
柳原 照代（富山県済生会富山病院 看護部）
- P6-79 嚥下でがんに罹患した身寄りのない患者の意思決定支援 ～「思いを聴く」「伝える」「伝わる」の難しさに悩みながら看取りまで関わった一事例～  
真上 美千子（南風病院 緩和ケア病棟）
- P6-80 血液がん患者への予後告知を伴う意思決定支援の倫理的障壁 —看護師が直面する役割葛藤とチームアプローチの課題—  
安高 久美子（産業医科大学病院 看護部）
- P6-81 急性期病院における全職員対象のアドバンス・ケア・プランニング（ACP）動画教育の実施とその教育効果  
橋本 幸織（社会福祉法人恩賜財団済生会支部茨城県済生会 龍ヶ崎済生会病院）
- P6-82 自然な形で最期を迎えたいという意向と具体的医療行為の選択 — ACP シート記録の探索的解析 —  
小林 浩太（白岡中央総合病院 薬剤部）
- P6-83 強心薬の持続投与が離脱困難となった治療抵抗性心不全患者の精神的苦痛緩和 および ACP 支援に難渋した一例  
神原 諒（市立大津市民病院薬剤部／緩和ケアチーム）
- P6-84 アドバンス・ケア・プランニング支援における思考過程の質的データ分析  
高井 孝治（京都市立病院 緩和ケア科）
- P6-85 切除不能肺癌患者に対するアドバンス・ケア・プランニング（ACP）実施時期が患者予後に与える影響についての検討  
出口 章広（香川労災病院消化器内科）
- P6-86 「仕方ない」という言葉にみる患者の力 — 看護外来における継続的な関わりを通じた意思決定プロセスを支える看護実践 —  
伊藤 愛美（公立置賜総合病院）
- P6-87 急性期病棟にも人生会議を A 病棟における ACP 実践の現状と課題  
笹川 優衣（沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院 看護部）
- P6-88 がん専門病院の外来患者・家族の医療・ケアに関する考えとメットニーズ・アンメットニーズ  
青木 清美（独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 看護部）
- P6-89 在宅医療を受けるペット飼育患者における医療制限と飼育困難時の事前準備の実態  
白神 真乃（医療法人かがやき総合在宅医療クリニック）

- P6-90 演題取下げ
- P6-91 紹介元の主治医と訪問診療を行った当院間での病診連携に難渋したが、積極的な介入にて身体症状に対する緩和ケア及び効果的な意思決定支援が行えた一例  
美澄 剛生（医療法人展大会 鶴田クリニック）
- P6-92 代理意思決定者が不在の成人・高齢者における advance care planning の意向と実施のギャップと関連要因  
山本 加奈子（聖路加国際大学 大学院看護学研究科）
- P6-93 患者の人生背景を踏まえた意思決定支援の実践－医療機関を超えて患者理解をつなぐ－事例の考察－  
西田 章恵（医聖会 学研都市病院 看護部）
- P6-94 認知症ではあるが繰り返す面談で保存的腎臓療法 (CKM) を選択し、在宅看取りとなった一症例  
濱口 明彦（東京慈恵会医科大学附属柏病院 緩和ケアチーム／同腎臓・高血圧内科）
- P6-95 啓発活動を機にアドバンス・ケア・プランニング (ACP) に繋がった若年性乳癌、若年性パーキンソン病患者  
大久保 美那子（医療法人財団聖十字会 西日本病院 栄養部）
- P6-96 多職種で学ぶ ACP 教育の試み 一価値観探索を共通基盤とした研修プログラムの構築と短期的評価－  
山城 美香（沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院 2F 外来）
- P6-97 高齢がん患者への看護師による意思決定支援に関する文献検討  
中村 真也（淑徳大学看護栄養学部看護学科）
- P6-98 死への恐怖が大きい進行乳癌患者の ACP で医療者が抱えるジレンマ  
西堀 理香（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター緩和ケアセンター）
- P6-99 認知機能低下患者と共通認識をもつための比較検討表を活用した本人主体の意思決定支援の事例報告  
松村 いずみ（国立がん研究センター東病院）
- P6-100 オンライン面談を用いたアドバンス・ケア・プランニングと共同意思決定  
長尾 知哉（札幌徳洲会病院 外科・乳腺外科）
- P6-101 確固とした死生観を有しながらも表出できない乳癌患者に対して倫理コンサルテーションチームとともに意思決定支援を行った 1 例  
兼松 美幸（徳島赤十字病院 緩和ケアチーム）
- P6-102 再発 転移 残された日かずを思い始めたとき 再発を知ってから 3 年 がん患者として / がん治療医として再考する ACP  
荻田 幹夫（藤元総合病院 放射線治療科）
- P6-103 終末期療養において意思決定支援に難渋し、家族に不満が残った一例  
片井 留美（鹿児島市医師会病院 緩和ケア科）
- P6-104 がん患者の ACP と災害時支援をつなぐ「わたしのカルテ」の開発と活用  
金生 睦子（独立行政法人労働者健康安全機構 香川労災病院 緩和ケアチーム）
- P6-105 若年進行子宮体癌における家族支配的意思決定への対応と倫理的示唆  
佐々木 康（昭和医科大学藤が丘病院産婦人科）
- P6-106 在宅緩和ケア移行期における在宅療養支援診療所 MSW による意思決定支援の実践  
東村 悦子（伊東内科小児科医院）
- P6-107 がん患者指導管理料イの算定開始半年間の活動報告  
山口 育子（一般財団法人 永頼会 松山市民病院）
- P6-108 ケアマネジャー主導の ACP 準備トーク：地域に暮らすフレイル高齢者の ACP レディネス向上を目的とした介入の実施可能性の評価  
藤本 実希（Cicely Saunders Institute of Palliative Care, Policy & Rehabilitation, King's College London）
- P6-109 手話とみんらぼカード™ によるろう者との人生会議の実践報告  
綿引 奈苗（岩手県立中部病院 ペインクリニック科）
- P6-110 終末期せん妄様症状を再評価し適切なオピオイドスイッチングで在宅移行に成功した一例  
石倉 久嗣（徳島赤十字病院 緩和ケアチーム）
- P6-111 超高齢者急性 A 型大動脈解離における治療選択と意思決定支援の検討  
伊敷 桃子（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 看護部）
- P6-112 大学附属病院および関連施設における ACP 実践の阻害要因と職種間ギャップ：職種別アンケート調査  
黒田 貴子（聖マリアンナ医科大学 乳腺・内分泌外科学）

P6-113 昭和医科大学横浜市北部病院緩和ケア病棟における現場確認ツール「IMADOKO」の利用実態と短期予後の関連に関する後方視的研究  
郷 佳洋（昭和医科大学藤が丘病院 呼吸器内科）

多職種協働・チーム医療  
(P6-114～P6-141)

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)

6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)

ポスター会場

- P6-114 歯肉癌が疑われ口腔内の腫瘍増大による飲食困難および口腔内出血にて急遽緩和ケア病棟紹介入院も、迅速な多職種連携にて良好な転機を得たエピソードの一例  
藤井 徹郎（川崎市立井田病院緩和ケア内科）
- P6-115 終末期がん患者におけるリハビリテーションの目標設定 - 文献レビューによる現状分析とアプローチへの示唆 -  
池知 良昭（香川県立丸亀病院／東京都立大学大学院人間健康科学研究科作業療法科学域）
- P6-116 持続的鎮静における緩和ケアチーム介入が医療チームのケアプロセスに与える影響 —プライマリナーズの困難感を指標とした前向き横断研究—  
上野 祐介（香川大学医学部附属病院 精神科神経科）
- P6-117 進行食道癌の告知3日後に気管内挿管・人工呼吸器管理となったが、多職種が関わり意思決定や社会支援ができた1例  
山本 果奈（東京女子医科大学 消化器内科／がんセンター）
- P6-118 統合失調症を持つ進行がん患者の治療継続を支えた多職種アプローチ：「まだ生きられますか」に応える支援  
本田 薫（地方独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院 看護部）
- P6-119 当院におけるACPワーキング活動の報告—医師と看護師が協働できる体制づくり—  
牧野 路子（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター／福井大学医学部附属病院 看護部）
- P6-120 変形性腰椎症の痛みにヒドロモルフォンが導入増量（92mg）され、多職種協働とマルチモーダル鎮痛法によっても離脱に1年以上を要した多発性骨髄腫の症例  
鎮西 美栄子（杏林大学医学部附属病院 がんセンター緩和ケアチーム／杏林大学医学部麻酔科学教室）
- P6-121 緩和ケア情報共有ツールの再構築と情報一元化による看護業務効率化とチーム医療推進  
金子 春菜（地方独立行政法人 広島県立病院機構 県立安芸津病院 看護部）
- P6-122 患者の望みを叶えるための認定看護師の協働～緩和ケアチーム内での皮膚・排泄ケア認定看護師の協働～  
藤原 真奈美（社会医療法人 岡本病院（財団） 京都岡本記念病院 看護部）
- P6-123 病勢進行により身体症状を伴う患者へ遺伝性腫瘍の可能性を含めたCGP結果に対する意思決定支援 —多職種で取り組んだ一事例—  
谷口 香織（大阪赤十字病院 看護部）
- P6-124 多職種介入が終末期患者の在宅退院への意思決定を支えた一事例  
横芝 真紀（橋本市民病院 緩和ケアチーム 看護部）
- P6-125 スピリチュアルペインのあるAYA世代の患者への早期から多職種でサポートした1事例  
佐藤 富美（石巻赤十字病院 看護部）
- P6-126 当院におけるACP実践・多職種連携に関する取り組み  
浦井 真友美（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター／福井大学医学部附属病院 看護部）
- P6-127 患者の選択に伴奏する～透析開始・拒否・再開をめぐる～  
中島 裕子（くわみず病院）
- P6-128 病棟薬剤師との協働がもたらすオピオイド適正使用への影響  
君塚 舜（船橋市立医療センター薬剤局）
- P6-129 外来看護師による診察前問診が呼吸器疾患患者に与える影響  
山中 由佳（松阪市民病院呼吸器センター）
- P6-130 緩和ケア医の立場からみたがんリハビリテーションの臨床的意義 —多職種協働によるACP支援の実践報告—  
寒河江 悟（札幌孝仁会記念病院）
- P6-131 緩和ケアチームとカンサーボードの役割分担による症例検討の取り組み —中規模病院における多職種主導型連携の実践報告—  
村上 恵理（NHO 栃木医療センター 放射線科／アニマソフィア エデュケーション&コンサルティング）
- P6-132 緩和ケア医と麻酔科医の協働によるオピオイド使用患者の周術期管理  
田中 成明（信州大学医学部附属病院 信州がんセンター 緩和ケアセンター／信州大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科）

- P6-133 多職種の間わりにより、プッシャー現象による ADL 低下に対して残された機能を維持できた 1 例  
高橋 千春 (埼玉協同病院 緩和ケア内科)
- P6-134 救急・集中治療終末期における人工呼吸終了・抜管前後の状況  
大木 浩 (鹿児島県立大島病院 麻酔科)
- P6-135 緩和ケア病棟における眠りスキャン<sup>®</sup> 導入による看護師の意識変容と有用性の検討  
多田羅 美佳 (医療法人協和会千里中央病院 緩和ケア病棟)
- P6-136 AYA 世代がん患者支援チームの再構築とその成果  
武田 千津 (愛媛県立中央病院 がん治療センター AYA 世代がん患者支援チーム)
- P6-137 心不全患者の治療継続と緩和ケアに難渋した一症例  
木村 歩未 (JCHO 宮崎江南病院/薬剤部/緩和医療チーム委員会)
- P6-138 多職種連携により体動時激痛の原因診断・症状緩和に至った、原発性骨髄線維症に伴う脊椎周囲髄外造血の一例  
大関 ちはや (埼玉医科大学国際医療センター 緩和ケアセンター)
- P6-139 失われたものと残されたもの — せん妄を有する非がん患者に対する生活行為を通じた緩和ケアの一例 —  
松原 三香子 (地域医療振興協会 練馬光が丘病院 リハビリテーション室)
- P6-140 血液内科病棟における造血器腫瘍患者の治療の転帰に関する看護師の認識と背景 — 終末期移行期に焦点をあてて —  
伊敷 桃子 (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 看護部)
- P6-141 他者信頼の形成不全を背景に治療拒否を呈した進行乳がん患者への多職種介入の 1 例  
加藤 文恵 (松原徳洲会病院心療内科/関西医科大学心療内科学講座)

**医療者のストレス・燃え尽き症候群  
(P6-142 ~ P6-147)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P6-142 緩和ケアにおける医療者の困難と問題解決方法に関する調査研究 多施設におけるアンケート調査から  
竹腰 悠那 (敦賀市立看護大学/高山赤十字病院)
- P6-143 緩和医療にかかわる医療者のつらさについてのスコーピングレビュー  
石原 柚奈 (敦賀市立看護大学/医療法人協和会 川西市立総合医療センター)
- P6-144 緩和ケア実践を支える短縮版 GRACE 研修の心理的効果に関する質的検討  
笹良 剛史 (友愛会 豊見城中央病院/鉄蕉会 亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科)
- P6-145 当院緩和ケア病棟における、看護師対象のデブリーフィングの活動報告  
原 理紗子 (聖路加国際病院)
- P6-146 緩和ケア病棟に勤務する看護師の仕事ストレスの明確化 — 自由記述に基づく質的分析 —  
菅野 桂子 (公益財団法人がん研究会 有明病院)
- P6-147 治療中に自殺したがん患者との関わりから学んだこと  
荒木 弥生 (社会福祉法人 函館厚生院 函館五稜郭病院 緩和ケアチーム)

**倫理的問題  
(P6-148 ~ P6-154)**

6月19日(金) 18:10 ~ 18:30 (奇数番号)  
6月19日(金) 18:40 ~ 19:00 (偶数番号)  
ポスター会場

- P6-148 倫理カンファレンス開催から1年経過後の変化 — 全看護師に対して行った勉強会の効果 —  
瀬戸 ひとみ (伊勢原協同病院 看護部)
- P6-149 友人をキーパーソンとした意思決定支援が機能しなかった一例  
後藤 麻佑 (東邦大学医療センター大森病院 緩和ケアセンター/東邦大学医療センター大森病院 消化器外科)
- P6-150 外来における倫理カンファレンス導入に向けたがん看護専門看護師の取り組み  
坂本 理恵 (国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院)
- P6-151 医療同意者不在の入所患者の治療方針に多職種カンファレンスを用いた 1 例  
谷井 しほり (国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 看護部)
- P6-152 在宅における倫理的ジレンマの解決 — 臨床倫理認定士を中心とした倫理カンファレンスを在宅でどのようにおこなうか —  
奥山 慎一郎 (訪問診療クリニックやまがた)

- P6-153 非がん終末期における医学的無益性判断と代理意思決定支援—倫理カンファレンスが促したチーム合意形成プロセス—  
明石 和子（社会医療法人 生長会 泉大津急性期メディカルセンター）
- P6-154 精神疾患をもつ人のがん治療の方針決定について～治療に対する意向の不安定さに我々医療者はどう関わったか～  
横須賀 響子（東京都立松沢病院 内科）

**概念・歴史、文化 (culture) の問題、死生学・死生観・哲学  
(P6-155)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P6-155 医療の“善意の暴力”を見つめ直す——イリイチ思想から緩和ケアと臨床倫理を再考する  
加藤 隆文（東京都立荏原病院）

**制度設計・政策・費用対効果  
(P6-156～P6-161)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P6-156 非がん疾患患者に対する緩和ケア介入の実際：当院における後方視的検討  
梶谷 美砂（川崎市立川崎病院 麻酔科・集中治療部、緩和ケア内科）
- P6-157 症例数が限られる医療機関における医療用医薬品廃棄と地域薬局の購入動向に関する一考察  
林 美香（一般社団法人 海津市医師会病院 薬剤室）
- P6-158 日本におけるがん患者の経済毒性と精神心理的苦痛の関連性の調査  
阿部 晃子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）
- P6-159 当院の過去6年間における在宅がん患者の医療費未払いについて  
川田 和弘（ゆう在宅クリニック）
- P6-160 病院でのPCAポンプ使用状況に関する個人へのアンケート調査  
石川 彩夏（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科／医療法人社団淳友会 わたクリニック）
- P6-161 地域がん診療連携拠点病院における緩和医療領域の施設基準管理と適時調査対策  
影山 雪子（公立大学法人横浜市立大学附属病院 医学・病院統括部 医事課）

**研究方法  
(P6-162～P6-163)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P6-162 陽性的中率に基づく活動関連ネットワーク解析による緩和ケアプロセス構造の可視化  
嶋田 和貴（京都大学医学部附属病院 緩和医療科・緩和ケアセンター）
- P6-163 がん関連リンパ浮腫患者における自己調整の概念モデルの構築  
高階 淳子（秋田大学医学系研究科）

**評価尺度  
(P6-164～P6-166)**

6月19日(金) 18:10～18:30(奇数番号)  
6月19日(金) 18:40～19:00(偶数番号)  
ポスター会場

- P6-164 外来通院で化学療法を受けている進行がん患者の自己有用感尺度の開発  
岡本 実保（三重大学大学院医学系研究科博士後期課程／名古屋市立大学病院）
- P6-165 日本人がん患者の心身等の包括的評価と相談支援につながる患者報告アウトカム尺度 (PRO-ACC) の開発および予備的検討  
湯本 知枝（北信総合病院 看護部）
- P6-166 一般病棟における患者報告アウトカム (PRO) 導入の試み—IPOSを用いた評価と医療者負担の検討—  
仲間 有希（市立敦賀病院 緩和ケアチーム／看護部）

- P6-167 逆縁を体験している壮年期がん患者の高齢親へのがん関連の認定看護師の看護実践  
千葉 恵子 (亀田医療大学看護学部看護学科)
- P6-168 「地域共生社会を見据えた荒尾版：地域緩和ケア連携調整員育成プログラム」～“オーガナイザー”育成に向けての取り組み～  
濱口 裕光 (荒尾市立有明医療センター)
- P6-169 呼吸困難を有する患者に対する心理療法の構造的特徴と提供方法：システマティックレビュー  
角甲 純 (三重大学大学院医学系研究科看護学専攻)
- P6-170 日本における終末期の死の受容に関する研究の動向と課題  
中木 里実 (姫路大学看護学部看護学科)
- P6-171 当院緩和ケア病棟入院前に前医療機関でがん遺伝子パネル検査が実施された患者に関する検討  
小池 和彦 (社会医療法人 札幌清田病院)
- P6-172 アンドラゴジー理論に基づいた緩和ケアリンクナース会の運営  
時岡 忠伸 (東京都済生会中央病院)
- P6-173 「人生会議」普及「施設看取り」支援等における熊本市南区の取り組み  
後藤 慶次 (熊本市南区医療介護連携分野実務者会議 (みなまる会議) ひまわり在宅クリニック)
- P6-174 緩和ケアを受けるがん患者のスピリチュアルペインに対する介入と評価方法：スコーピングレビュー  
仁張 彩音 (三重大学医学部看護学科)
- P6-175 妊娠中に乳がんと診断された患者に対する化学療法が母体および胎児に与える影響に関するスコーピングレビュー  
川尻 茉琴 (三重大学医学部看護学科)
- P6-176 終末期がん患者のせん妄治療における研究動向：スコーピングレビュー  
宮澤 悠聖 (三重大学医学部看護学科)
- P6-177 呼吸困難のある患者への複合介入：スコーピングレビュー  
山本 真里 (三重大学大学院医学系研究科看護学専攻)
- P6-178 呼吸困難を抱えているがん患者の呼吸法：スコーピングレビュー  
谷田部 史華 (三重大学大学院医学系研究科看護学専攻)
- P6-179 緩和ケア病棟における心理実習が心理学専攻学生(大学・大学院)の学びに与える影響に関する研究  
西内 俊朗 (川口短期大学/川口市立医療センター患者支援センター)
- P6-180 緩和ケア専門研修プログラムへの参加—総合診療医としての初年度の経験—  
戸田 每哉 (富山県立中央病院緩和ケア科)
- P6-181 急性期総合病院における看護師の倫理的問題への対応や倫理的課題の現状調査  
岩崎 多津代 (国立病院機構東京医療センター 看護部)
- P6-182 日本の婦人科腫瘍医における緩和ケア実践と教育ニーズに関する多施設横断研究：全国調査に向けたパイロット研究プロトコル作成  
鶴賀 哲史 (都立駒込病院 緩和ケア科)
- P6-183 救急及び緩和医療を要する入院患者における患者複雑性評価に関するスコーピングレビュー と5ドメインフレームワークの検討  
神山 哲男 (埼玉医科大学病院 緩和医療科/埼玉医科大学病院 救急科/埼玉医科大学病院 緩和ケアチーム)
- P6-184 「食の楽しみ」が芽吹くとき～楽しみはいかにして生まれるか～  
大谷 弘行 (聖マリア病院 緩和ケア内科/九州がんセンター)
- P6-185 がんに関連した健康食品による補完代替療法の SNS 上の情報の信頼性  
佐藤 一樹 (名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻)